

43055

教科書文庫

4
290
44-1941
20000 41419

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



# 實業地理教科書

佐藤弘著

概說之部



改訂版

東京三省堂大版

教

4

20

日五十二月二年六十和昭  
濟定檢省部文  
用科理地校學業實

授教學大科商京東  
師講部學濟經學大國帝京東

教科書文庫  
4  
290  
44-1941  
2000041419

資料室

3769  
Sd20

著 弘 藤 佐

# 實業地理教科書

部 之 說 概

版 訂 改

広島大学図書  
2000041419  


阪大 堂 省 三 京東



### 序

本書は著者が曩に編纂した實業地理教科書概説之部に改訂を加へたもので、中等程度の實業學校地理科の教科書に供する目的をもつて編纂したものである。著者の實業地理教科書は三部からなり、本書はそのうちの概説之部であつて、日本之部、外國之部と相合して一全體をなすものである。本書を改訂編纂するに當つて著者が特に留意した主なる事項は次の通りである。

(一) 文部省の新教授要目に準據し、眞に日本精神を涵養する地理教科書たるやうに努めた。

1 序  
(二) 地理學的研究の根本指導原理とされてゐる地人の交互作用の原理に基いて説明的な論述を進め、出來るだけ獨斷を避けると共に、その論述の間に自らこの原理そのものの本質を理解せしめるやうに努

めた。

(三) 實業教育中等教育の本旨に鑑み、人文地理、經濟地理、政治地理の論述に重きをおき、自然地理はそれを學ぶための基礎知識として論述する程度にとどめた。

(四) 帝國中心の論述を行ひ、地理的事實は出来るだけ帝國に求めるやうに努めた。

(五) 帝國及び列國の國勢への省察が強く要求されてゐる現下の世界情勢に鑑み、帝國及び列國の國勢を各方面より分析し、これを通じて帝國及び列國の國勢の全貌を闡明せんと努めた。

(六) 國力を傾注して東亞新秩序の建設が進められてゐる現勢に鑑み、東亞新秩序の必然性、東亞新秩序に於ける帝國の地位等について特に詳細な論述を行つた。

(七) 地理學上の價値の多い地圖寫眞を出来るだけ多數挿入し、もつて生徒をして本文の論述の理解を助けるとともに、地理の學習に興味を

もたしめるやうにした。

(八) なるべく平易、達意、明快な文章をもつて論述し、生徒をして文章の理解のために餘計な勞力を費すことを避けしめ、もつて教科書に近づき易く自學自習のできるやうに努めた。

本書は以上のやうな方針をもつて改訂編纂されたものであるが、これを一貫する根本の主義は簡にして要を得るといふことにある。併し著者の不敏にして、思ふところが實現せず、不備の點も少くないと思はれるので、この點は實際教授にあたられ、經驗のある教官諸氏の御叱正を得てこれが完成を他日に期したいと思ふ。最後に本書に寫眞圖版を掲載させて戴いた多數の先學諸氏に心からなる謝意を表する次第である。

昭和十五年十二月

目次

第一章	自然地理的環境	一
一	地球(一)	
二	陸地(一五)	
三	海洋(三三)	
四	氣候と生物(五九)	
第二章	農業	五三
一	農業(五三)	
二	重要農産物(五七)	
第三章	牧畜業と養蠶業	六四
一	牧畜業(六四)	
二	養蠶業(六九)	
第四章	林業	七一
第五章	漁業	七四
第六章	鑛業	七六
一	鑛業(七六)	
二	重要鑛産物(八〇)	
第七章	工業	八六

目次	2
一 工業(八六)	二 重要工業(九二)
第八章 商業	..... 九六
第九章 交通	..... 一〇三
一 交通(一〇三)	二 陸上交通(一〇五)
	三 水上交通(一一〇)
	四 航空交通(一一七)
第十章 通信	..... 一二〇
第十一章 住民	..... 一二四
一 住民(一二四)	二 聚落(一二三)
第十二章 政治	..... 一三五
一 國家と國民(一二五)	二 國家の位置と國境(一二九)
	三 國家の成長と植民地(一四三)
四 國家と經濟(一四六)	

目次終



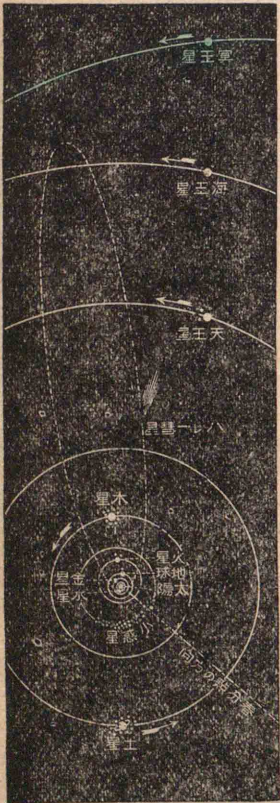
實業地理教科書 概説之部 改訂版

第一章 自然地理的環境

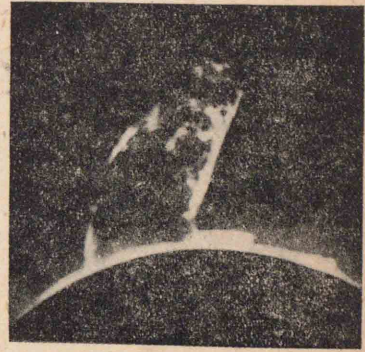
一 地球

第一章 自然地理的環境

宇宙 晴夜天空を仰ぎ見れば無数の星が輝き、概ね東から西に動いて見える。これらの星は恆星・遊星・衛星に分けられる。恆星は見かけ上相互の位置を變じない星で、自ら光を放ち、且つその多くは群をなして星座を作る。遊星は惑星とも稱し、恆星(太陽)の周圍を運行する。衛星は遊星に附屬してその周圍を運行する。恆星の数は十億乃至二十億に達すると云はれる。かの銀河は、非常な遠

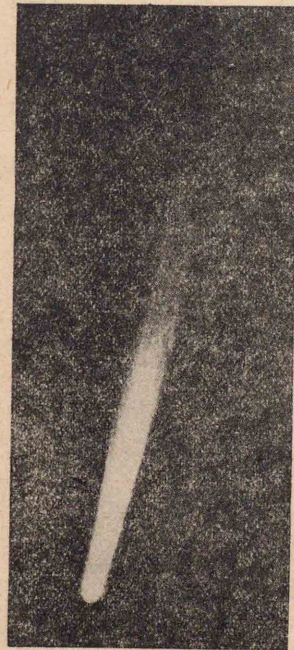


太陽系の諸星



太陽の紅焰

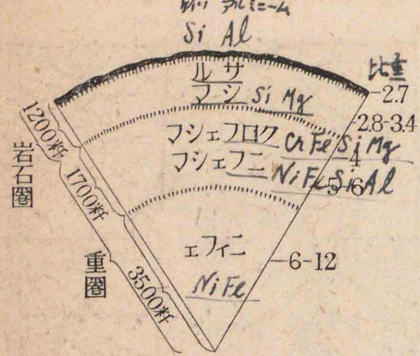
方に同方向に群がつてある恆星の集團である。かくの如き無数の星辰を包含する廣大無邊の空間を宇宙と稱する。太陽系 太陽は恆星の一で、強烈な熱と光とを發するが、表面には處々に暗色の黒點がある。太陽の周圍には水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星の九大遊星と約一千の小遊星とがある。遊星は概ね一箇又は數箇の衛星を伴ふ。これらの遊星と衛星とは略、同一平面上にあつて同一方向に向ひ、一定の軌道を通つて太陽の周



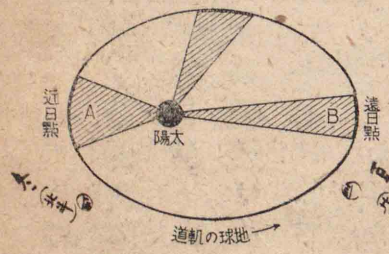
ハレー彗星



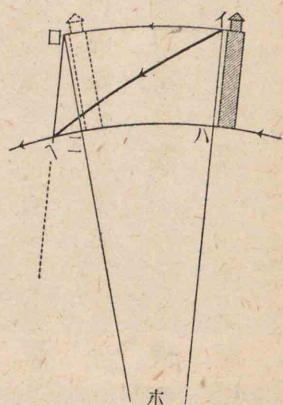
アンドンメダ星雲



地球の椭圆形であつて、太陽は一方の焦點を占める。地球の外皮を地殻と稱し、その比重は二・八で地球の比重は五・五よりも著しく小さく、これに於て地球の内部は重い物質から成ることがわかる。地球の衛星で、地球を中



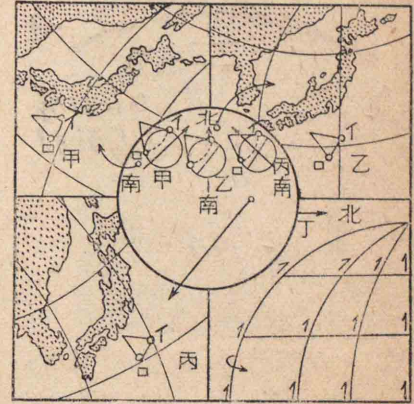
地球の公轉



太陽を圍を廻轉する。太陽を落中心としたこれらの一群の星を太陽系と云ふ。地球は太陽系に屬する一遊星で、太陽

地球自轉の證據  
一、高所から落した物体が東偏すること  
二、貿易風が東北・東南から吹くこと  
三、北極星を中心として天體が左轉すること

の周圍を自轉しつゝ、公轉する。一自轉は約二十四時間、一公轉は約三百六十五日四分の一を要する。公轉の軌道は圓に近



理原の子振のーコーフ

甲の位置で振子を南北即ち午子線の方向に運動せしめられ地球が自轉して乙丙の位置に至れば振子の方向は變らないが午子線の方向は變るので振子の方向が變つたやうに見える。

心として自轉しつゝ公轉する。その自轉と公轉との週期は共に二十七日餘であつて、それがため

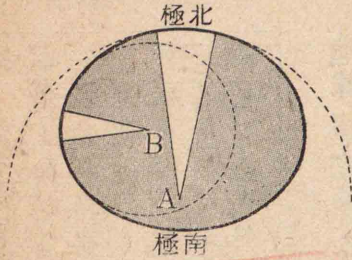
し面を地球に向ける。月には空氣も水もないが、その半面は太陽の地球に對する位置によつて、朔・新月・望・満月及び上弦・下弦等の現象を生ずる。

日食・月食 月は地球の周圍を公轉しつゝ更に太陽の周圍を廻轉するので、太陽地球・月の位置によつて、月が地球の影に入り



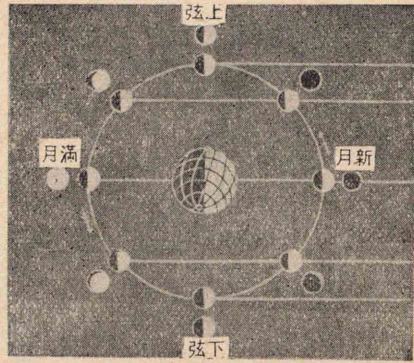
面表の月

地球は球體であることが明らかとなつた。併し

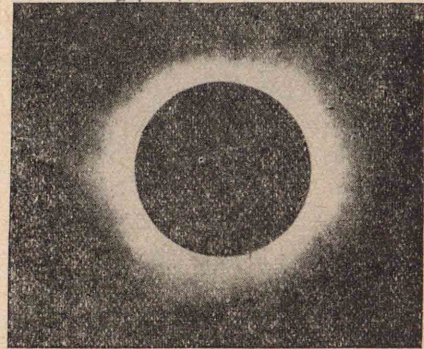


證るあで體圓楕が球地  
地極れぞれそはB・A  
二るあに近附道赤と  
の線垂たし下らか點  
を度角のそ、で角すな  
はに爲るすくし等  
しに大を弧の方の地  
ぬらなばれけな

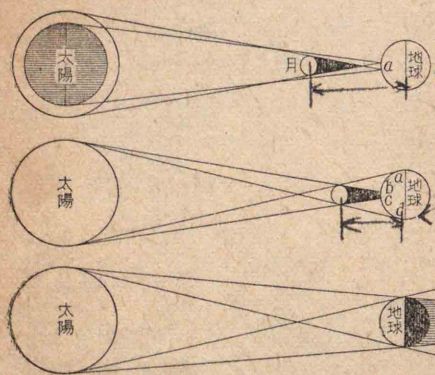
平かで無限に  
擴がつてゐる  
と考へられた  
こともあるが、  
その後研究の  
進むにつれて



虚盈の月



食日既皆



食日と食月

又地球が月の影に入るこ  
とがある。前者を月食、後  
者を日食と云ひ、共に部分  
食と皆既食とがあり、別に  
日食には金環食がある。

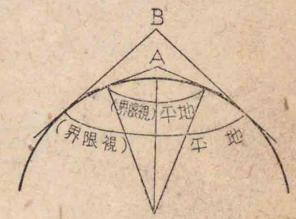
地球の形状

扁平楕圓體

見から



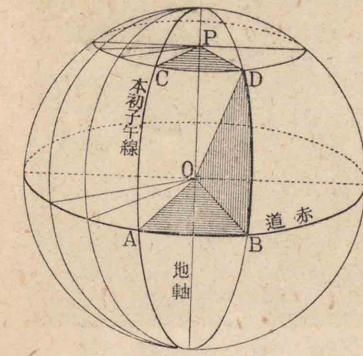
- 地球が球體である證據**
- 一、海上又は平野に於ける視界が圓く、且つ觀察點が高まるにつれて擴大すること
  - 二、港に近づく船は最初橋頭が見え、次第に船舷が認められるやうになること
  - 三、月食の時地球の陰影が圓形をなすこと
  - 四、世界を周航することの出来ること



視界の擴大すま

地球は完全な球體でなく、その廻轉によつて生ずる遠心力のために南北に稍、扁平な橢圓體である。

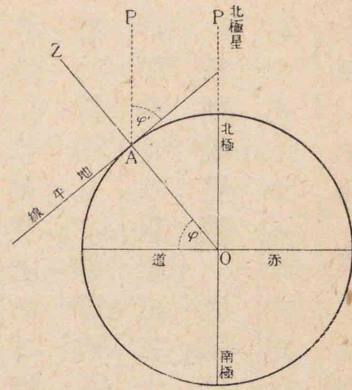
**緯度と經度** 地球の表面上の



位置は緯線と經線との交點によつて定める。緯線とは赤道に平行な地表上の線、經線とは兩極を通過する地表上の大圈で、共に緯度、經度を以てあらはされる。緯度は赤道と緯線とを地心に結んで得られる角度で、赤道を基線として

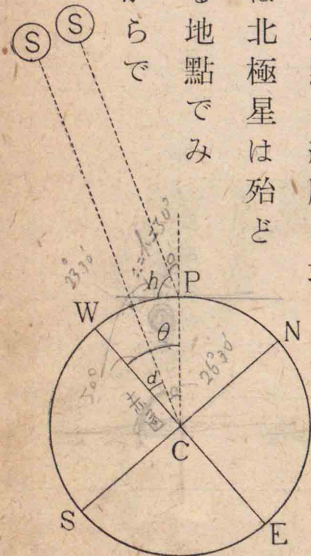


地球が球體である證據

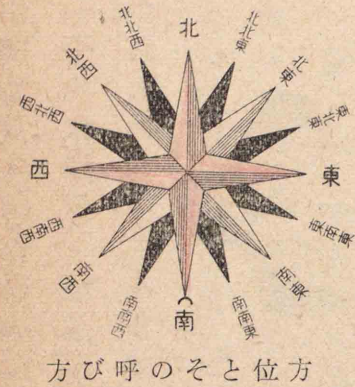


北零度より南北各九十度に及ぶ。經度とは二つの經線が赤道と交はる二點と地心とを結んで得られる角度で、イギリスのグリニッチ天文臺を通過する經線を基準として零度より東西各百八十八度に及ぶ。ある地點の經度を測定するにはその地點の地方時と、既に地方時の判明してある

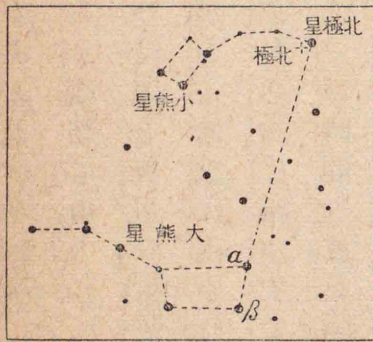
地點の地方時との時差を測ればよい。これは地球の自轉は二十四時間であるので、緯度十五度を隔てた地點の地方時には一時間の時差があるからである。又北半球に於けるある地點の緯度は北極星の高度を測つて定める。これは北極星は殆ど地軸の延長上に位してゐるからある地點で見た高度はその地の緯度と一致するからである。尙緯度は正午に於ける太陽の高度を測つて知ることが出来る。



太陽による緯度測定

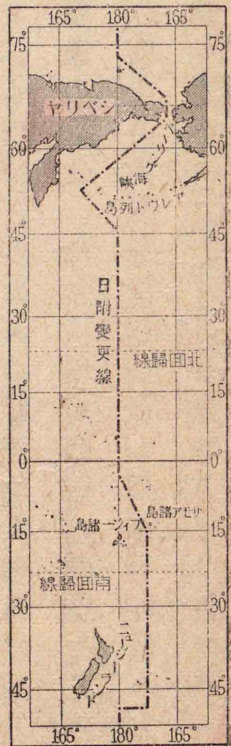


方び呼のそと位方



北極星の方位 地平線北極  
 北極星の直下に當る方位を  
 北とし、これに反する方  
 位を南とし、南北線に直  
 交する直線によつて東  
 西の方位を定める。方

經度十五度を進む毎に時  
 計を一時間宛おくらせ、三  
 百六十度を進めば二十四  
 時間おくらせ、日數が一日  
 少くなる。又反對に東に進み、地球を一週すると日數が一日多くなる。  
 つまり何れに向つてもその間に一日の差が生ずるわけである。この差  
 を除くために太平洋中に日附變更線を設け、この線を東に越せば同じ日  
 附を繰り返し、西に越せば一日を省くことにしてゐる。



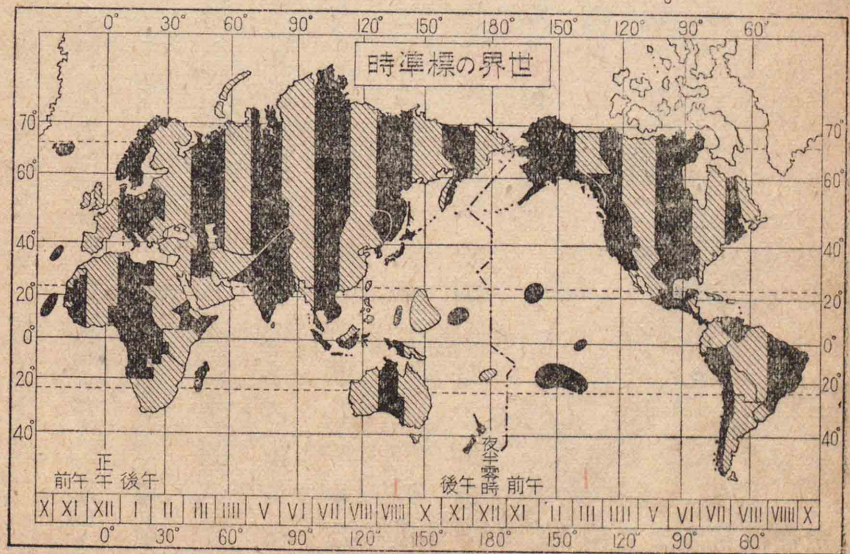
線更變附日

### 標準時

地球は約二十四時間で太陽  
 に對して一自轉するので、經度十五度毎  
 に一時間の時差を生じ、又經度がいさゝ  
 かでも違へば地方時が違ふわけである。  
 而してある地點の地方時の正午とはそ  
 の地に於ける太陽南中の時刻である。  
 この地方時が各地で區々としてゐて人  
 事百般に不便であるので、ある地域内の  
 各地では便宜上ある地點の地方時を一  
 般に採用して標準時と定める。我が國  
 の標準時は東經百三十五度による。

### 日附變更線

太陽は東から西に進む  
 のであるから、地方時は西に進むにつれ  
 ておくれる。従つて西に向ふ旅行者は



位は通常磁針を用ゐて知ることが出来る。

平均太陽日 恆星がある地點に南中して

から次に南中するまでの時間を恆星日、太陽

がある地點に南中し

てから次に南中する

までの時間を眞太陽

日と稱する。地球の

公轉速度は軌道上の

位置によつて違ひ、眞

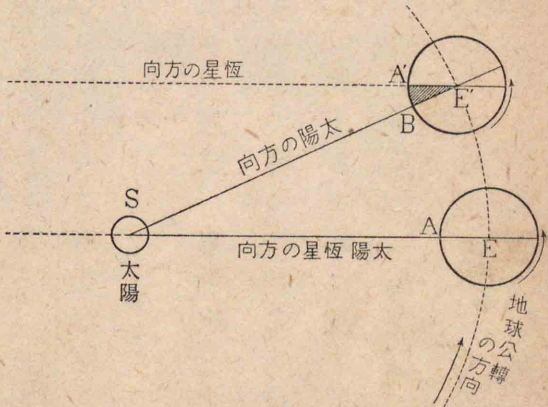
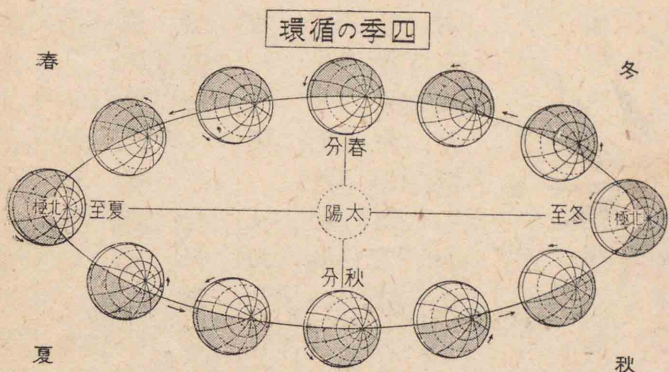
太陽日の長さは一定してゐないので、これを平均

して二十四時としたものが平均太陽日である。

四季の變化 地軸は地球公轉の軌道に凡そ六

十六度半の角度を保ち、しかも公轉中地軸の方向

を變へないので、赤道以外の地方では晝夜の長短



恆星日と眞太陽日との異なる理由

四季の變化が生ずる。即ち地球が春分點秋分點に

ある時は地球上到る處で晝夜の長さが等しく、北半

球の春又は秋、南半球の秋又は春となる。夏至には

太陽が北回歸線上を直射するので、北半球では夏と

なり、高緯度になる程晝が長く、北極圏内では日夜を

見ないが、南半球では冬となり、高緯度になる程夜が

長く、南極圏内では日出を見ない。冬至には太陽が

南回歸線上を直射してこれと反對の現象が生ずる。

曆 主に季節を知るために作られ、太陰曆と太陽

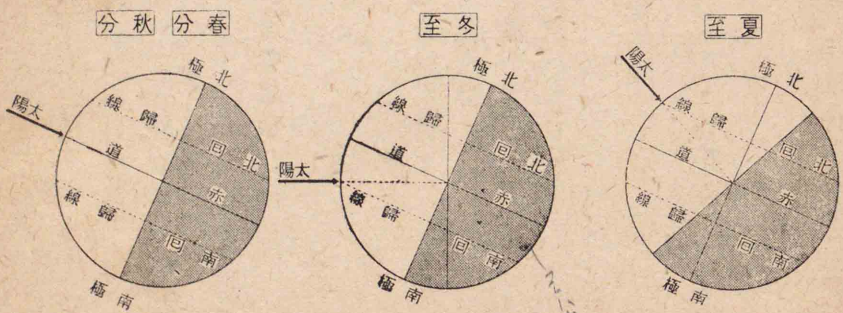
曆とがある。太陰曆は月の運行を標準とした曆で、

我が國でも従来用ひられたが、正確ではないので、今

日では太陽曆が採用されてゐる。太陽曆は太陽の

運行を標準とした曆で、一年を三百六十五日と定め

この年を平年となす。然るに公轉の週期はこれよ



晝夜の長短

語の上層るれらひ用に般一

春分	太陽が赤道を直射し各地の晝夜平分(三月二十一日頃)
秋分	同 (九月二十三日頃)
夏至	北半球では晝が最も長く夜が最も短い(六月二十一日頃)
冬至	北半球では晝が最も短く夜が最も長い(十二月二十三日頃)
立春	冬至と春分との間(二月五日頃)
立夏	春分と夏至との間(五月七日頃)
立秋	夏至と秋分との間(八月九日頃)
立冬	秋分と冬至との間(十一月八日頃)
節分	立春の前日
彼岸	春分・秋分を中心とした前後の三日宛即ち七日間をいふ
入梅	六月十二日頃で之から凡そ二三十日の間は霖雨が多い
土用	四季の後期五分の一(夏季の土用のみを特に汎稱する)
八十八夜・二百十日・二百二十日	いづれも立春から數へた日數

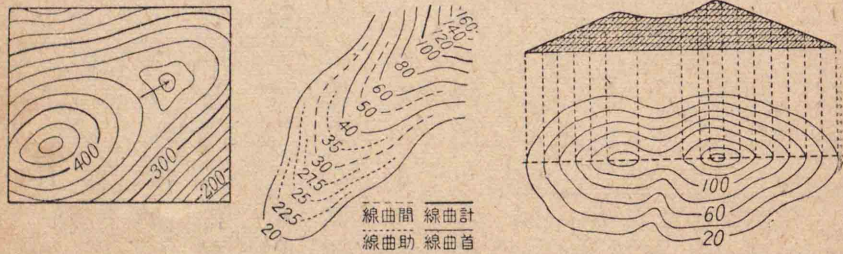
通常春夏秋冬の起點

りも長く四年に一日弱の剩餘を生ずるので、四年目毎に閏年をおき、三百六十六日とする。しかし四百年たつと三日不足するので、百年・二百年・三百年の各閏年を平年とする。

地表狀況の表現 地球表面の狀況を表現する方法には地球儀による

方法と地圖による方法とがある。地球儀は地球に象どつて作られた球模型で、その表面に地球表面の相貌や經緯度等が記入されてゐる。地球の眞の形を示すには最も理想的であるが、作成が面倒で、大きさに制限があり、又取扱ひも不便な缺點がある。地圖は地球表面上の相貌を平面上に表現したもので、作成が比較的容易で、取扱ひも便利であるが、球面を平面に表すのであるから、根本的に無理があり、次の如き種々な描圖法があるが、そのいづれも距離・方位・面積のうちどれかが必ず不正確となる。従つて地圖は使用の目的に應じて適當な描圖のものを使用する必要がある。

投影法 地圖を描くには先づ經線と緯線とを正確に描かなければならぬ。これを描く方法を投影



法描の地陷凹 類種のそび及線高等 法描の線高等

法と稱し、これには種々あるが大別して次の三方法とする。

1. 透視圖法 一定點を視點として地球の經緯線を畫面に透視すると考へる圖法である。直射圖法は視點を無限大の距離に置いて經緯線を地球の中心に立てた紙面上に投影する。平射圖法は視點を地球表面上に置いて反對側を眺め、地球の中心に立てた紙面上に投影する。心射圖法は大圈圖法ともいはれ、視點を地球の中心に置き、地表に切する紙面上に投影するもので、地表上の二點間の最短距離が直線を以て示される。

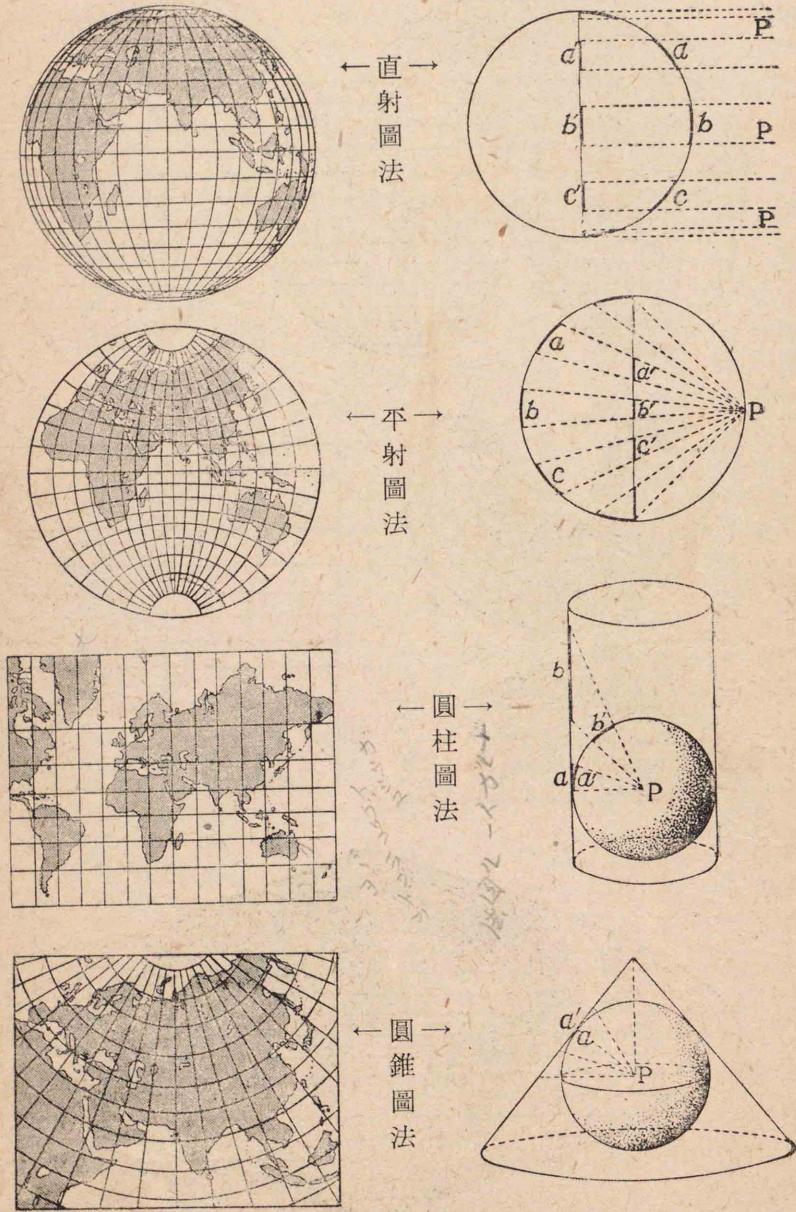
2. 展開圖法 地球を圓柱形圓錐形の紙面で包み、これに投影した後に紙面を展開する圖法である。

圓柱圖法は視點を地球の中心に置き、地球を取巻く圓柱形の紙面に投影する。メルカルト圖法はその一である。

圓錐圖法は視點を地球の中



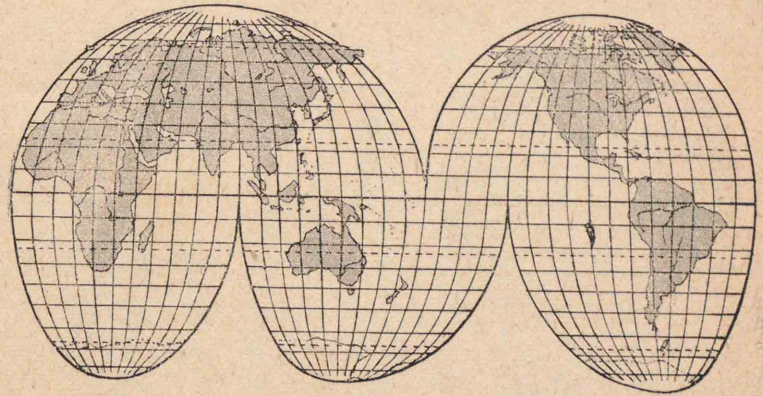
各種地形描寫  
 (上) 看取圖式  
 (中) 量滄式  
 (下) 等高線式



陸地 地球の表面は陸界・水界から成り、氣界がこれを取巻いてゐる。陸地は地球表面の面積の三割に過ぎず、大部分は北半球にある。尙地球は陸地の大部分を含む陸半球と、殆ど水に被はれた水半球とに分けられる。大陸には多くの半島・岬角があつて、海上に向つて突出し、これに島嶼

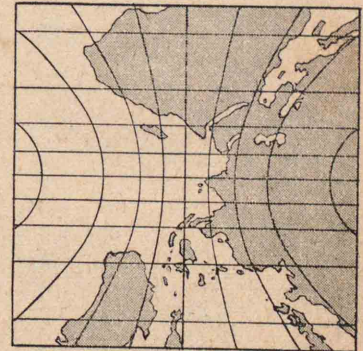
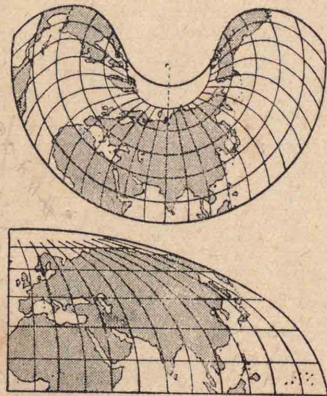
## 二 陸地

心に置き、或緯線で地球に切して地球を包んだ圓錐形の紙面に投影する。  
3. 任意圖法 以上の諸圖法を基礎として任意に工夫改良したもので、グーズ氏圖法・ボンヌ氏圖法・モルウェイド氏圖法等がある。  
地圖の種類 目的に応じて種々な地圖が作られてゐるが、その主なものは地形圖、地質圖、産業圖、交通圖、政治圖、航空圖等である。地形圖は縮尺と圖式とに従つて地形を明示する地圖であつて、あらゆる地圖上最も重要なものである。而して土地の高低起伏の表現には等高線又は暈滂(毛羽)を用ゐ、又時には暈渲(ぼかし)又は段彩を施すことがある。

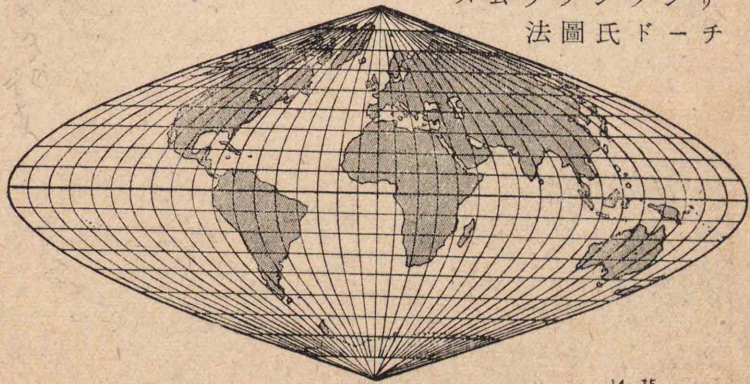


射心(大圈)圖法

モルウェイド氏圖法

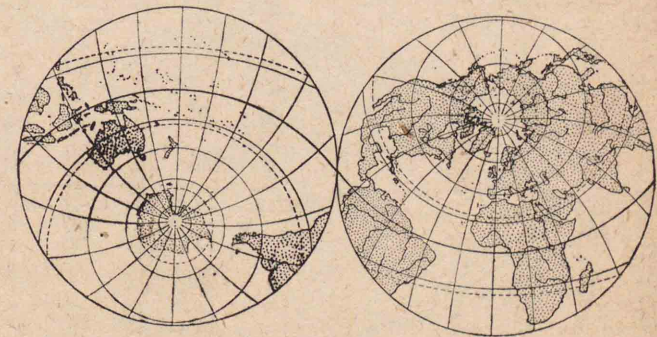


サンプソン氏圖法

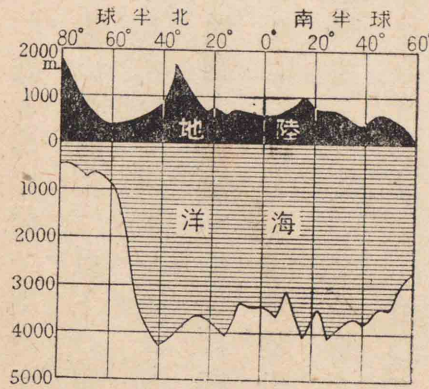


が附屬する。島嶼半島岬角を水平的肢節といふ。陸地の表面は高低起伏が様々で、平野、臺地、山地がある。臺地、山地を垂直的肢節と呼ぶ。又陸地の間には河川が流れ、湖沼が介在する。

陸地の變動 地表の状態は永久不變のやうに見えるが、實は絶えず變化してやまない。而してこの變動を惹起する營力は地球内部から起り、火

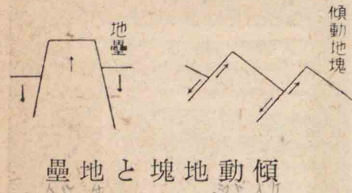


球半水と球半陸

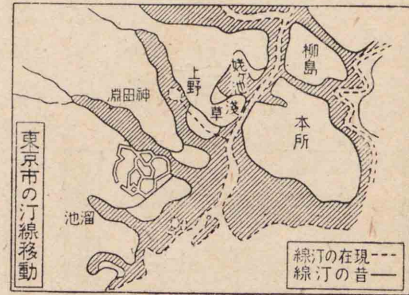


山地、地震、地殻の昇降等の内力作用と、空氣、水、生物等の外界から來る外力作用とである。  
陸地の昇降 地球の表面は徐々に動き、そのために土地は隆起したり、沈降したり、又褶曲をうけて高い山地や深い盆地が作られ、又地殻が

截斷されて斷層を生ずる。斷層のために急峻な傾斜面を生じたものを斷層崖と稱し、これが一方だけに存すれば傾動地塊と呼び、兩側に存すれば地壘と稱し、斷層に挟まれた狹長な陷沒地を地溝といふ。

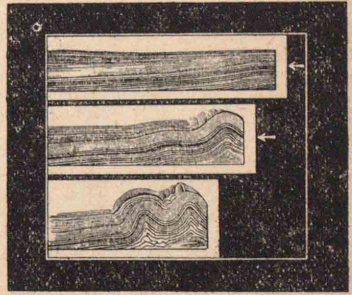


傾動地塊と地壘



- 土地隆起の證**
- 一、海面より高い懸崖に海蝕の跡があること
  - 二、汀線以上の地に海棲生物の跡があること
  - 三、海岸段丘が存在すること
  - 四、三角洲が發達すること
- 土地沈降の證**
- 一、海底に森林の跡があること
  - 二、陸上の建築物、地物等が海中に存すること
  - 三、三角江が發達すること
  - 四、溺谷が存すること

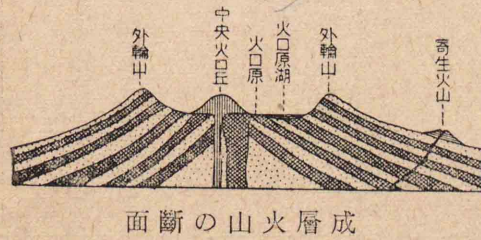
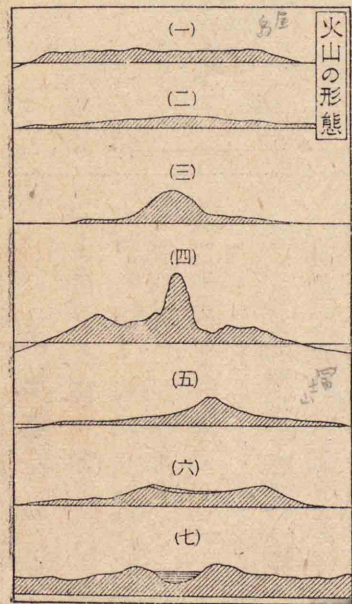
火山 地球の内部の熔融した高温なものを岩漿と稱し、かゝる岩漿又は水蒸氣が地殻の弱所を破つて地上に噴出し、又は地殻の内部に侵出する作用を火山作用と稱し、噴出物は堆積して火山を作る。火山の噴出に際しては、水蒸氣



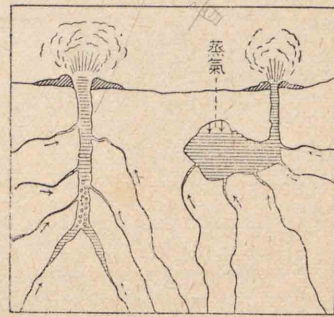
側曲のほか炭酸瓦斯・一酸化炭素・硫化水素・亞硫酸ガス  
力等の氣體や、又熔岩の破片たる火山弾・火山礫・火山  
炭・火山毛等を出す。火山灰は氣流によつてはる  
か遠方にまで飛散し、又熔岩も山腹に沿つて遠方  
にまで達することがある。

死火山に分つ。又内部の構造によつて成層火山・塊狀火山  
に、外部の形状によつて單式火山・複式火山に分つ。尙シユナ  
イダーは形状や山

體を構成する物質  
を標準としてコニ  
イデー式、トロイデー式、  
ホマーテ式、ペヂオ  
ニーテ式、アスピ  
ニイテ式



成層火山の断面

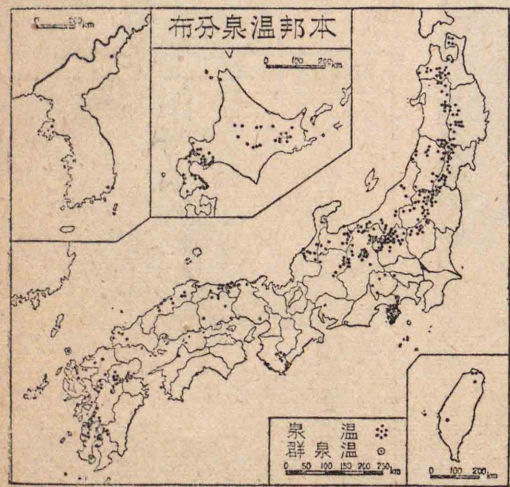


間歇泉、噴出物は風景が美しいものが多く、又そのために湖沼瀑布  
人畜に甚大な被害を與へることがある。併し火山  
は風景が美しいものが多く、又そのために湖沼瀑布  
などが生じ、殊に温泉を伴ふ場合が多いので保養遊  
覽地となる。又火山  
テ式、ペロニーテ式及びマイル等に分つてゐる。  
岩塔式、爆裂火山

の裾野は好牧場となり、火山灰の被覆した  
地方は耕作に適する。

噴氣孔 火山活動の餘勢として生じ、諸  
種の瓦斯體液體を噴出する。蒸氣孔、炭酸  
孔、硫氣孔等がある。

温泉 地熱のために温められた地下水  
が地表に湧出するものを温泉と稱し、火山  
活動の餘勢として生ずるものが多い。温

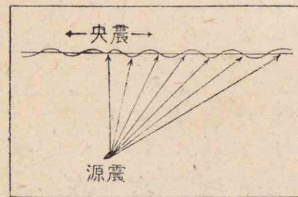
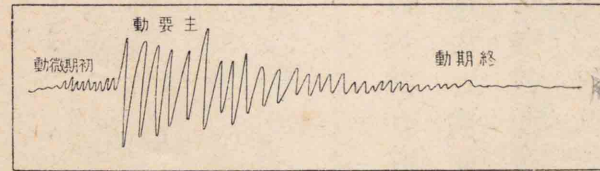




泉は含有する物質により硫黄泉・鹽類泉・炭酸泉・酸性泉・單純泉・ラデウム泉等に分けられる。又溫泉のうちには間歇泉と稱し、時を定めて週期的に蒸氣・熱湯等を噴出するものがある。

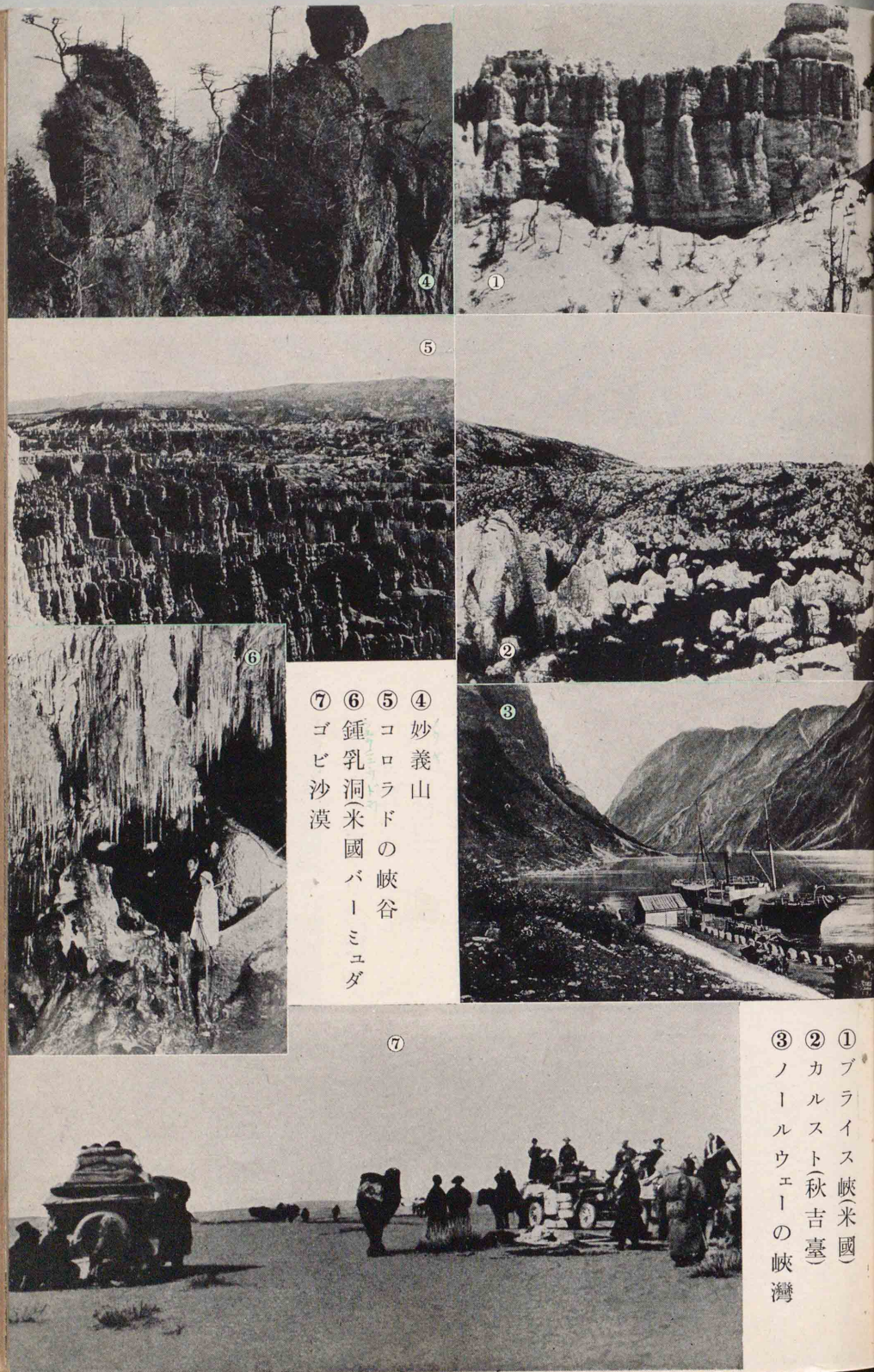
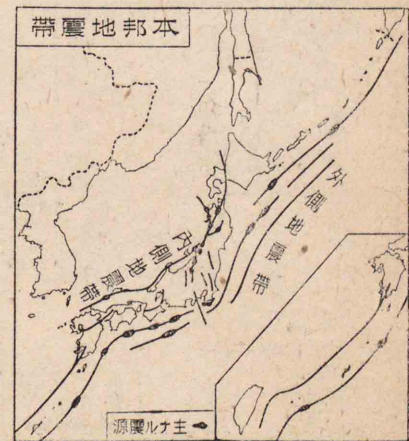
**地震**

地震は地殼の一部に急激な變動が起り、その波動が次第に遠方に傳はつて行く現象を地震と稱する。地震は火山の活動や地下の洞穴の陥落などによつても起るが、斷層によつて起るものが最も大きく、又最も多い。



地震は通常初期微動に始まり、次いで主要動となり、最後に微弱な終期動に終る。地震は中央震と地盤の弱い所に多いので、その分布は火山の震源分布と概ね一致する。

**震災豫防** 地震は甚大な災害を生ずるこ



④ 妙義山  
⑤ コロラドの峽谷  
⑥ 鍾乳洞米國バーミユダ  
⑦ ゴビ沙漠

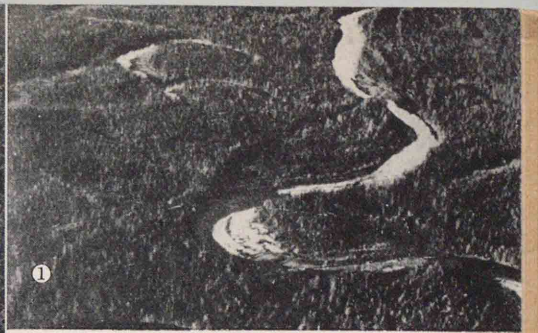
① ブライース峽米國  
② カルスト(秋吉臺)  
③ ノールウエーの峽灣

とが少くないので、震災を豫防するためには各種の注意が必要である。即ち先づ家を建てるには、基礎工事を堅固にし、建物は耐震構造とし、出来得れば鐵骨鐵筋コンクリートとするのがよい。又地震の際は火元に注意し、沈着に避難しなければならぬ。屋内の一時の避難は堅牢な家具の側をよしとし、屋外では瓦壁等の墜落する恐れのある所を避け、煙突石垣等の側に近寄らず、又海岸では津波、山間では崖崩れや山津波に注意しなければならぬ。

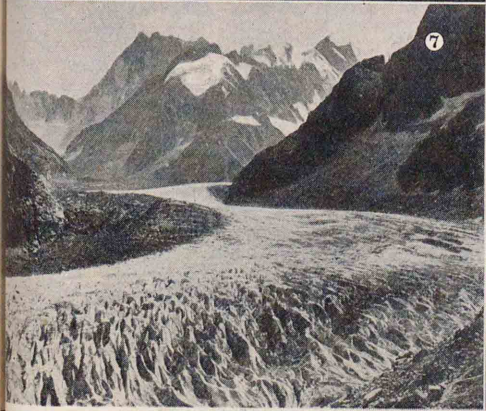
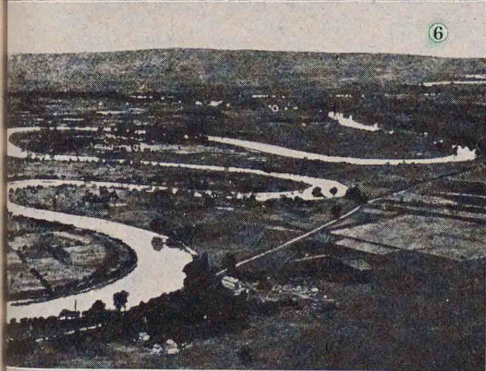
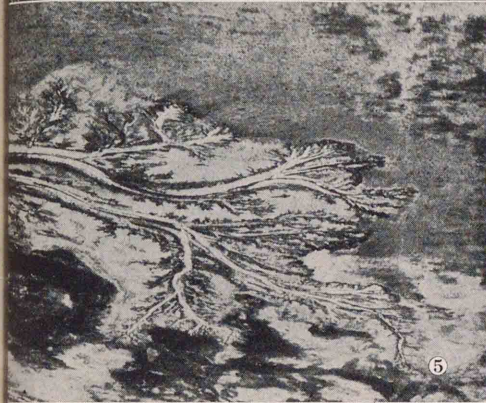
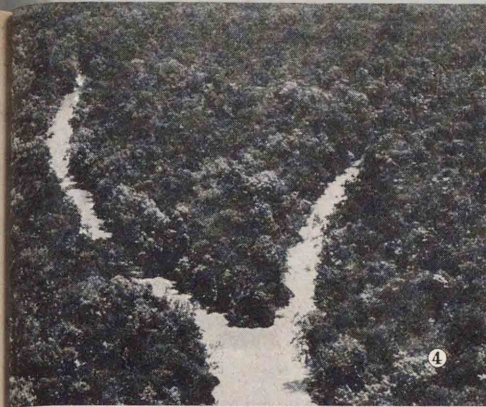
**水の作用** 水は氣體、液體、固體の三體に變化しながら、地表に物理的化學的作用を加へる。

地震の分類

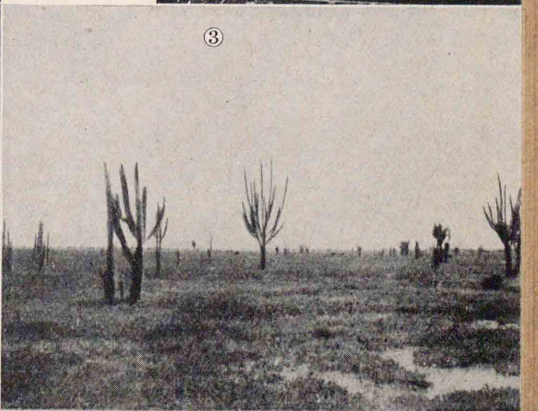
微震	靜止してゐる人又は注意深い人のみの感じ得る極めて輕微なもの
弱震	一般の人が感じて、戸障子が鳴り、釣ランプ及び垂下した物體又は液體が振動するもの
強震	坐りの悪い物體が顛倒し、液體が溢出し、振り時計は停止し、石門、右燈籠が顛倒し、古い家屋や土藏が破壊し、古い牆壁に龜裂を生ずるもの
烈震	山岳を崩壊し、家屋を倒すに至るもの

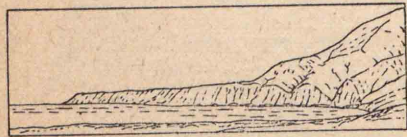


① シベリヤの大森林  
② 蛇行(スコットランド)  
③ リヤノスの一部  
④ 熱帯原始林(ギヤナ)

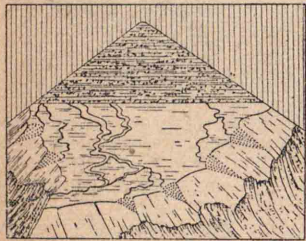
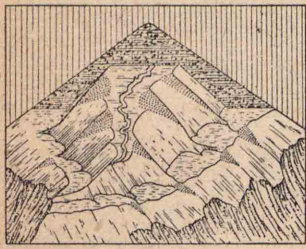


⑤ 沙漠中の扇狀地  
⑥ 蛇行(インド)  
⑦ 水河(アルプス)





丘段岸海

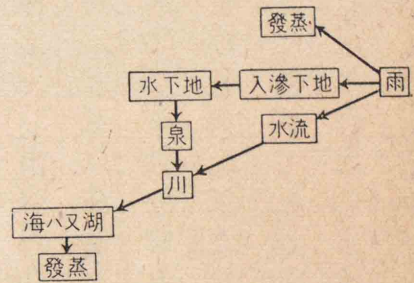
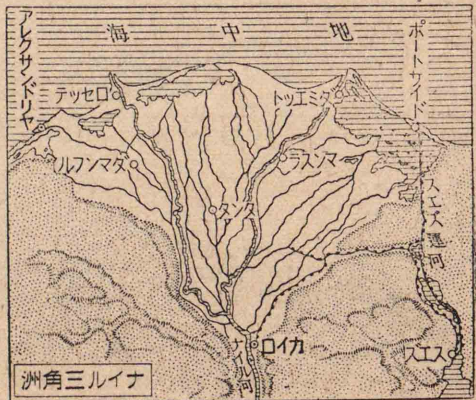
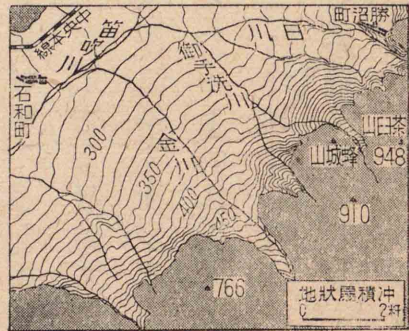


丘段として、海水の作用を営む。海水の破壊作用は主に波浪により、これを海蝕作用と稱し、海蝕崖、海蝕洞

が國到る所の河岸に見られる河岸段丘も河川の侵蝕作用の結果作られたものである。

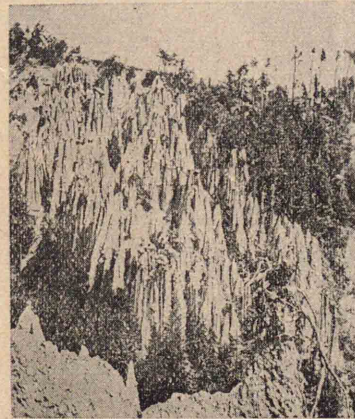
四、海水の作用 水は海水

切つて横谷を作る。中流では侵蝕物を運搬し、下流ではその運搬物を沈澱堆積する。谷口に發達する扇狀地、河口に發達する三角洲、河畔の沖積平野はこの堆積作用の結果生じたものである。又我

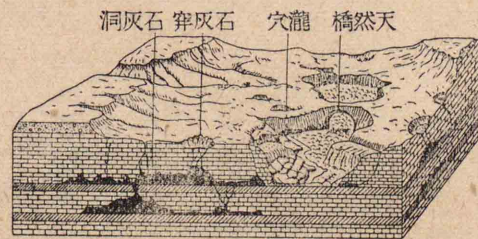


一、雨の作用 水は雨となつて地上に降下し、地盤を崩す。地盤に硬い部分と軟かい部分とがあれば、水一部を侵蝕し、一部を残し、奇岩、怪石や土柱を作る。二、地下水の作用 雨水は地中に滲入して地下水となり、或る深さに達するとそこに停滞するが、泉となつて湧出することがある。地下水は種々な物質を溶解する。

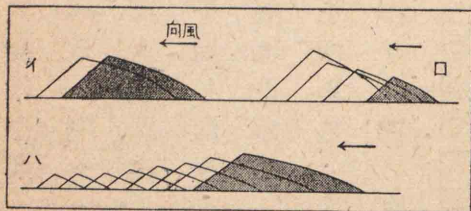
石灰岩地方では地下水の溶解作用の結果地下に空洞を作られることがある。三、河水の作用 雨水又は地下水は集つて河川となる。河川は上流では侵蝕作用を行ひ、V字形の峡谷を作り、時には山脈を横



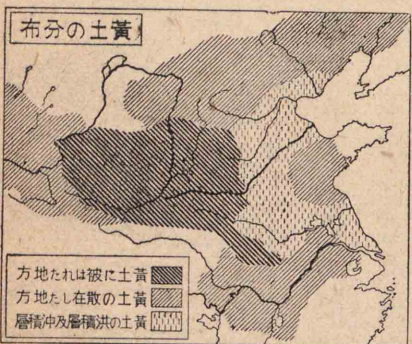
(ルーロチ) 土柱



形地トスルカ



行進の丘砂



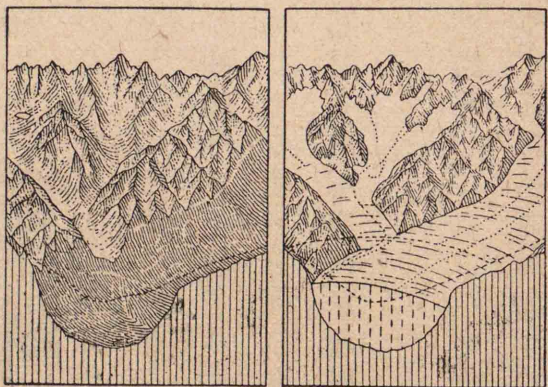
方地たれは被に土膏  
方地たし在散の土膏  
層積沖及層積洪の土膏

蝕された谷はU字形をなし、懸谷がこれにかゝる。氷河は融解する末端部に堆石を捨て、時に水を堰き、湖沼を作ることがある。

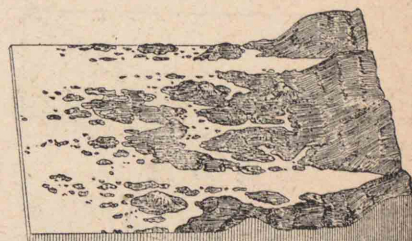
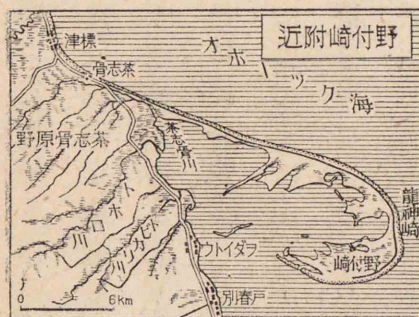
**大氣の作用** 大氣の溫度變化は、地表に露出する岩石を物理的に破碎し、又炭酸瓦斯酸などはこれを化學的に分解する。殊に雨水を伴へばその作用は著しい。この現象を風化作用と稱する。風は砂を伴つて岩石を衝撃し、これを破壊する。又砂塵を遠方に運搬し、堆積することがある。砂丘はこの結果作られたものである。

**生物の作用**

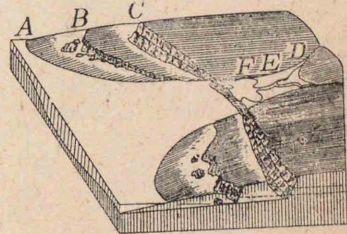
生物も地形に著し



蝕侵の河水と氷河



棚蝕海



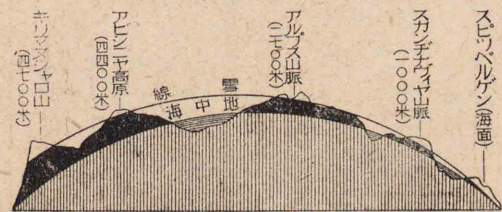
して地形を變化する。高山又は極地で雪が厚く積り、萬年雪となつて下方に移動するものを氷河と稱する。氷河は數百米から千米以上の厚さをもつ。移動の速度は極めておそいが、地盤を著しく侵蝕する。氷河によつて侵

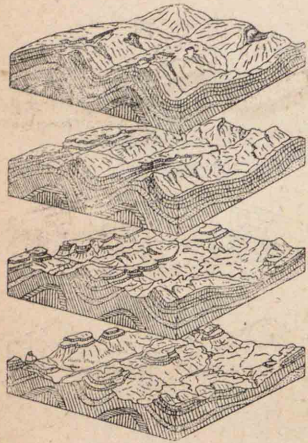
隆起はその結果作られる。その堆積及び作用は砂嘴、砂洲、陸繋島、潟湖など及び堆積を作る。又海岸段丘も海蝕作用の沈積の沈積の一結果である。

**五、氷河の作用** 水は氷河となり、固體と



成生の湖河水



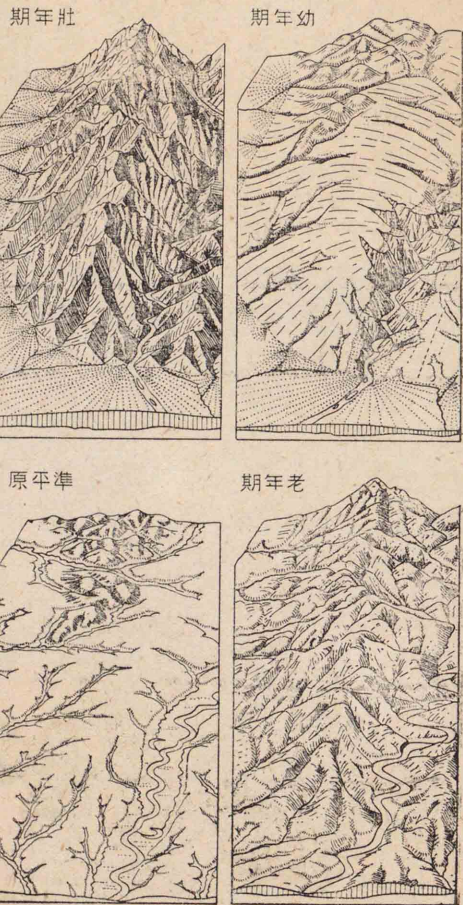


曲褶山地の侵蝕  
進行

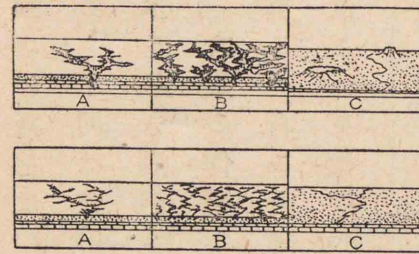
の變化には一定の順序があり、幼年期から始まって壯年期・老年期となり、最後に準平原となつて變化を終る。この變化の系統を地形の輪廻又は侵蝕の輪廻と呼ぶ。  
山地 陸面に聳立せる土地の高所で、褶

目のやうになつたのである。この内力の作用で土地が隆起して新たに生じた時は、直ちに外力がこれに侵蝕作用を加へ、地表を平坦にし、海洋面に等しい水準に達せしめる。かくて地形

地形の輪廻

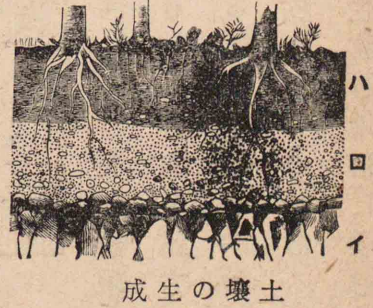
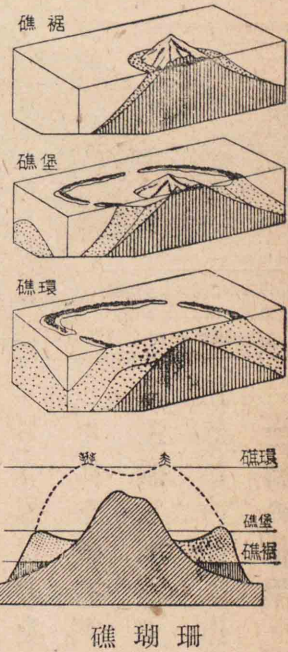


い變化を與へる。例へば人類は山を崩し、河を堰き止め、海を埋める。植物は根株を岩石の間に挿入して割目を作り、又その腐敗したものは有機酸を作り、岩石の分解を促す。沼澤地は



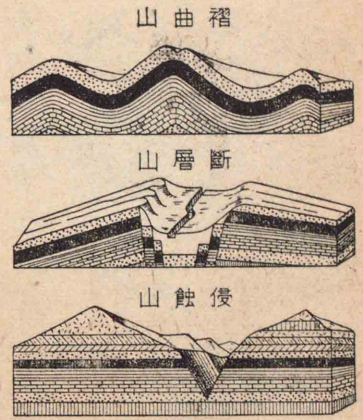
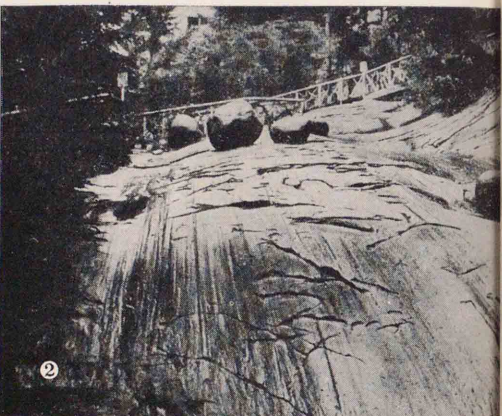
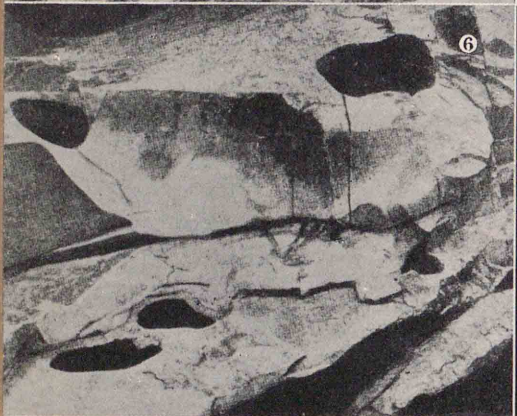
平地原に於ける乾燥地(上) 地潤濕(下)の地形の老壯幼

地中に埋没して泥炭・石炭となつて地殼の一部を作ることがある。土龍・海狸・蚯蚓・蟻等は土壤を移動し、穿孔貝は海濱の岩石を穿つてその崩壊を促し、海鳥はグアノを、有孔蟲は石灰石層を、珊瑚蟲は珊瑚礁を作る。  
地形の輪廻 地表は甚だ錯雜してゐるが、その原形を作るのは内力の作用で、これに外力が加つて今



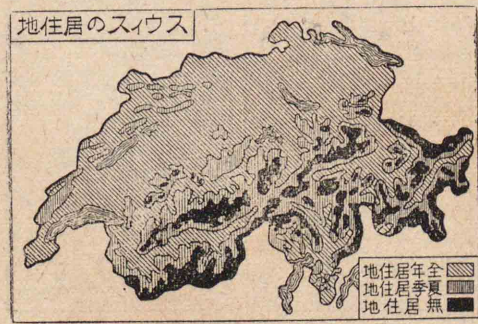


① 空から見た富士山  
 ② 氷河の痕跡  
 ③ 褶曲山脈(アルプス)  
 ④ 富士山の火口  
 ⑤ 準平原(イギリス)  
 ⑥ 花崗岩中の甌穴  
 ⑦ 屋島の遠望



多い。山地は交通の妨害となり、土壌が少い上に地味もよくないので耕地が少く、農業は不振である。低い丘陵や高原等では牧畜や果樹茶等の特殊の作物が栽培されたり、又かの階段耕作や季節的な住民移動が見られる。かくの如くに山地は概して物産に乏しいので、住民は少い。山中の盆地には住民が集まり、又鑛産地林業地温泉等には人口が密集することがある。又熱帯地方では氣候の關係で反つて

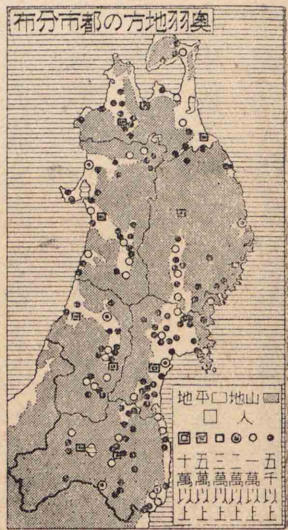
曲斷層火山侵蝕等の作用を生じ、多くは脈狀に連亘して山脈・山系をなす。山地が頂上に廣い平坦面を有する時は高原又は臺地と稱し、又山地が低く、且つ傾斜が緩かな時は丘陵と呼ぶ。山地は概して寒く、且つ寒暑の差が大きい、雨が多く、森林が繁茂し、水力に富み、鑛物の埋藏が



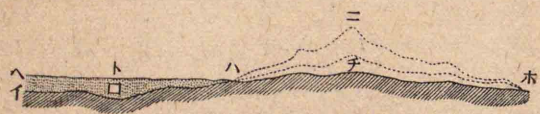
全夏無  
 在季居  
 居地  
 地

陸の内部には乾燥する廣大な盆地が多い。盆地は自然の要塞をなしてゐるので、獨特な文化をもつてゐるものがある。山間の盆地には割合に人口が集まり、且つそこに一、二の中心都市が發達し、山岳地方の文化地帯をなすものが多い。

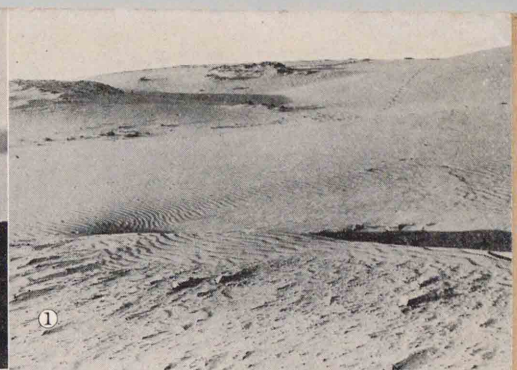
**平野** 低平な土地で、平原とも云はれる。平野には河川の流域の沖積平野・三角洲や海岸平野のやうに堆積によつて生じたものと、準平野のやうに山地が削剝されて出來たものがある。堆積によつて生じた平



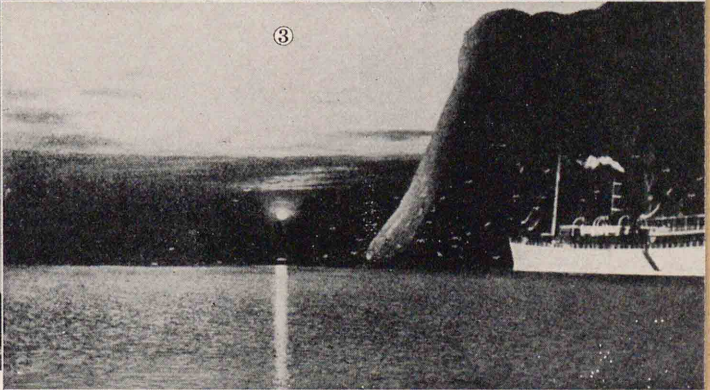
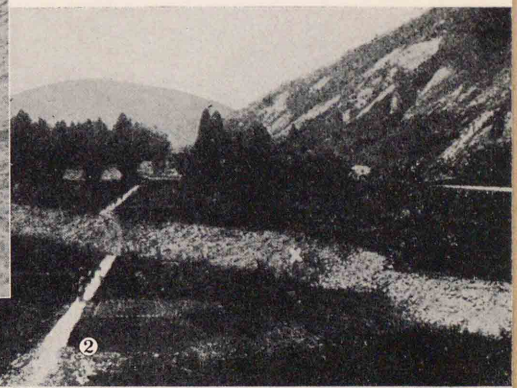
山地に多い。山地の住民は身心頑強で闘争心に富むが、保守偏狭で文化がおくれてゐるのが普通である。  
**盆地** 山地に圍まれた低平な地域で、湖盆地・斷層盆地・侵蝕盆地等がある。大



平山原の生成の原平の  
のホニハ式圖す示を生成の原平の  
平のホニハ式圖す示を生成の原平の  
たし積に底水のハトヘに遂は



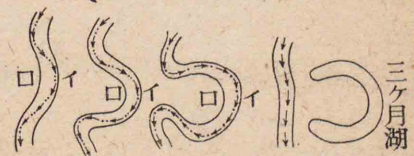
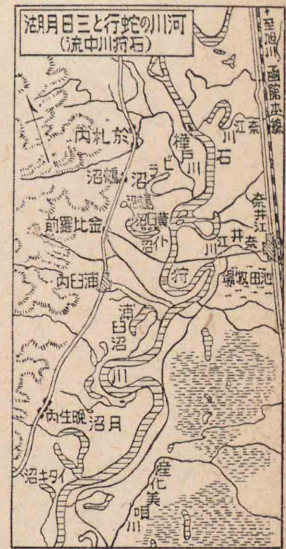
① 砂丘(鳥取)  
② 根尾谷の斷層



③ 夜半の太陽  
④ 縞馬  
⑤ サハラ沙漠  
⑥ 砂丘の摺鉢(濱坂)  
⑦ 間歇泉(エローストン公園)



野は發達が著しく、且つ一般に肥沃である。平野は一般に氣候の變化が少く、交通が便利で、且つ地味が概ね良好で、灌漑の便も多く、農業・牧畜に最も適してゐるので、概して早くから産業文化が發達し、人口も稠密で、文化も進み、都市も多い。

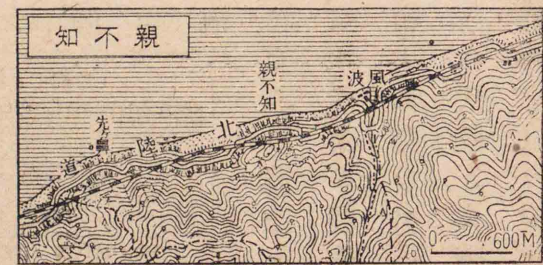


蛇行の發達と三日月湖の形成の過程(イ)の侵蝕(ロ)の堆積の所

**河川** 雨水地下水が地表を流れて海又は湖沼に入る流路で、一河川の本流・支流・分流などを河系と總稱し、一河川の流れる沿岸地域をその河川の流域といふ。平原を流れる河川は著しく蛇行し、時に流路を變じて三日月湖を作ることがある。河川は飲料水・灌漑水・工業用水を供給し、又水力の源をなし、産業に貢獻する。河川は天然の交通路で、舟運の便を與へ、又その水路は古來交通路として利用された。併し大河は時に政治的境



界となり、又交通上の障害となることがある。河畔の渡航に適する所には交通路が集中し、都市が發達し易い。又河川の流域は多く、地味・氣候が良好なので早くから農業が行はれ、文化が早くから發達した。河川はまた氾濫して人畜に大災害を與へることがある。これを避けるためには治水工事を完全にすることが第一に必要であるが、又住所や耕作地等はなるべく河岸の低地を避けるやうにしなければならぬ。

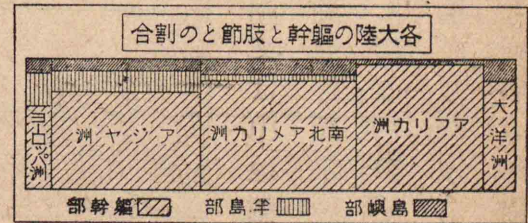


**湖沼** 陸地内に水が湛へられたもので、水質によつて淡水湖と鹹湖とに、位置によつて低地湖又は平原湖と高地湖又は山地湖とに、成因により火山湖・河跡湖・海跡湖・水河湖・湖沼・湖環・湖礁・人工湖等に分たれる。湖沼は飲料水・灌漑水・工業用水を供給し、又水力の源泉となる。水運・漁業にも利用され、内



陸の鹹湖の如きは天然曹達鹽等を供給することがある。湖沼は氣候を溫和にし、又風景をよくする。殊に山間の湖沼には風景のよいものが多く、保養遊覽地となつてゐるものが少くない。

**海岸** 陸地と海岸とが接觸する地帯である。海岸はその地盤の變動によつて隆起海岸・沈降海岸・斷層海岸に分けられる。隆起海岸は多くは出入の乏しい濱で、海岸段丘・潟湖を伴ふことがある。又沈降海岸は湯谷・峽灣・三角江を作ることがある。斷層海岸は概ね直線狀の峻岸をなす。海岸線の大小は文化に關係が深い。即ち出入の多い海岸は交通の發達を促し、文化を發達せしめる。海岸は概して氣候が溫和で、又水産業の發達に關係が深い。かくて海岸は一般に人口が稠密で、大都市・大商港が發達してゐる。半島のうちには朝鮮半島・バルカン半島のやうに、大陸と大陸又は島をつなぐ橋梁の役目をなし、民族文化の移動する通路となり、文化



が早くから發達するところもある。

**島嶼** 海に圍まれた小さな陸地で、陸島と洋島とがある。陸島は大陸の近くに位し、地帶構造上は大陸の一部をなすもので、斷層・汀線の降下等のために大陸から分離したものであり、洋島は大陸から離れて、大洋中に散在し、火山島・珊瑚島等から成つてゐる。島嶼は概ね地域が狭小なために物産人口が少く、しかも人口が増加するにつれて食料の不足を來すことがある。この缺點は洋島に甚だしい。併し陸島は大陸に接近し、早くから大陸の住民文化が渡來し、而も外敵を防ぐに適してゐるので、島内の自然の富源が豊かな時には獨特の文化を作つてゐるものも少くない。又洋島は大陸から離れてゐるので、文化の發達がおくられてゐるが、そのうちには交通上・軍事上の要點になつてゐるものもある。

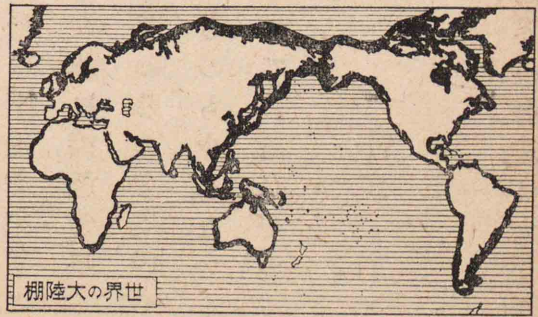
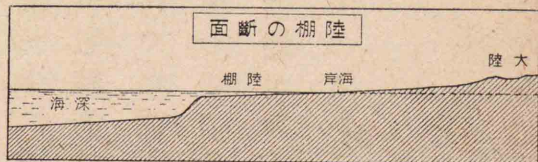
三 海洋

**海洋** 海洋は地球表面の七割餘を占めてゐる。世界の海洋は太平洋

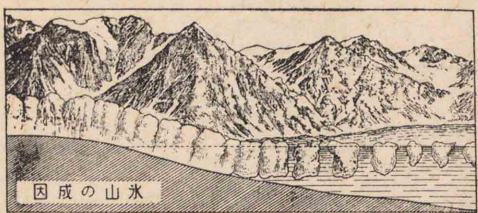
大西洋・印度洋のほか、北極海・南極海に分たれるが、陸地と異なつて互に相通してゐる。又これ等の大洋は内海・縁海・灣等の支海を有してゐる。

**海底の形状** 海底は地形が割合に簡單である。大陸の海岸から深さ二百米までの浅海は大陸の傾斜面の續きで、大陸棚と呼ばれ緩かに傾斜してゐる。その外側は急に深くなつて二千米以上の深海となる。

深海床では侵蝕作用が行はれず、専ら沈積作用が行はれるので、海底の起伏は極めて緩かである。併し五千米以上の海溝や海淵がその間にある。**海水** 海水の比重は一・〇二六、重量で平均三五％の鹽分を含む。但し鹽分は海洋の部分によつて差異があり、熱帯地方の雨の少い地方、乾燥な貿易風の吹く地方に濃く、大河の出入する地方に薄い。海水は藍色を呈



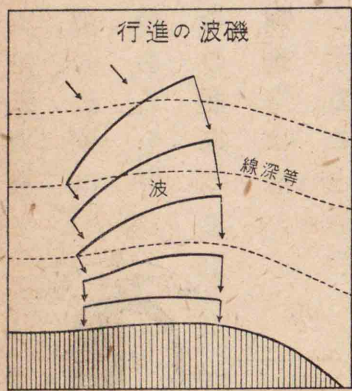
與へ、又航海を妨げる。



するが、鹽分の多い時には濃藍色となり、又寒冷な海水は綠色に傾く。深海の水溫は零度内外で、緯度が違つても變化が少いが、水面は太陽熱をうけて熱帯地方では二十度以上、寒帯地方では零度以下になり、しかも冬季には凍結して海水を生ずることがある。**氷山と流水** 氷河が破壊して海上に浮んだものを氷山といふ。又海水が破壊して海上に流れるものを流水と稱する。海水・流水は共に氣候に影響を

**波浪** 風的作用によつて生ずる海水の運動で、水は移動せず、水分子のみが圓運動を行ふ。

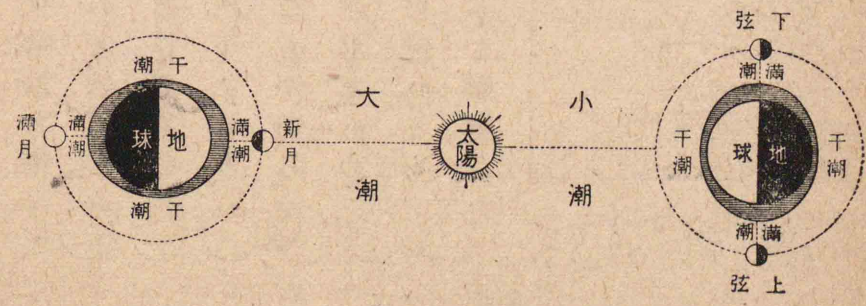
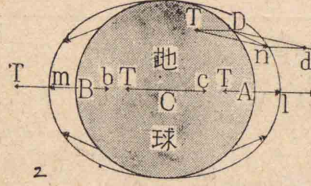
**磯波と津浪** 海岸に打ちあげて碎ける波を磯波と稱する。磯波は風向の如何に



水分子の運動

關はらず、海岸に平行に打ちよせる。地震、火山、破裂、暴風のため、起る大浪を津浪と稱する。津浪の波動は世界に及び、又人畜に大被害を與へることがある。併し津浪は豫防出来ることが少くないので、その襲來の恐れのある時は至急對應策を講じ、又住所、耕地等は海岸の低地を避ければ被害を少くすることが出来る。

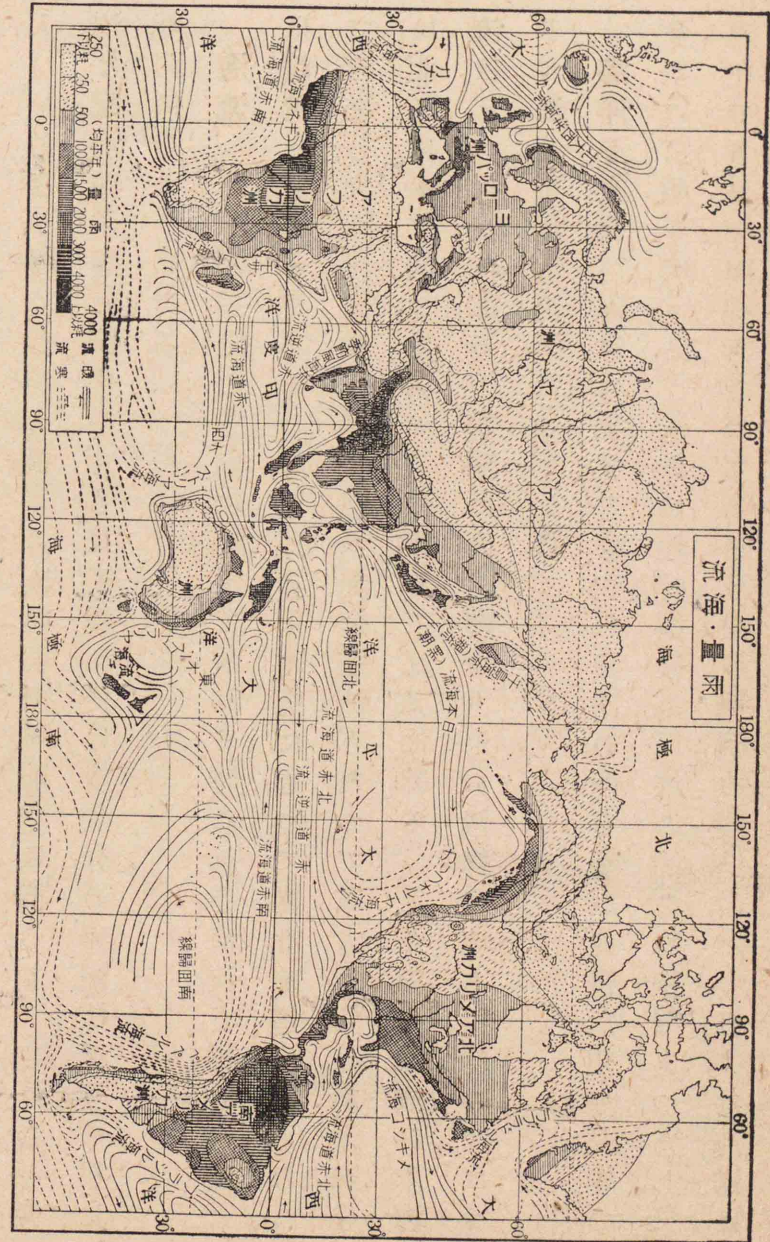
**潮汐** 海面は一日に二回昇降が生じ、海岸では上げ汐、引き汐が生ずる。この現象を潮汐と云ひ、これに伴ふ海水の流れを潮流と稱する。潮流は主に月の外力によつて生じ、月に面した側と反対側が満潮となり、月と直角の位置にある海面が干潮となる。潮汐干満の差は各地に一様ではない。



大洋中の島や廣い海に面した海岸とか、陸地に圍まれた内海では小さく、入口がかなり廣く、しかも長く入り込んだ淺海では概して大きくなり、潮汐は航海、碇泊等に關係をもち、又干潟に於ける魚介の養殖、採取等産業にも關係をもつてゐる。

**海流** 海水が一定の方向に絶えず流れる時、これを海流と稱し、海流には暖流と寒流とがある。暖流は赤道附近に起つて南北赤道海流となつて西進し、大陸と衝突して一部は赤道逆流となつて東方に向ふが、大部分は北又は南に向ひ、次第に東に轉じて又元に戻る。メキシコ灣流、日本海流はその代表である。寒流は高緯度地方から低緯度地方に向ひ、ラブラドル海流、千島海流等はこれに屬する。

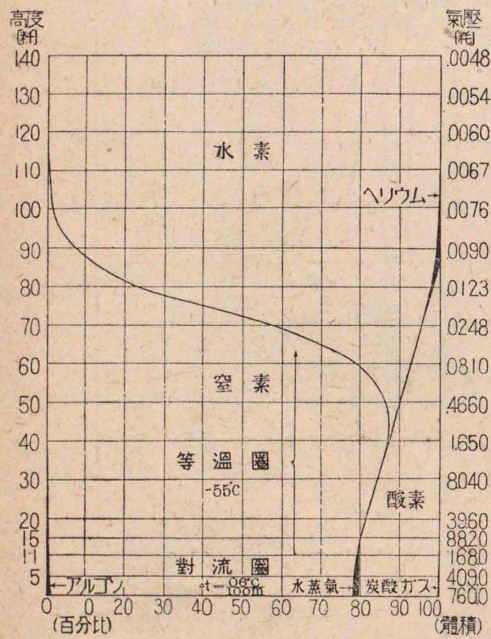
**海洋と文化** 海洋は氣候を緩和し、降雨の源を養ひ、食鹽、魚類、海藻等の多くの富源を與へる。海洋は往時、國家や民族の間の障壁であつたし、又現在でも多少障壁となつてゐるが、交通機關の發達した今日では海洋は寧ろ開豁で自由な交通路となつてゐる。又海流は氣候に影響を及ぼす。



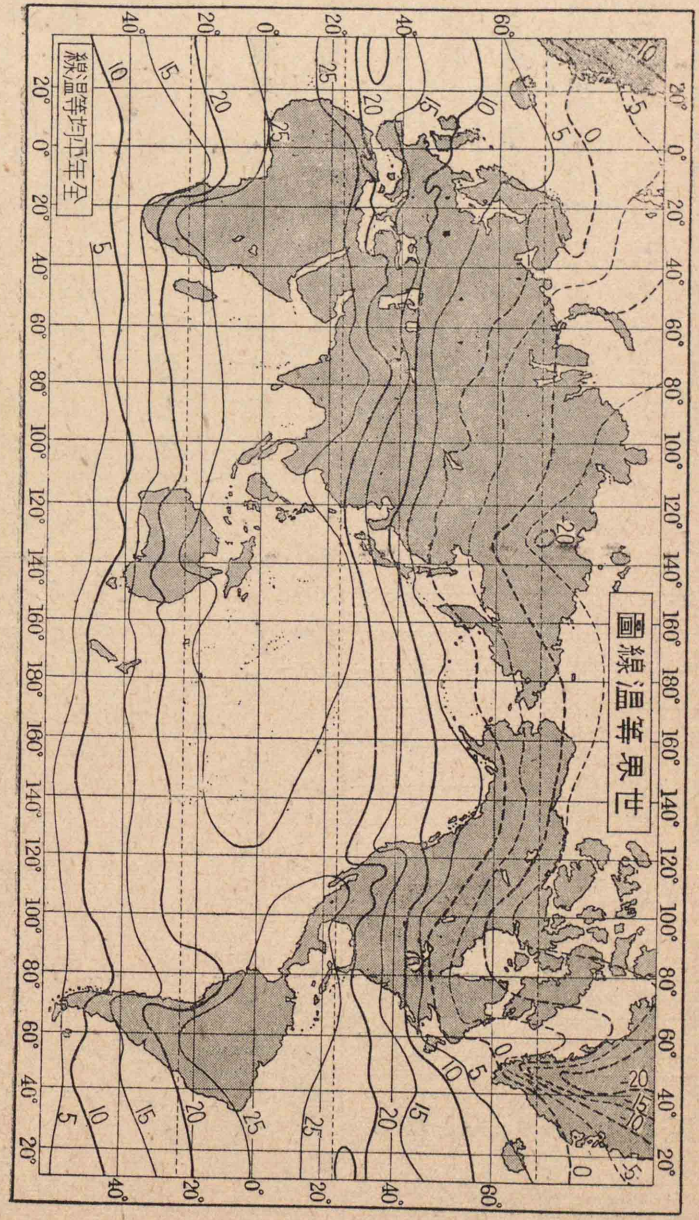
ヨーロッパの西岸が緯度に比して非常に暖いのはメキシコ湾流による。海流はまた交通・産業の發達と密接な關係がある。日本近海に大漁場があるのは海流に因るところが多い。

#### 四 氣候と生物

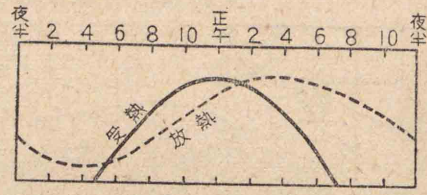
**氣界** 地球の周圍は大氣につままれる。大氣は主に窒素と酸素とから成り、地表から上層に行くにつれて次第に稀薄となる。大氣層の高さは五百粒位に及ぶと見られる。地上十一粒位までは温度の變化・風・雲・雨等の天氣現象が見られるが、それより上は成層圏といはれ、温度が殆ど一定して居り、天氣現象が見



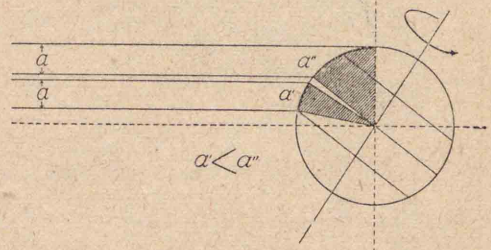
圖面斷の界氣



圖線温年界世



熱放と熱受の地陸の中日一

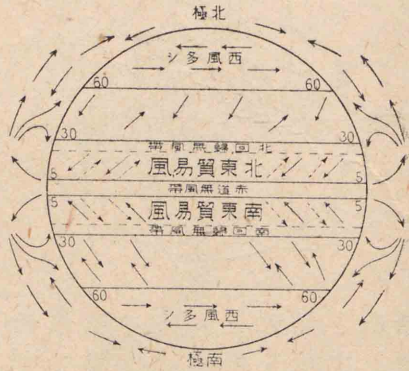


緯度に分るに、よつて、太陽熱によつて大氣が暖められるため、太陽の直射する赤道附近は氣温が著しく高く、兩極に近づくにつれて概ね次第に低くなる。併し氣温は緯度の高低のほか太陽及び土地の高低、緯度、大氣の温度を氣温といふ。氣温は太陽熱によつて大氣が暖められるため、太陽の直射する赤道附近は氣温が著しく高く、兩極に近づくにつれて概ね次第に低くなる。併し氣温は緯度の高低のほか太陽及び土地の高低、緯度、大氣の温度を氣温といふ。

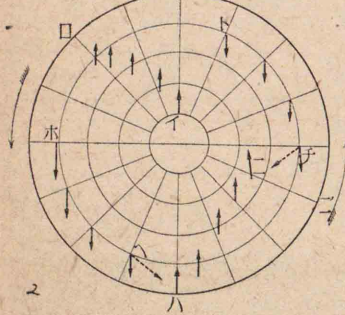
水陸の分布、海流の種類、風向及び山脈の位置等にも左右される。同時に各地の氣温をはかり、これを海面上の氣温に更正し、等温度の諸點を連ねて得た線を等温線といふ。等温線は必ずしも緯線と平行しない。

**氣壓** 大氣の壓力を氣壓と稱する。海面上の氣壓は水銀柱七百六十耗の重さに等しい。氣壓は高度、氣温、大氣中の水蒸氣の分量等によつて異なる。同時に各地の氣壓をはかり、これを海面上の氣壓に更正し、等氣

赤道附近は気温が高いので、大気は熱せられ、膨脹して軽くなつて上昇し、この附近に赤道無風帯を生ずる。上昇した大気は分れて南北に向ひ、反對貿易風を生じ、緯度三十度附近で一部分はそのまゝ、極に向つて進むが、大部分は下降し、この附近に回歸無風帯を生ずる。下降した大気は貿易風となつて赤道附近に復歸するが、極に向つた大気は地球自

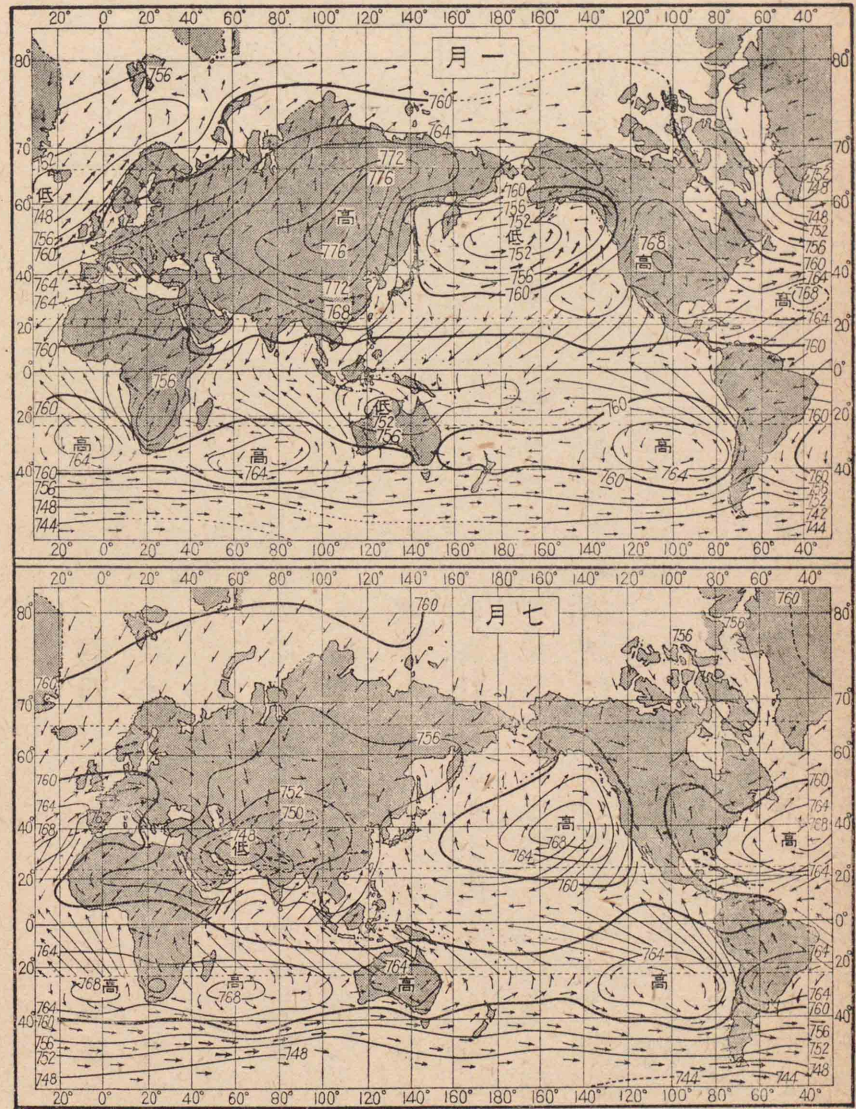


北半球の低気圧は風の発生と關係をもち、又天氣の良否及南半球の低気圧をも決定する。又氣壓が高度によつて異なるのを利用して土地の高度をはかる。風の二地間の氣壓の差異に因つて生ずるもので、高氣壓の所から低氣壓の所に向ふ。



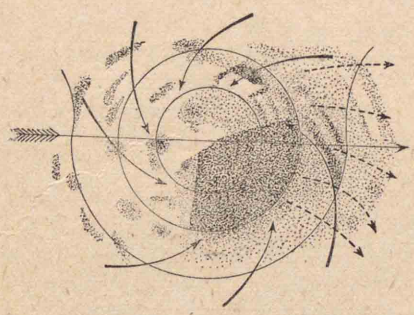
北半球の自轉と風の關係  
北半球の自轉と風の關係

世界に於ける高氣壓と低氣壓

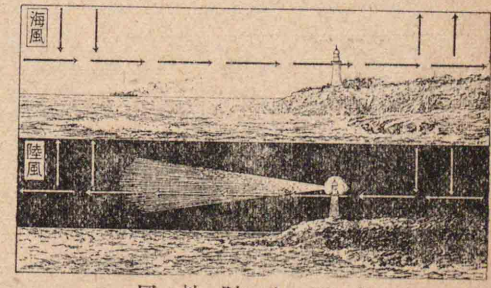


平均風速 (秒毎) 0m-6m, 6m-12m, 12m以上  
風定 ← 向方行進/雲層上 ←

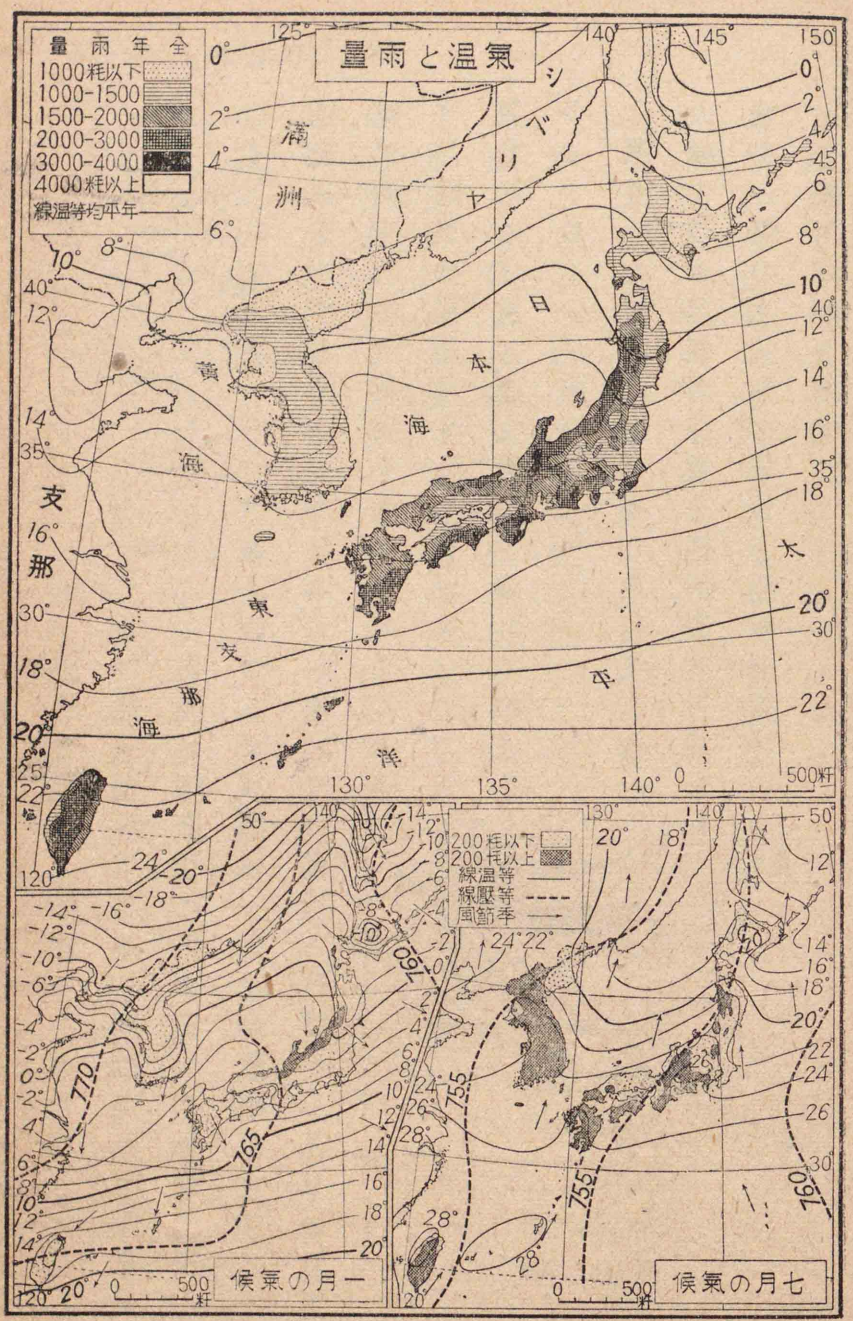
轉の影響を被り、次第に西風に變ずる。季節風 大陸の内は夏季海上よりも低氣壓なので、海から陸に向つて風が吹くが、冬季は反つて高氣

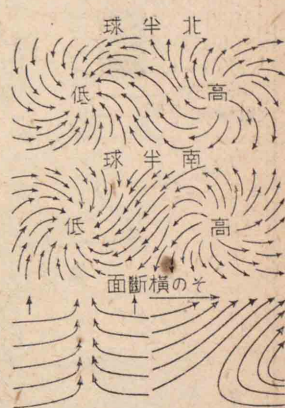


低す方低晴壓なので、陸から海に向つて風が吹く。かく季節によつて一定方の進は點に盛壓を主として吹く風を季節風と稱し、東南アジアに行降を生む風よく發達してゐる。天を雨降るがみ海軟風と陸軟風 季節風と同じ原理で、氣を示るがみ海岸では日中には海上から陸上に海軟風をと新す方吹くが吹き、夕刻を過ぎると陸地から海上に陸



海軟風と陸軟風





地表の風が吹く。旋風と颱風。氣圈の小さな部分に甚だしい低氣壓が生じると、周囲の高氣壓部から氣流が螺旋狀に集まる。これを旋風といふ。又氣圈の一部に高氣壓が生じると

逆旋風を生ずる。南支那・日本・米國南部には颱風と呼ばれる甚しい低氣

壓が襲來して大被害を與へることがある。

併し颱風は豫知出來る場合が多いので、天

氣豫報に注意し、適宜對策を講じて被害を

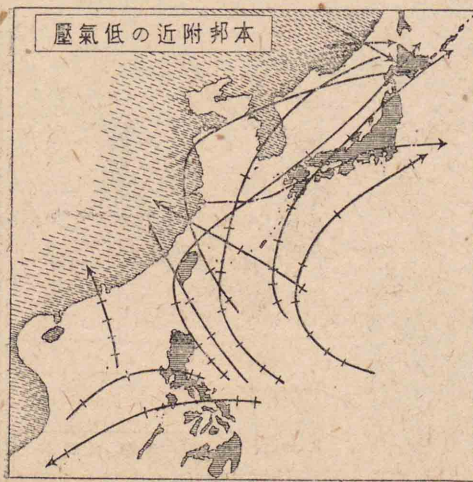
少くすることが出来る。

**湿度** 大氣は常に多少の水蒸氣を含む。

大氣中の水蒸氣の分量を絶対湿度と稱し、

飽和の際の水蒸氣の分量と絶対湿度との

比を相對湿度と稱する。



**降雨** 大氣が冷却すると大氣中の水

蒸氣は凝固して水分子となり、雨、雪、霰等

となつて地表に降下する。大氣中から

降下する水分の總量を降水量又は雨量

と稱し、等しい降水量の地點を連ねて得

た線を等降水量線又は等雨量線といふ。

赤道附近は高温で、蒸發が盛である上

に、濕潤な大氣が上昇して冷却するから

常雨帶をなし、雨量が非常に多い。又海上から陸に向つて風が吹き、且つ

背後に山脈を控へてゐる海岸地方は雨量が多い。これに反して海から

離れた大陸の内部は雨量が少い。又海岸でも陸から海に向つて風が吹

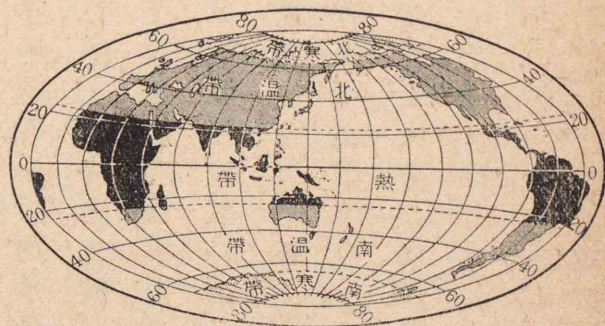
く地方は雨は少い。地球上で降雨の最も多いのは印度の東北部で、殊に

そのアッサム地方の如きは年雨量が一萬二千耗に達するところがある。

降雨の少いのはサハラ・アラビヤ等から蒙古に至る一帯の地方である。

風 帶	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	植 物 帶
極 無 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												ツンドラ
偏 西 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												針葉樹林 落葉樹林 ステップ
旋 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												亞熱帶林
北 回 歸 無 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												沙 漠
北 東 貿 易 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												サヴァンナ
赤 道 無 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												熱帶雨林 赤道多雨林 熱帶叢林
南 東 貿 易 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												サヴァンナ
南 回 歸 無 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												沙 漠
旋 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												亞熱帶林 落葉樹林
偏 西 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												針葉樹林
極 無 風 帶	[Diagram showing wind patterns]												ツンドラ





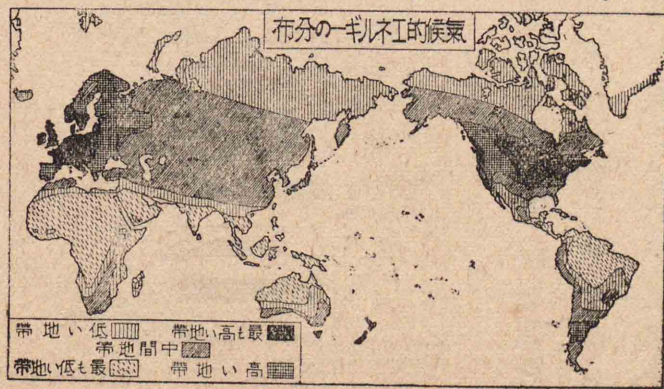
快適な氣候は温帯氣候、海洋性氣候である。

### 氣候帶氣候區

同一性質の氣候をもつ地帯又は地域を氣候帶又は氣候區と稱する。地球上の氣候帶設定法には種々あるが、そのうち最も普通

### 天氣氣候

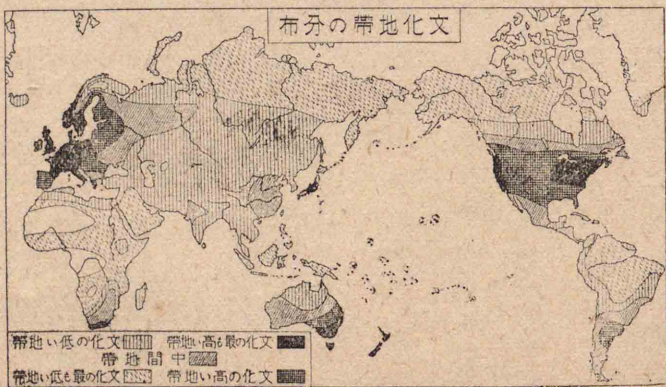
短期間の大氣の狀況を天氣といひ、ある時刻に於ける天氣を圖示したものを天氣圖、將來の天氣を豫測することを天氣豫報と云ふ。又長期



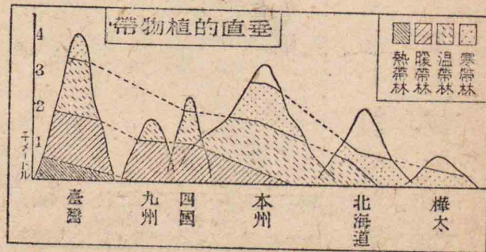
なもの、緯度又は氣温を標準として熱帯、温帯、寒帯に分つ方法である。

### 氣候と文化

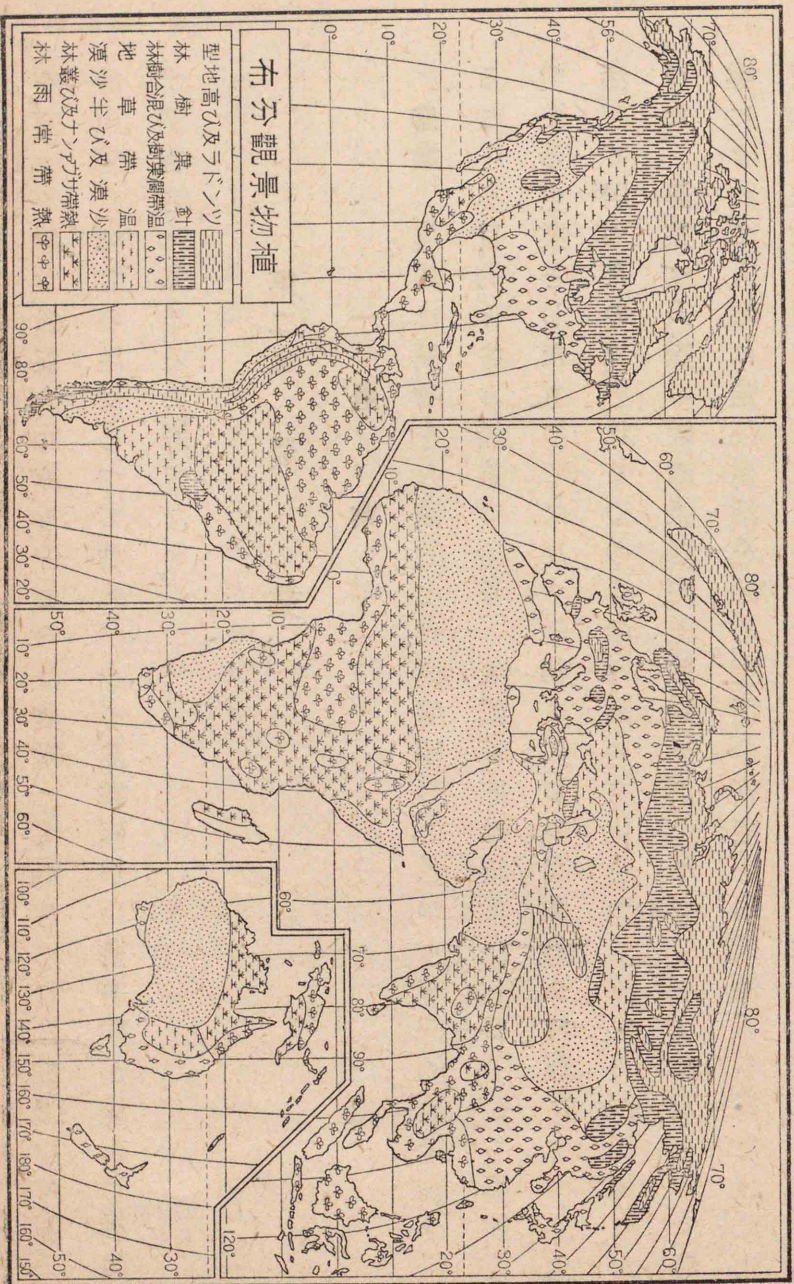
氣候は人類の生活に重大な關係をもつ。即ち氣候は人類の活動力を左右し、又動植物の分布を通じて物産の種類と産額とを決定する。空氣は人類の呼吸作用に、炭酸瓦斯は植物の同化作用に、酸素は化學工業の原料となる。風は動力として重要であり、又航海に利用される。雨は動物、植物の生存に、欠くことが出来ない。かくて今日文化が最も進んでゐる所は氣温、雨量が適度で、且つ變化のある刺戟的な氣候をもつ地方、即ち氣候條件の最良の地方である。尤も人類はある程度まで氣候に堪へ得る能力をもつてゐる。氣候に對する人類の適從を氣候順化と稱し、その力は人類によつて異なつてゐる。



**生物** 氣候は植物分布を左右する第一の要因である。沙漠は雨がないたために、凍土帯は寒冷氣候のため、生じ、ステップ、プレリー、パンパス、サヴァンナ等は雨が少いために生じた植物景觀である。同じ森林でも熱帯林、温帯林、寒帯林の區別があるのもまた主に氣候に因つてゐる。動物は植物ほどに氣候の直接的な影響を被らないが、馴鹿、白熊は熱帯の生活に適せず、獅子、象、猿は寒帯に棲息し難い。また動物は植物の分布を通じて間接的には大きな影響を被つてゐる。



沙漠は熱帯から温帯にかけて存する不毛の土地で、僅かにオアシスのみ生産地帯をなす。仙人掌、駱駝等の特殊な生物がある。ステップ、プレリー、パンパス等は温帯草原で、雨の乏しい大陸内部に擴がる草原である。牧畜に利用されるほか、肥沃で、水の便のある地方は農耕にも利用されてゐる。サヴァンナはリヤノス、グランチャコ等と共に熱帯草原に屬し、大體熱



帯の雨のやゝ乏しい地方にあつて、乾濕二期があらはれ、草原の中に疎林を交へて居り、氣候の冷涼なところは、農耕に利用されてゐる所もある。凍土帯は極北の地にあつて、樹木が少く、夏季僅かに蘚苔類が生育し、馴鹿が飼養されてゐるに過ぎない。

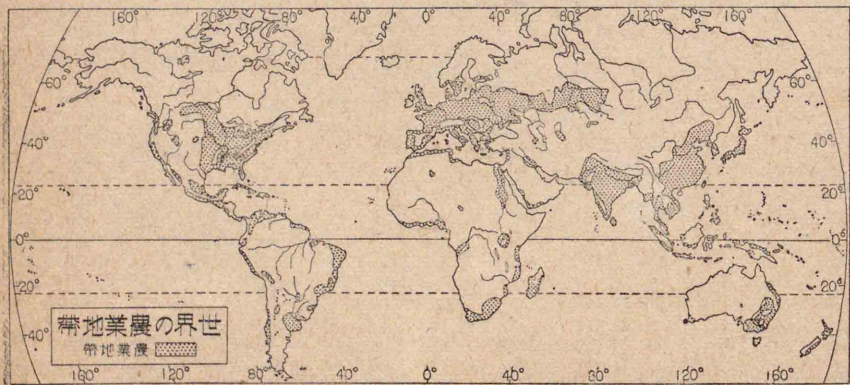
### 第二章 農業

#### 一 農業

**農業** 農業は植物を人為的に育成増殖し、これから有機的生産物を得ることを目的とする産業である。人類は原始時代から必ずしも農耕を主たる生業としたものではなく、最初は久しい間採集や狩獵によつて生活して居つたので、それまでの生活は高い文化をつくることが出来なかつた。農業は人類の經濟發達史上、餘程後世になつて現はれたもので、農業によつて人類は定住生活を始め、生活の安定と規則性とを得たし、又比較的狭い面積の土地の上に多數の人が相集つて社會を作り、豊かな生

活を楽しむことが出来るやうになり、高級な文化を創造する端緒を開いた。農業はいづれの文明國でも概ね古くから立國の基礎であつて、衣食の原料は多く農業から得られ、又商工業も間接には農産物に深く依存してゐる。

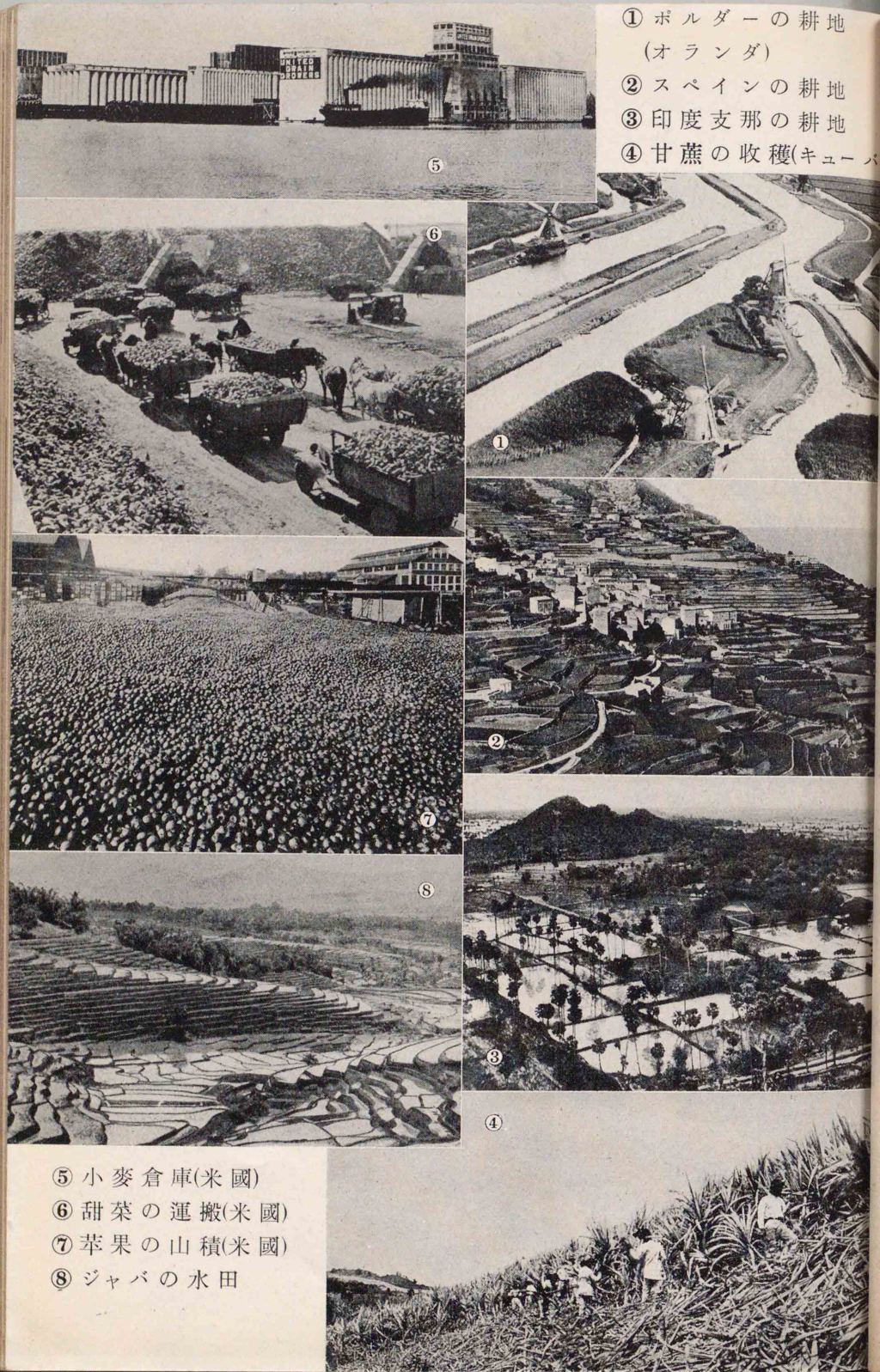
農業の經營法に小農法と大農法とがある。小農法は早くから開けた地方や、土地の狭い地方に行はれ、地力を極度に利用する集約的農法で、單位面積當りの收穫高は頗る多い。我が國や支那の園耕はその代表である。大農法は新らしく開かれた土地の廣い地方で、豊かな資本を背景として機械や家畜の力を多く利用して大規模に行ふ粗放的農法で、單位面積當りの收穫高は少いが、農業者一人當りの收穫高は非常に多い。アメリカ合





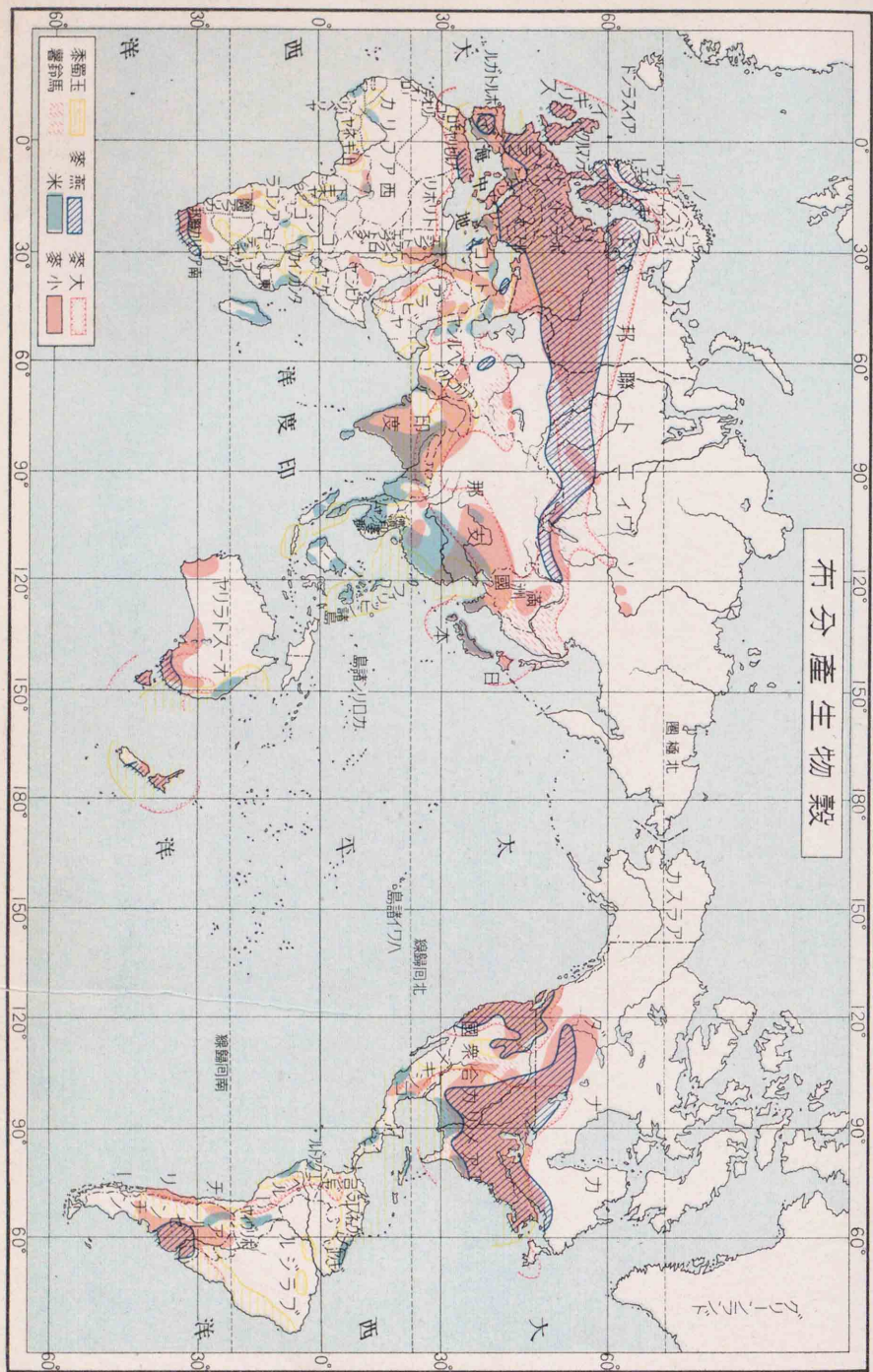
けることが最も甚しいので、気候は農産物の分布と種類とを決定する第一の条件である。植物はその種類によつて生育可能の気温の最低限界を有するから、極地に近づくに従つて異なつた栽培植物があらはれ、それぞれの栽培植物には栽培限界が見られ、而も酷寒の極地に至れば遂に全く植物の栽培が不能となる。寒冷な地方では一年中の一定の時期の間だけしか農業が行はれないことがある。又植物の生育には一定の水を

衆國カナダオーストラリアアルゼンチン等は大農法の行はれる代表的な地方である。又文明人の移住に適しない熱帯地方では文明人が知識と資本を投じ、土人その他の労働者を使つて熱帯性植物を栽培する栽培農業が行はれてゐる。  
**農業と気候** 農業は植物を栽培するものであり、且つ植物は気候の支配をう



①ホルダーの耕地 (オランダ)  
 ②スペインの耕地  
 ③印度支那の耕地  
 ④甘蔗の收穫(キューバ)

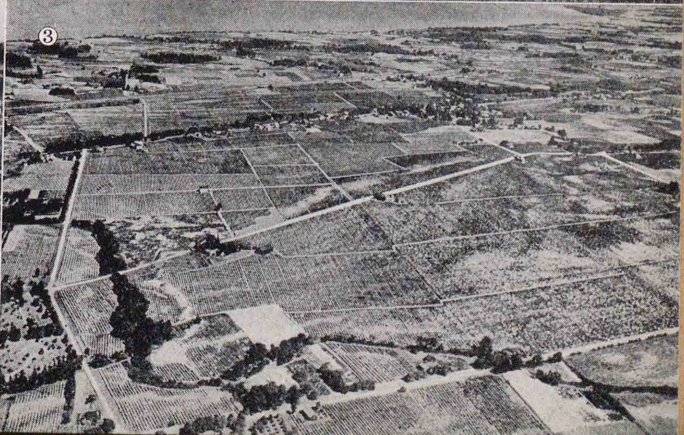
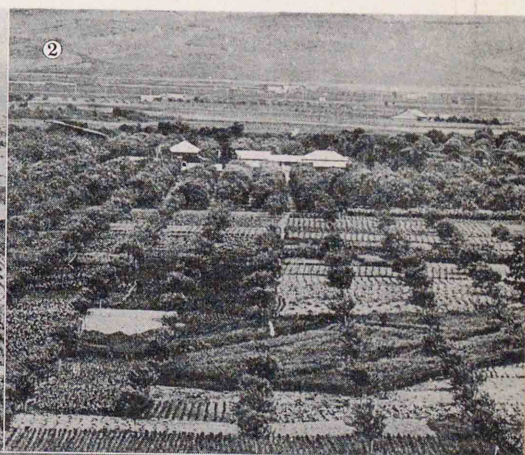
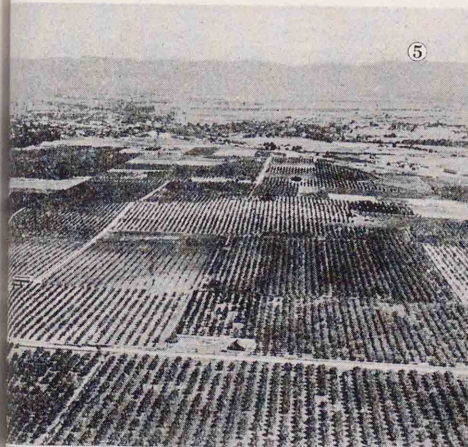
⑤小麦倉庫(米國)  
 ⑥甜菜の運搬(米國)  
 ⑦苹果の山積(米國)  
 ⑧ジャバの水田



布分産生物穀



- ① オレンジの採取(パレスチナ)
- ② 苹果園(余市)
- ③ 桃の栽培(米國)
- ④ 日本の茶園
- ⑤ 葡萄園(米國)
- ⑥ 棉花の採取(米國)

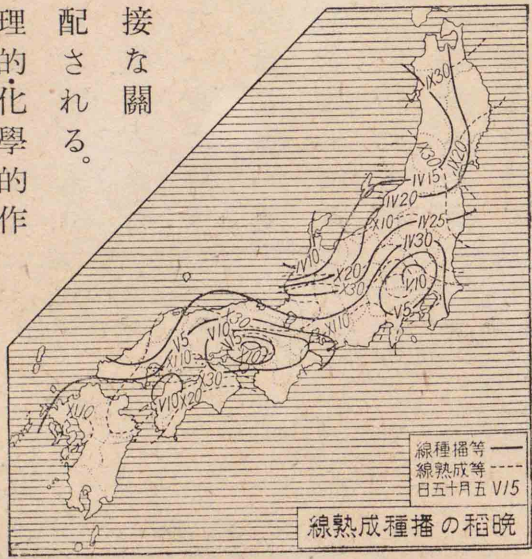


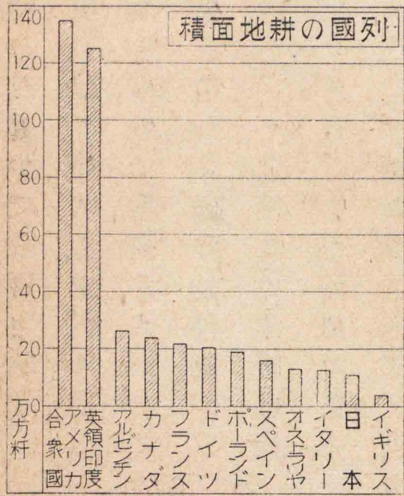
必要とするので、降雨の乏しい沙漠地方では農業は全く行はれない。農業は熱帯から温帯にわたって水利の便の多い平野に先づ行はれ、それから次第に水利に乏しい地方でも人工灌漑によつて行はれるやうになつたのである。

**農業と土壤** 植物の生長は土壤と密接な關係があるので、農業は土壤の性質にも支配される。

土壤は岩石が水・空氣・生物等から被る物理的・化學的作

用によつて分解して生じたもので、これには原母岩の場所に存在する定積土と原母岩から遠くはなれて堆積する運積土とがある。山地の土壤は多く定積土で、河岸・海岸等の平野の土壤は概ね運積土である。定積土は浅く、且つ性質が一方に偏してゐるので、耕作には好適ではない。運積土は水・風等で運搬された上、ある場所に堆積したものであるから、一般に



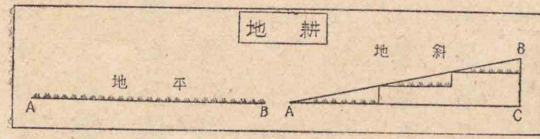
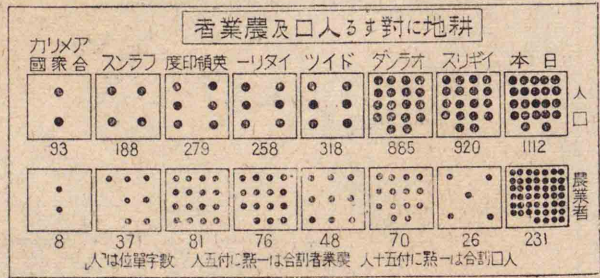


利益をもつてゐるので農業に最も好適である。尙ア  
 ジャの季節風帯には山腹の耕作地が多い。これを階  
 段耕作と稱し、我が國にも見られる。  
**耕地と農業者** 農作物の栽培される土地を耕地と  
 いふ。耕地の面積は地形・地味・氣候等の自然的條件、開  
 拓の時期耕作方法等の社會的條件によつて異なる。  
 國民の生活資料は最も多く農業に仰ぐから耕地に對

する人口の多少は、その  
 國の生活の難易・人口問  
 題を示す一標準となる。

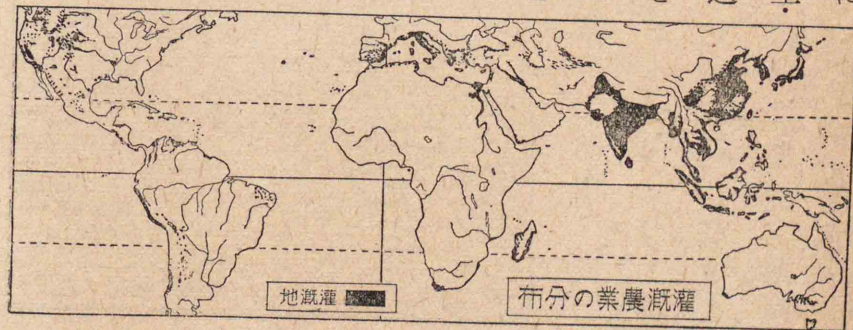
二 重要農産物

小麥 温帯の原産であるが、廣く世界中  
 の温帯・亞熱帯地方に栽培され、一年の間世

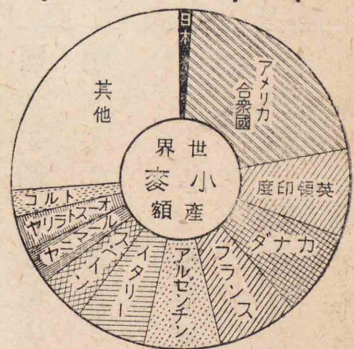


深く、且つ諸種の物質を含有してゐるので、概ね耕作に  
 好適である。土壤はまた埴土・埴質壤土・壤土・砂質壤土  
 砂土等に分けられる。土壤の性質に應じて耕作に適  
 する作物は異なるが、施肥・耕耘その他の方法で、これを  
 人工的に調節することが出来る。

**農業と地形** 地形も亦農業を支配する地  
 理的條件の一つである。山地は傾斜があつ  
 て交通に不便であり、又概ね浅い定積土から  
 成り、剩さへ水害も少くないので、一般に耕作  
 に好適でない。平野には河湖又は海底の堆  
 積物から生じた平原と、山地が侵蝕されて平  
 坦になつて生じた平原とがある。何れも平  
 坦で交通が便利であり、且つ概ね開墾もやさ  
 しく、又深い運積土も多く、剩さへ水運・灌漑の

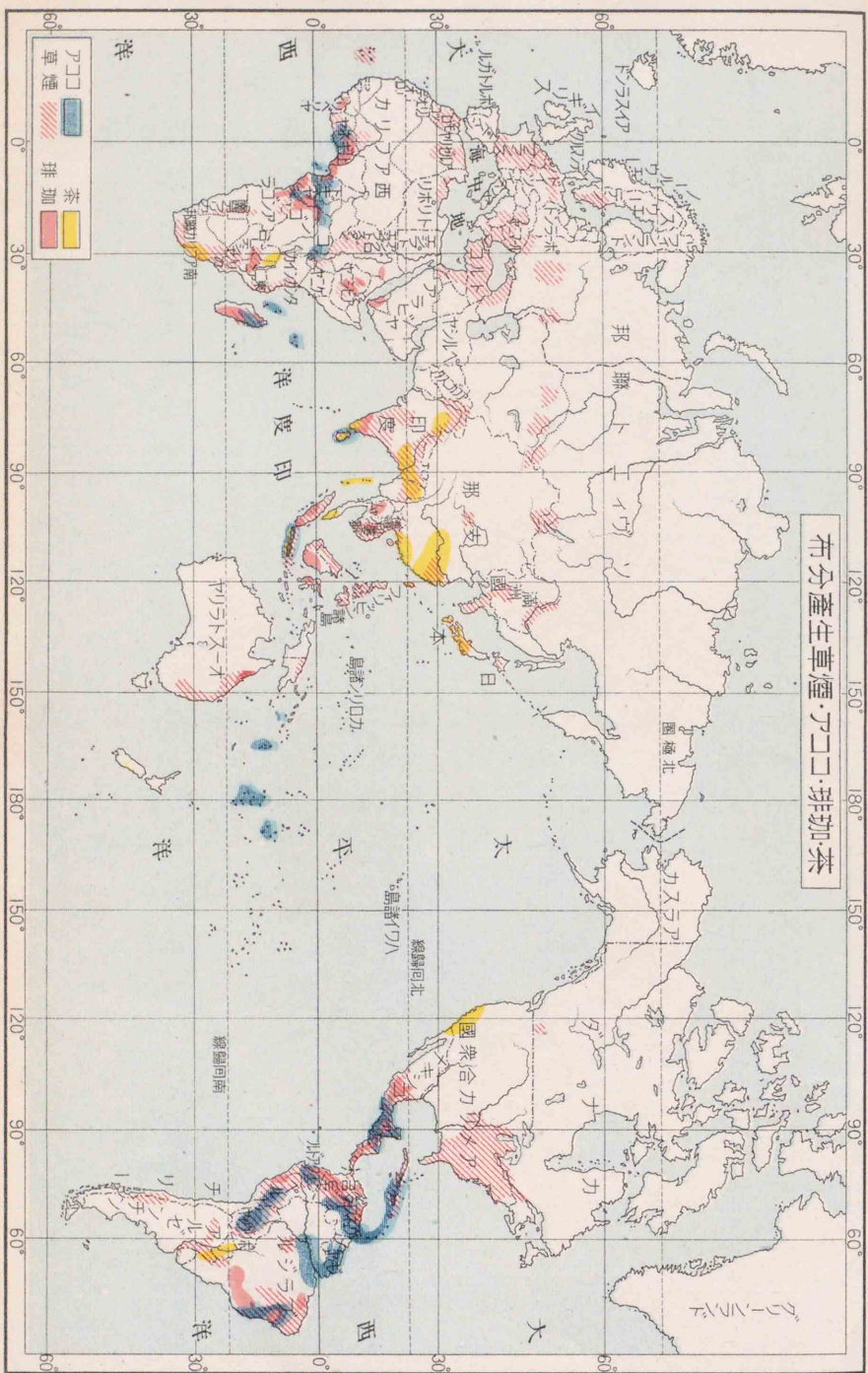
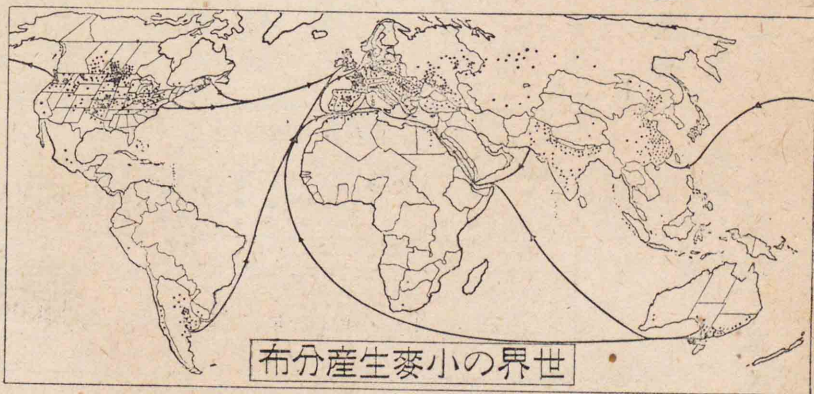


界の何處かで收穫される。又大消費地は生産が不足し、大生産地は餘剰が多いので、米と違つて國際的移動がはげしい。栽培には温暖・多雨にすぎないのが好適である。

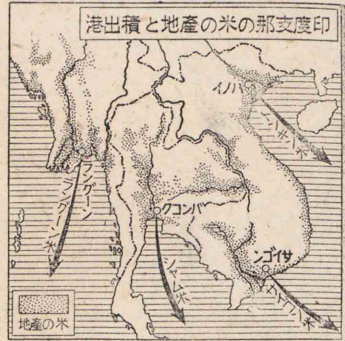


ソヴェト聯邦・カナダ・アメリカ合衆國等が主産地である。ヨーロッパは世界産額の約二分の一を産出するが、人口が稠密なためヨーロッパの諸國は概ね大輸入國となつてゐる。我が國の産額は近年著しく増加してゐる。

**大麥** 熱帯から寒帯近くの土地にまで廣く栽培される。ソヴェト聯邦・ドイツ・アメリカ合衆國等が主産地である。我が國の産額は稈麥を合す





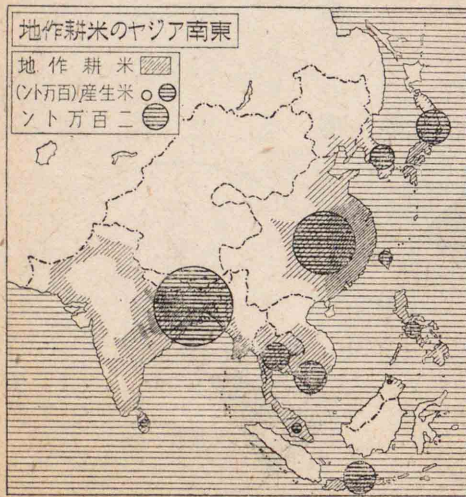


れば世界屈指の地位を占めてゐる。

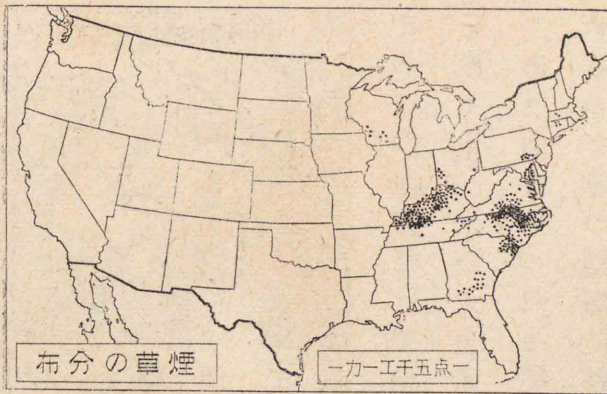
**米** 高温多雨で、而も豊富な勞力のあることを必要とするので、主に東南アジアの季節風帯の水利の便の多い低地に栽培される。米はあらゆる穀物中で收穫率が最も高いので、米作地は概ね稠密な人口を養ひ得る。米の大産地はアジアの季節風帯に集

まり、この地方だけで世界産額の九割以上を産する。米の大生産地は概ね大消費地であり、而もいづれも略、自給することが出来るので、米の國際的移動は少い。

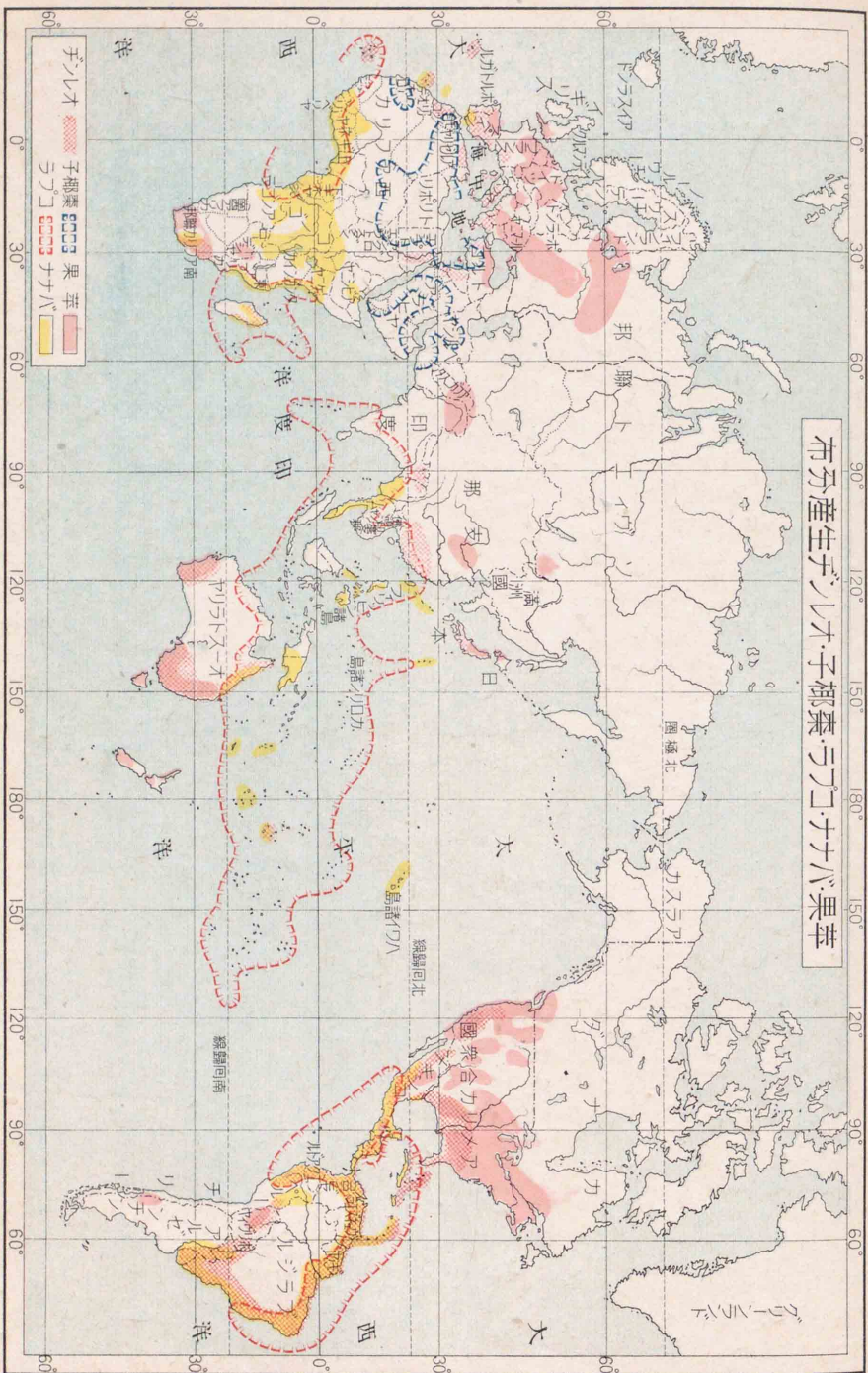
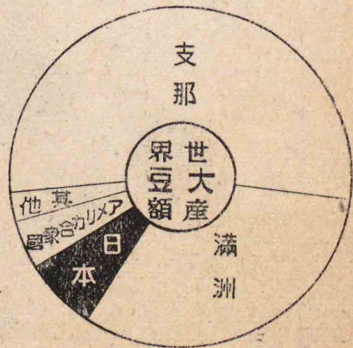
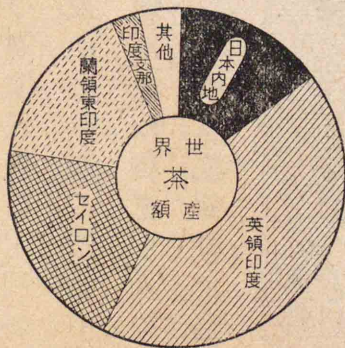
**大豆** 東アジアの原産であつて、今日では滿洲國が世界産額の過半を出す。同國産大豆は、大豆のまゝで又は搾油して豆油豆粕とした上で各國に輸出され、同國第一



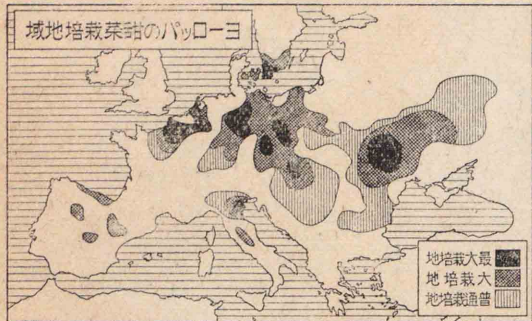
の富源をなす。北支も大豆の大産地である。我が國では朝鮮・北海道・奥羽の諸地方で栽培されてゐる。茶 主にアジアの季節風帯に栽培される。製茶法は支那から始まつたもので、茶は長く支那及び我が國の特産物であつたが、支那及び我が國は歐米人の嗜好に適しない緑茶を主に製造してゐたので、近年英領印度・セイロン・ジャヴァ等に盛に産出される紅茶のために壓倒された。



煙草 アメリカ合衆國・英領印度・ソヴェト聯邦等が主産地である。なかでもアメリカ合衆國は世界産額の約三分の一を占



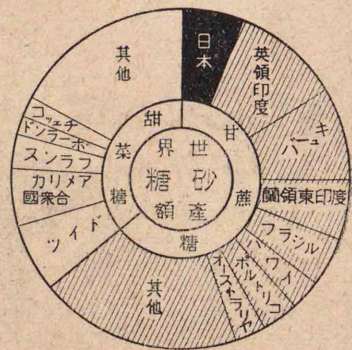
布分産世テニホ子桐葉・ラコ・ナナバ果糖

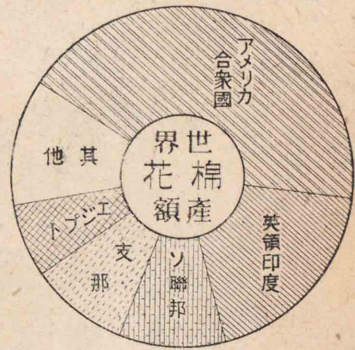


める。又良質をもつて知られてゐるのはハヴァアナ  
 (キューバ) マニラ(フィリピン) エジプト トルコ等の煙草  
 である。我が國は世界屈指の産出國である。

**甘蔗と甜菜** 甘蔗は印度の原産といはれ、今日で  
 は熱帯から亞熱帯の霜害のない地方に廣く栽培さ  
 れる。英領印度・キューバ・ジャヴァ

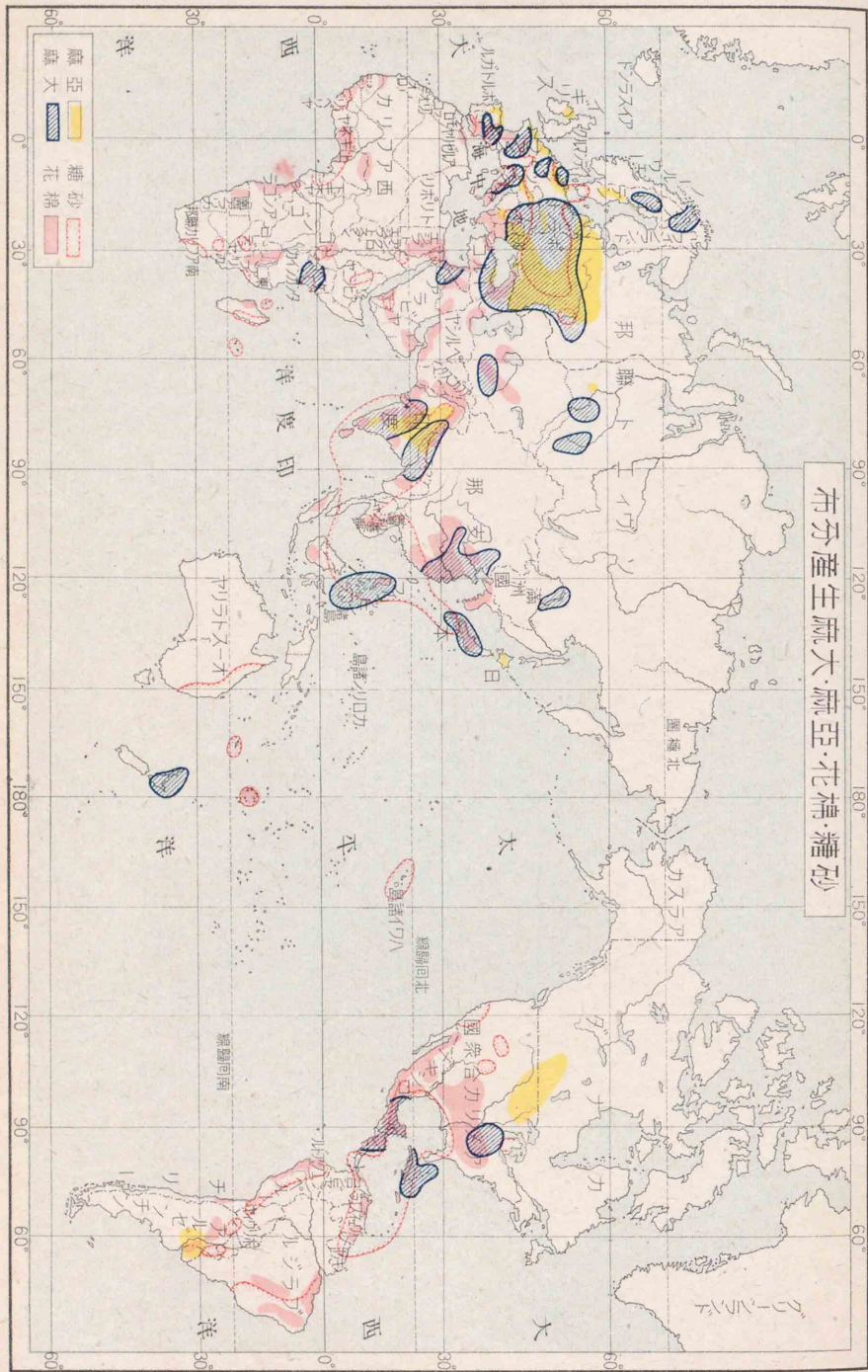
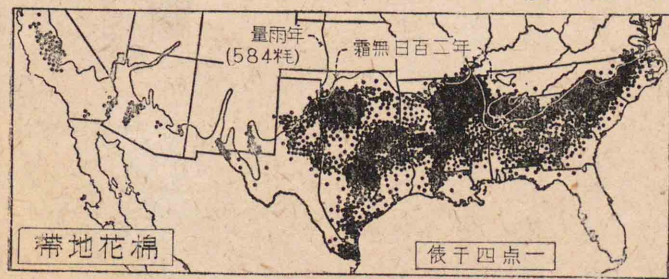
フィリピン・ブラジル・ハワイ等を主産地とする。英領  
 印度は世界第一の甘蔗糖産地であるが、自國の需要が  
 大きく、反つて輸入するので、キューバとジャヴァとが甘蔗  
 糖の二大供給地である。甜菜は十八世紀の中葉から  
 製糖原料に利用されたもので、夏季に冷涼で、降雨が多  
 少あり、秋季には乾燥する地方に適する。北ヨーロッパ  
 平原が大産地で、世界産額の過半はこゝから出る。我  
 が國は世界有数の製糖國で、甘蔗糖は主に臺灣・南九州





から、甜菜糖は主に北海道樺太から出る。  
**棉花** 熱帯の原産で、今日では世

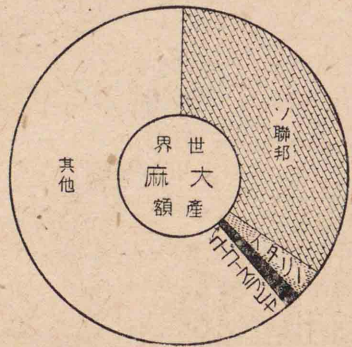
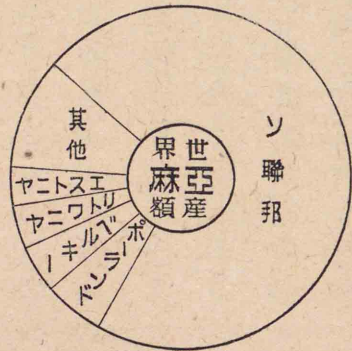
界の熱帯・亜熱帯地方に広く栽培される。アメリカ合衆国は世界産額の二分の一以上を占め、メキシコ湾岸の一角の地方は南北八百軒、東西二千四百軒に亘る大棉花地帯をなしてゐる。産額の三分の一は自國の消費にあて、他はヨーロッパの諸國や我が國等に輸出する。ニューヨーク・ガルヴェストン・ヒューストン等は棉花の大輸出港として知られてゐる。英領印度はアメリカ合衆国に次ぐ大産地で、デカン高原をその主要栽培地とし、大部分をボンベイから輸出する。エジプトは、ナイル河流域に栽培され、優良な棉



花の産を以て名高い。我が國には殆ど産出せず、需要はすべてアメリカ合衆國、英領印度、エジプト等からの輸入に仰いでゐる。

麻 亞麻には纖維用と種實

用とがあり、纖維用は温帶の稍、寒冷な地方で栽培され、ソヴェト聯邦、ポーランド等が大産地である。種實用は熱帶又は亞熱帶地方で栽培され、アルゼンチン、アメリカ合衆國、英領印度等が主産地である。我が國では北海道に少しく産する。大麻にも種子用と纖維用とがあり、纖維用は温帶地方に、種實用は熱帶又は亞熱帶地方で栽培される。大麻纖維の半ばはソヴェト聯邦が占め、イタリーその他のヨーロッパ諸國がこれに次ぐ。又大麻種實の大産地はソヴェト聯邦、ポーランド、ルーマニア等である。我が國では栃木、廣島、長野の諸縣に少しく産する。黄麻は熱帶の産物で、印



經濟發達史上では狩獵時代の後に現はれたもので、これによつて人類文化の發達は著しく促進され、今日でも世界中に廣く行はれてゐる。

**牧畜業の地理的條件** 動物は地形や氣候の支配をうけることが少いので、その主食料である牧草の繁殖する土地ならば概ね到る處に牧畜業が行はれてゐる。併し熱帯や温帯の多雨な地方の草木は、餘り粗剛にすぎ、牧草には適せず、而もこれらの地方では農業が一般に行はれてゐるために、牧畜は主に農家の副業として行はれ、規模が概して小さい。氣候の稍乾燥した廣大な平原は牧畜に好適であり、且つ農業には不適當なので、そこでは一般に豊かな牧草を利用して牧畜を專業とし、大規模に放牧を行つてゐる。牧畜には平坦な草原が最もよいが、山麓や山腹の傾斜地を利用して行はれることがある。又土地が廣く、人口の少い地方では、牧畜は主に大規模な專業として行はれるが、人口の稠密な地方では概ね小規模な副業として行はれ、舍飼される場合も少くない。

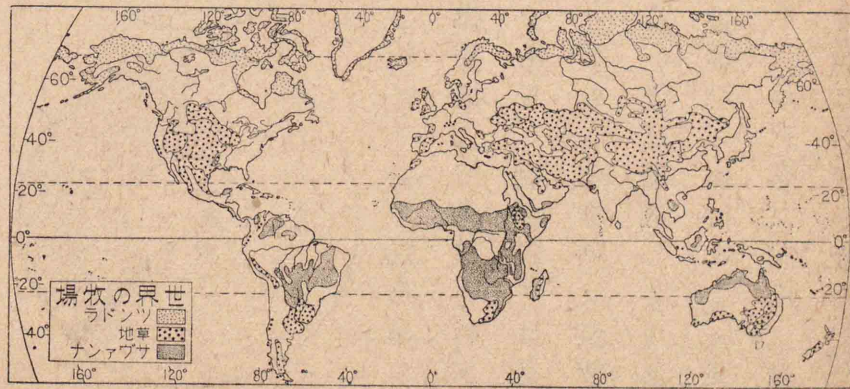
**牛** 家畜の大宗で、肉・乳・皮その他を供給し、又力役に供される。氣候に

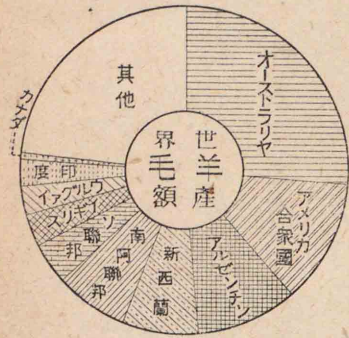
度のガンジス河流域の平原に廣く栽培され、印度の大富源の一としてカルカタから各國に輸出されてゐる。苧麻は温帯・亞熱帯に栽培され、支那英領印度等を主産地とする。

### 第三章 牧畜業と養蠶業

#### 一 牧畜業

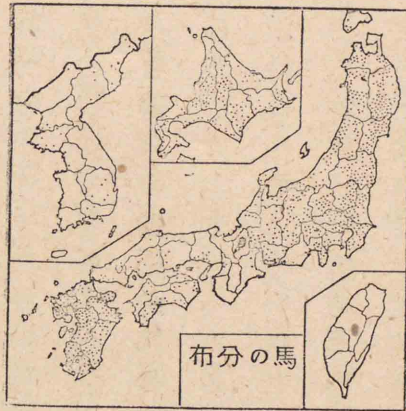
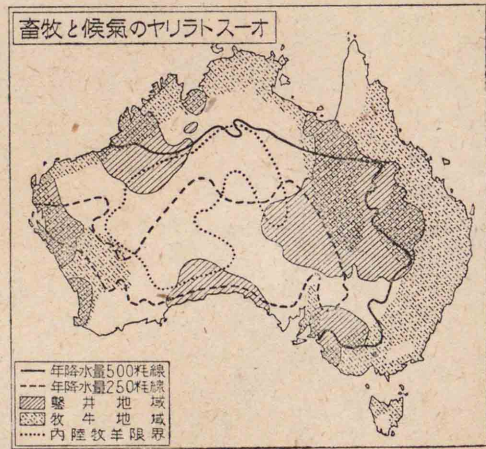
**牧畜業** 動物を飼養し、衣服原料・皮革・食料品・骨・牙等を得、又は交通耕耘等に利用することを目的とする産業で、飼養される動物は家畜又は家禽といはれる。地球上に現存する動物の種類は非常に多いが、今日家畜となつてゐるものは牛・馬・羊・山羊・豚・驢・騾・駝・象・馴鹿・狐・兔・犬等に過ぎず、又家禽としては鶏・鵞・七面鳥・駝鳥等がある。牧畜は人類の





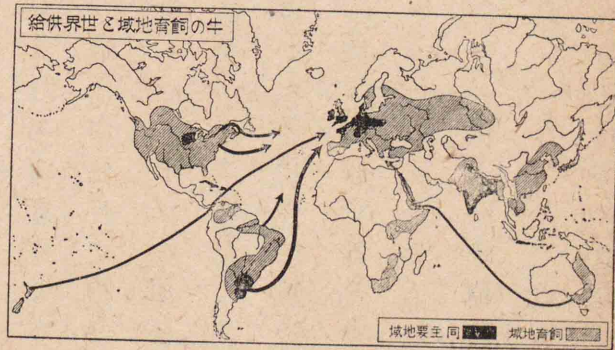
関係があるので、何れの國も特別な保護を加へて品種の改良と飼育の隆盛とに努力してゐる。ソヴィエト聯邦、アメリカ合衆國、アルゼンチン、ブラジル、ポロランド、ドイツ、カナダ等に多い。我が國の牧馬數は列國に比して甚だ少いので、最近その増殖に力を注いでゐる。羊 牧羊は冷涼で乾燥した氣候をもつ廣い平原に適してゐる。オーストラリアの東

南地方はこの條件をよく具備し、世界第一の牧羊地帯となつて居り、シドニーは羊毛の世界的大市場である。オーストラリアは、同港を始めその他の諸港から、莫大な羊毛、羊肉、羊皮をヨーロッパの諸國や我が國へ輸出してゐる。アルゼンチン、南アフリカ聯邦も羊毛の輸出が多い。我が國は風土が牧羊に適し



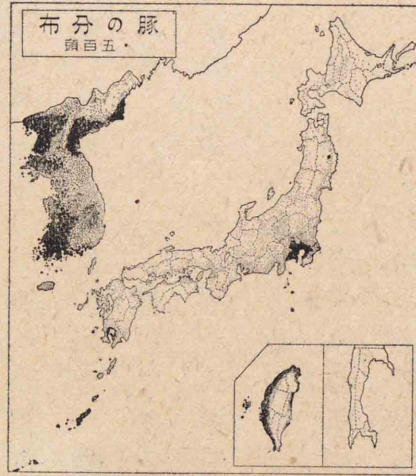
對する抵抗力が強いので、各地で飼養されてゐる。英領印度、ソヴィエト聯邦、ドイツ、フランス、ポロランド等のヨーロッパ諸國もまた盛に飼養してゐる。西ヨーロッパのデンマーク、オランダ、スウェイス等は北アメリカの東北地方とともに乳牛を多く養ひ、乳製品の大輸出地となつてゐる。北アメリカのプレリー、南アメリカのパンプス、オーストラリアの東南部等は肉牛を大規模に飼養し、生肉、罐詰皮革等の大供給地帯となつてゐる。我が國は從來主に牛を力役に供したので割合に少く、國內の肉需要を自給することが出来ない。

馬 耕耘、運搬等の力役に用ひられ、經濟上重要であるばかりでなく、軍事上にもまた重大な

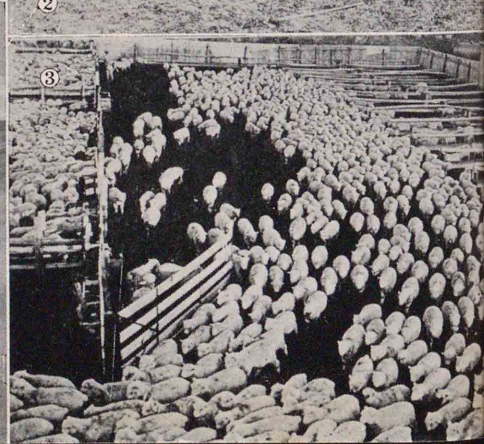
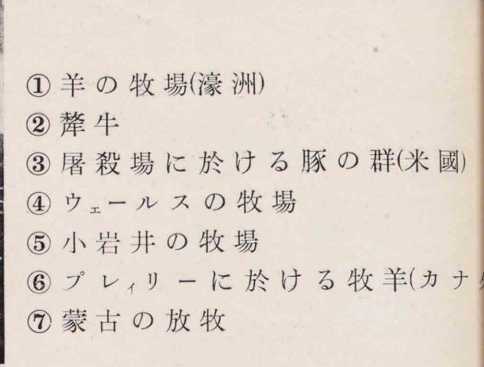
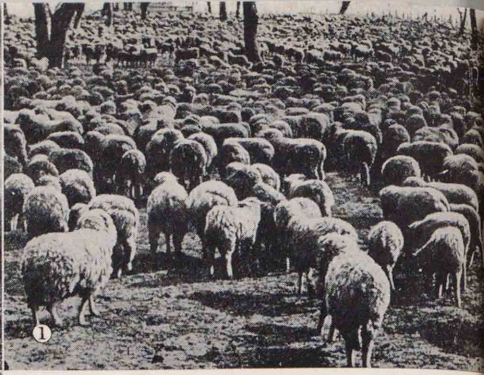
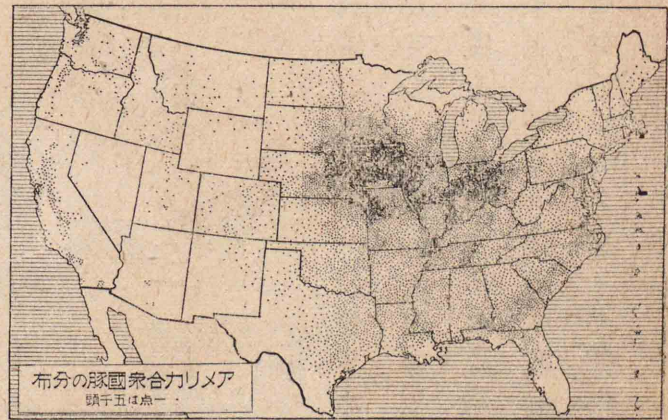


てゐないために、官民が非常に努力してゐるが、牧羊は不振で、国内で消費する羊毛の殆ど全部は主にオーストラリアから輸入する。

豚 他の家畜と違って草根や穀物を主食とし、粗食であるので、肉用として多く舎飼される。支那アメリカ合衆國に多い。尙豚は我が國の家畜中で最も多い。



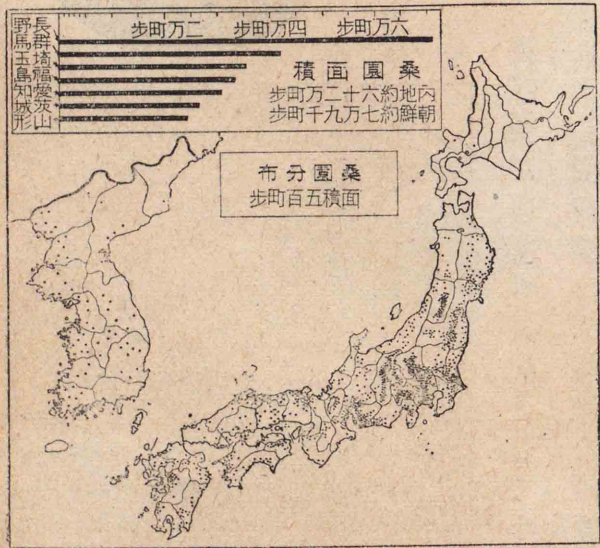
鶏 家禽として第一位に位するのは鶏である。鶏の原産地はマレー半島といはれてゐるが、古くから人類の伴侶であり、今日では廣く世界中に飼養されてゐる。アメリカ合衆國・支那・ソヴェト聯邦・ドイツ・イ



①羊の牧場(濠洲)  
②犛牛  
③屠殺場に於ける豚の群(米國)  
④ウェールズの牧場  
⑤小岩井の牧場  
⑥プレリーに於ける牧羊(カナダ)  
⑦蒙古の放牧



支那に始まつたもので、太古朝鮮を経て我が國に傳來し、はるか後世になつてヨーロッパに傳來した。今日世界養蠶の中心地は我が國である。我が養蠶業は支那から傳來し、太古から行はれてゐたが、徳川幕府の開國後生絲の海外需要が莫大で、輸出が旺盛となつたので、それ以後急激に發達した。長野・群馬・愛知・埼玉・山梨・岐阜の諸縣を始め、本州の中央高地に特に盛大に行はれ、繭産額は世界産額の

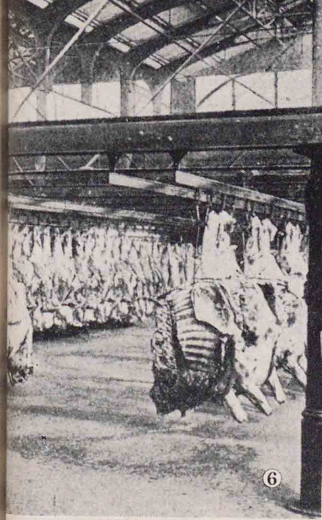
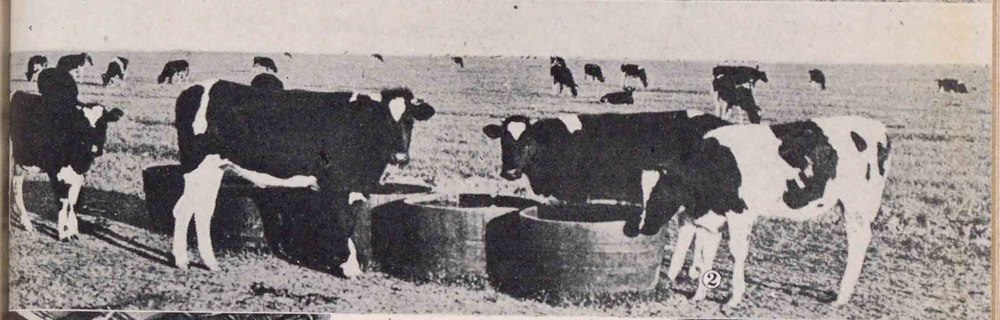


養蠶業

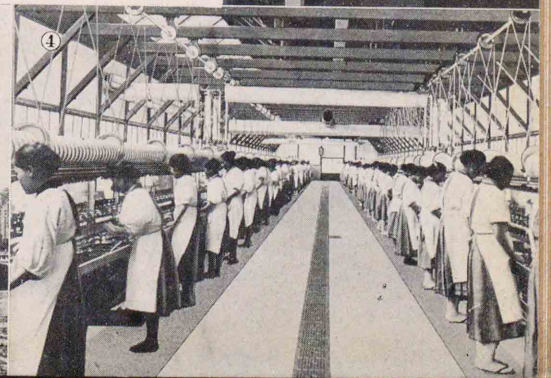
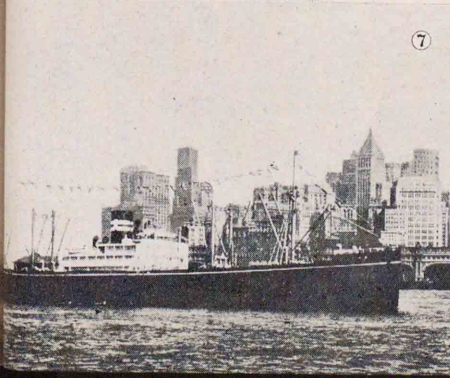
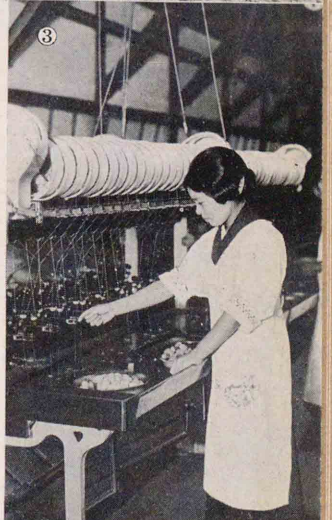
蠶を飼養し、繭を採取し、製絲に供することを目的とし、元來は

二 養蠶業

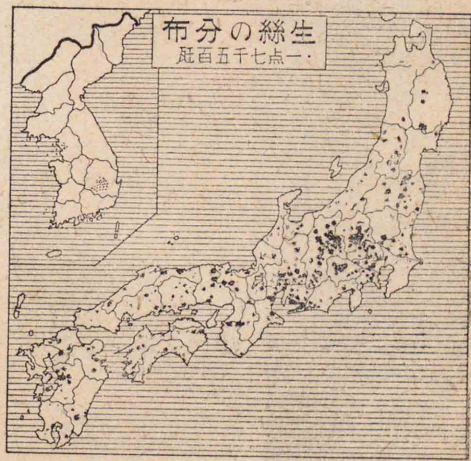
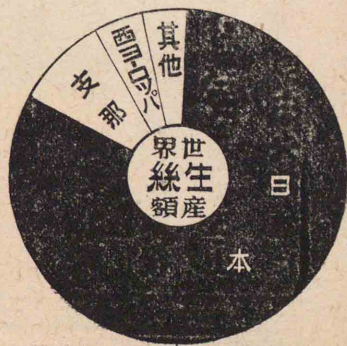
ギリス・カナダ・日本等である。



① 盛岡の馬市  
② オランダの牧牛  
③ 製絲工場の一部  
④ 岡谷の製絲工場  
⑤ 羊毛の運搬濠洲  
⑥ 冷蔵庫内の牛肉(シドニー)  
⑦ 生絲輸送の快速貨物船



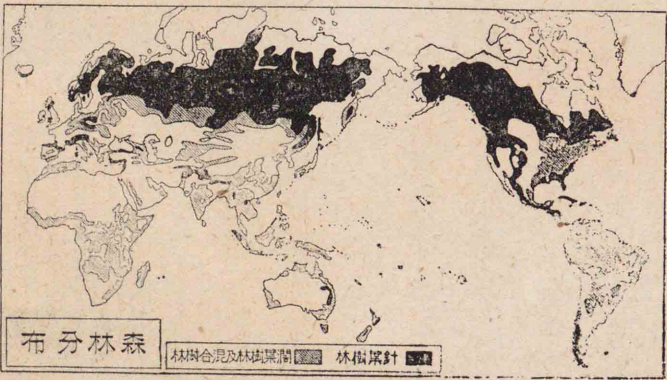
三分の二以上を占めてゐる。支那は世界最古の養蠶國であるが、今日では我が國に壓倒されて、揚子江・珠江の流域で行はれる。イタリーのポー河流域、フランスのリヨン附近もまた養蠶地として知られてゐる。



**製絲業** 繭を原料とする工業である。養蠶業が農家の副業として小規模に經營されなければ行はれ得ないのに對し、製絲業は大規模な經營の方が有利であるので、近年は次第に大工業化しつつある。世界の生絲産額の七割は我が國が占めてゐる。我が國では製絲業は長野・群馬の諸縣を始め、概ね繭の大産地に發達し、生絲は米に次ぐ重要な産物で、その大部分は輸出される。又支那・イタリーも生絲の輸出國となつてゐる。

### 第四章 林業

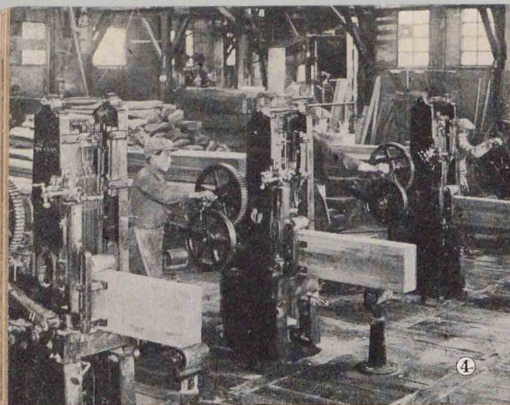
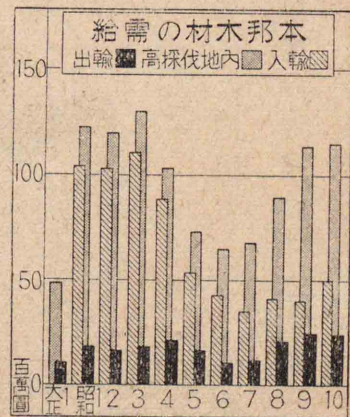
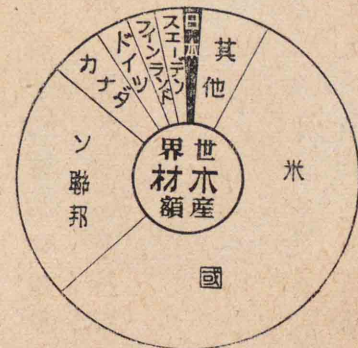
**林業** 樹木を採取し、又は育成する産業であつて、木材の獲得を主要な目的とするが、なほ樹皮・樹液・樹脂・果實等をも獲得する。木材は家屋器具・船車等の製造に用ひられ、又燃料にも供されて來たが、更に近代においては紙・人造絹絲・人造纖維・セロファンその他の工業原料としての需要が増大して來た。今日の林業は農業のやうに植物の育成・培養するまでには發達せず、概ね天然資源の採取にとゞまつてゐる。



**森林の種類** 森林は林相によつて自然林・人工林に、樹種によつて針葉樹林・闊葉樹林及び混合樹林に、氣候帯によつて熱帯林・温帯林及び寒帯林に分けられる。世界の森林は元來全部自然林であつたが、近年は植林が

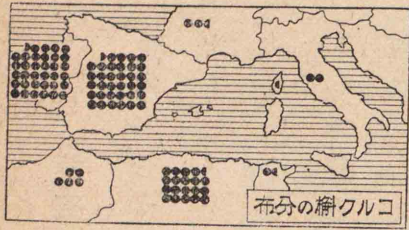
行はれるやうになり、人工林も多くなつた。熱帯林は多く潤葉樹からなり、その産出木材は材質が堅く、家具裝飾品の製造には適するが、家屋の用材製紙原料などには適しない。温帯林は潤葉樹及び針葉樹から成り、建築用の良材に富んでをり、寒帯林は概ね針葉樹から成り、パルプの製造原料建築用材等を多く供給する。

**木材の生産** 木材は薪炭材と用材とに分けられるが、薪炭材はそれぞれの地方で自給されてゐるので、國際的には殆ど移動せず、國際商品として價値の大きいのは専ら用材である。アメリカ合衆國、ソヴィエト聯邦、カナダ、フィンランド、スウェーデン等が木材の大産出國兼大輸出國で、その大輸入國はイギリス、フランス、ドイツ、日本等である。



- ① ゴム園(マレー半島)
- ② 樟樹(臺灣)
- ③ コルクの山積(スペイン)
- ④ 製材工場(秋田木材會社)
- ⑤ 製材所(米國オレゴン州)
- ⑥ 南米ギヤナの森林
- ⑦ 寒帯性森林の林相(北海道)
- ⑧ 木材の伐採(カナダ)



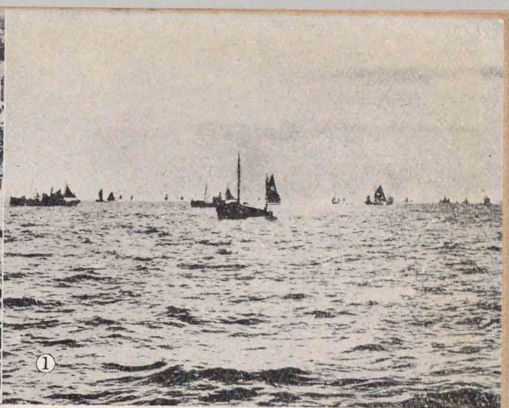
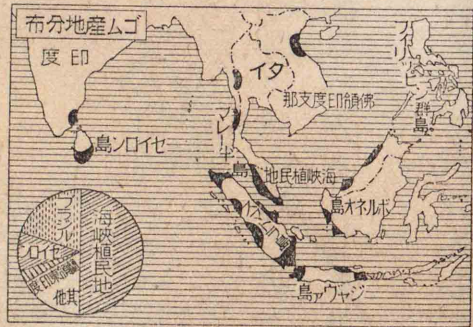


地中海沿岸西部の特産物で、殊にイベリヤ半島がその大産地である。

コルク コルク櫛の樹皮で、罎の栓その他に需要が多い。

イギリス・ドイツ・フランス・カナダ・日本等もまたゴムの主要な輸入国である。

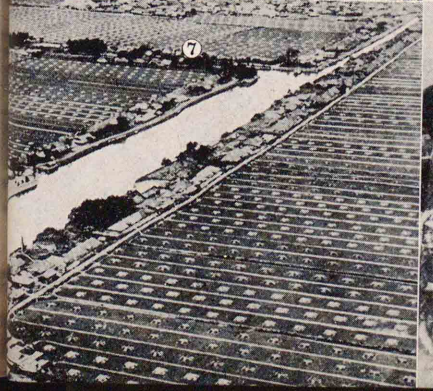
ゴム 最近自動車・航空機等の交通機關の發達につれてとみに需要が増大した。護謨樹は高温・多雨な地方に生育する。マレー半島・マレー諸島・セイロン等に盛に栽培されその産額は世界生産の殆ど全部を占める。これ等の地方の護謨樹はもと南アメリカの熱帯地方に野生したものを移植して人工的に栽培したものである。アメリカ合衆國は世界最大のゴム消費國で、世界生産額の二分の一を輸入し、概ね自動車のタイヤの製造に使つてゐる。



① ノールウェー近海の漁場  
② 數の子を抜く作業(北海道)  
③ 鯨の漁獲(北海道)  
④ ベルゲンの漁港



⑤ 鮭の罐詰工場  
⑥ 魚市場(イギリス)  
⑦ 鹽田(三田尻)

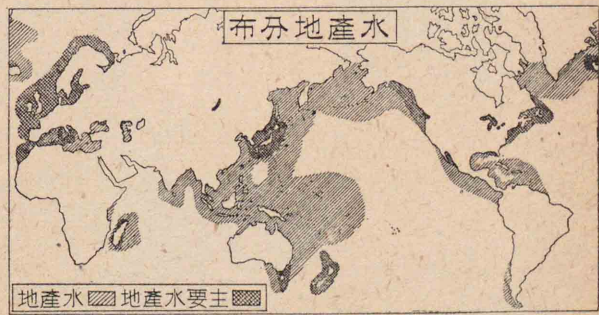


第五章 漁業

漁業

魚族やその他の水生動物を獲得し、又は養殖することを目的とする。地球の表面の七割餘は水に蔽はれ、そのうちに棲息する生物の種類と數量とは殆ど無盡藏といつても差支へなく、人類の食料肥料工業原料として大なる價值をもつてゐるので、古くから廣く獲得されて來た。民族によつては専ら漁業によつて生命を維持してゐるものもあるが、漁業の産業上の價值は他の産業に比して稍劣つてゐる。漁業は水面によつて河湖漁業と海洋漁業とに分けられる。河湖漁業は海洋漁業よりもはるかに劣つて居り、今日の漁業は専ら海洋漁業である。更に漁業には沿岸漁業、遠洋漁業等の別がある。

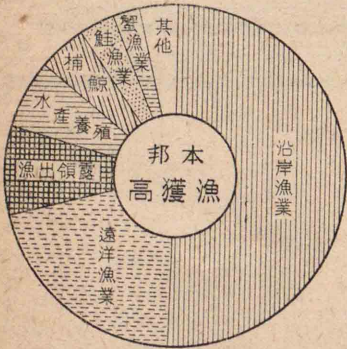
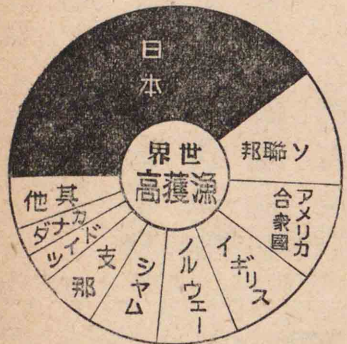
**漁業の地理的條件** 地球の表面の七割を占める海面のすべてが漁業



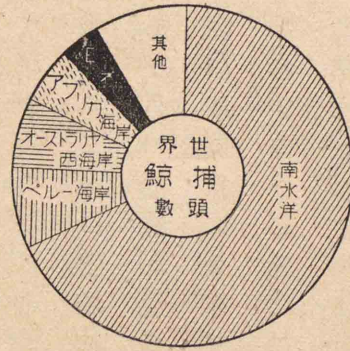
に適するのではなく、大體深度二百米以内の陸棚が漁場としての價值が多い。これは陸地に近い淺海は浮流生物が多くて魚族の飼料が豊かであり、且つ海藻が茂つて魚族の安息所となる上に、魚族は産卵期には概ね海岸の近くに集來するためである。又海流のある所、殊に暖流と寒流とが合するところには暖海や寒海の魚族が集來するので、好漁場が多い。漁業は氣候にも支配され、暖海と寒海とは魚族を異にし、高緯度の地方では夏季にしか漁獲が行はれない。熱帯地方の漁業が盛大にならない一理由は高温なため漁獲物が腐敗し易いことにもよる。

**世界の漁場** 世界の漁場

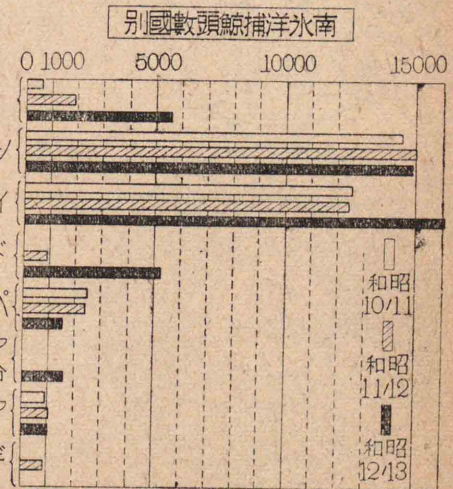
は概ね北半球の寒海にある。北海を中心とする北大西洋漁場、ニューフランドランド沖合の北大西洋漁場、日本近海からオホーツク海、ベーリング海に至



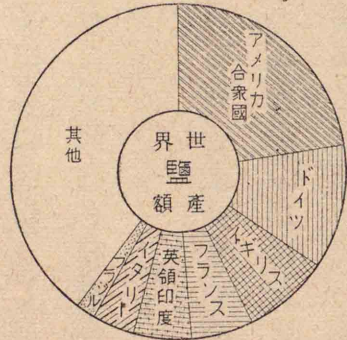
る北太平洋漁場を世界の三大漁場といふ。魚獲物 最近の世界の魚獲物は千五百萬噸、價額約二十七億圓に達すると云はれ、鱈、鮭、鯨等の魚族及び貝類、海藻等がある。世界の大漁場を近くに有する我が國は世界第一の漁業國である。我が國が古くから獸肉に乏しかつたにも拘はらず、動物性食物に不足しなかつたのは一にこの豊富な魚獲物があつたためである。



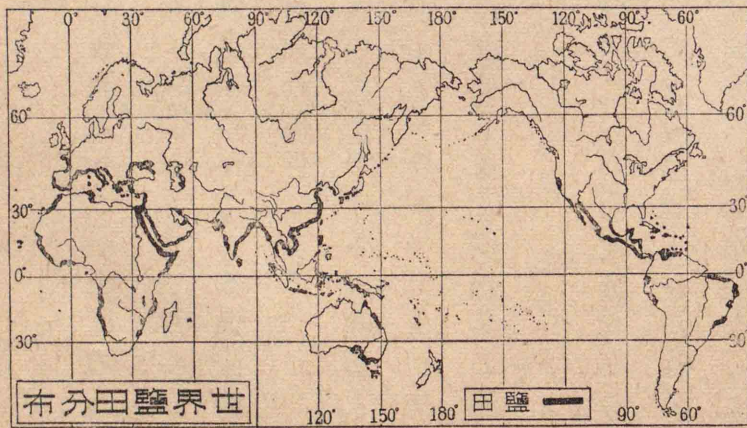
漁業は概ね天然の富源を採集するにとゞまるが、人工養殖も多少行はれてゐる。養殖物としてはアメリカ合衆國、フランス等の牡蠣、我が國の特産である養殖眞珠等がある。海獸には北太平洋の臘虎、臘肭獸、南極海の鯨等が



ある。ノールウェー、イギリス、日本等は捕鯨業が盛で、南極海にまで出漁する。魚獲物の一部分はそのまゝ、食料に供されるが、他の一部分は食料品工業の原料となり、罐詰、鹽製、乾製等に作られた上食用に供される。なほ魚獲物のうちには肥料、油脂、藥品等の製造に用ひられるものも少くない。



鹽 鹽は岩鹽として地中に埋没し、又鹽湖、鹽泉からも得られるが、東南アジア、地中海沿岸、南アメリカ等では天日又は火力によつて海水から採取される。我が國の鹽は海水から採取されるが、最近需要が増加したので、工業用鹽は主に支那、滿洲國、アフリカ等からの輸入に仰ぐ。



第六章 鑛業

一 鑛業

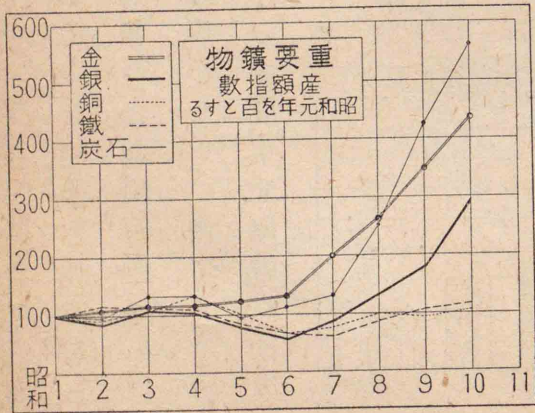
鑛業 地殼中に埋藏される有用鑛物を採集し、製鍊することを目的とする。鑛業は天然資源を單に採集するだけであつて、これらを人工的に育成培養することが出来ない。天然資源の豊否、その存在する位置の良否等の地理的條件は、鑛業の發達を支配する有力な條件である。

金屬性鑛物と非金屬性鑛物 鑛物の種類は多いが、そのうちで經濟上の價値の大きいのは鐵、金、銀、銅、錫、鉛、亞鉛、ニッケル、アルミニウム、マグネシウム、白金等の金屬性鑛物と、石炭、石油、石材、岩鹽、加里鹽、硝石、硫黃、燐鑛等の非金屬性鑛物とである。

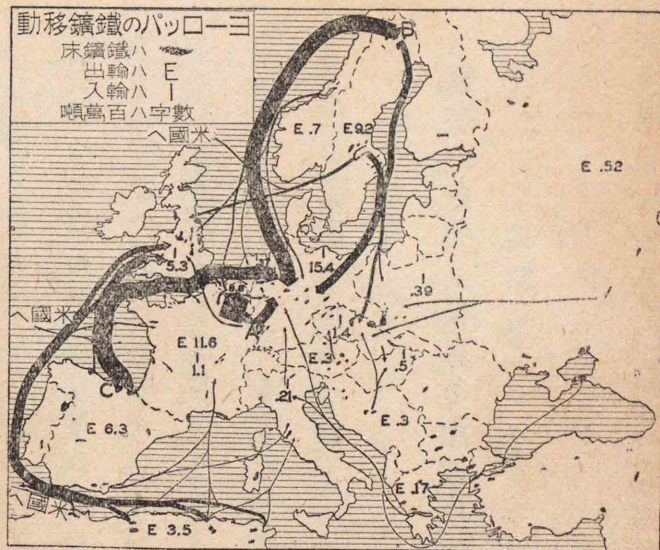
金屬は概ね比重が大きいので、元來は地殼の深所に存在してゐたが、その後地殼の褶曲、斷層、火山の爆發等の作用によつて上層に押し上げられ、更に又これが多年の侵蝕、削磨等の作用を被つた結果、地表又は地表近くに

あらはれ、人類に發見されて利用されるやうになつた。鑛業が地殼變動の激しい山地の産業と云はれるのはこれがためである。又非金屬性鑛物は純粹な物質として採集されるが、金屬は多く他の物質と化合して存在してゐるので、鑛石を採集した上に製鍊する必要がある。然るに金屬の製鍊には概ね深淵な學理、熟練した技術、豊富な資本等を必要とするから、地理的條件の良好なだけでは鑛業は興り得ない。鑛業の發達は高い文化と進んだ産業とを前提とするものであり、又同時に鑛業の發達は文化の發達と産業の躍進とを著しく促進するものである。

鑛業の分布 世界の鑛業は、鑛業發達の條件を最もよく具備してゐる北半球の文化地帯、即ち西北ヨーロッパと北アメリカの東北部とに最も發達してゐる。アジアは鑛物資源の埋藏に

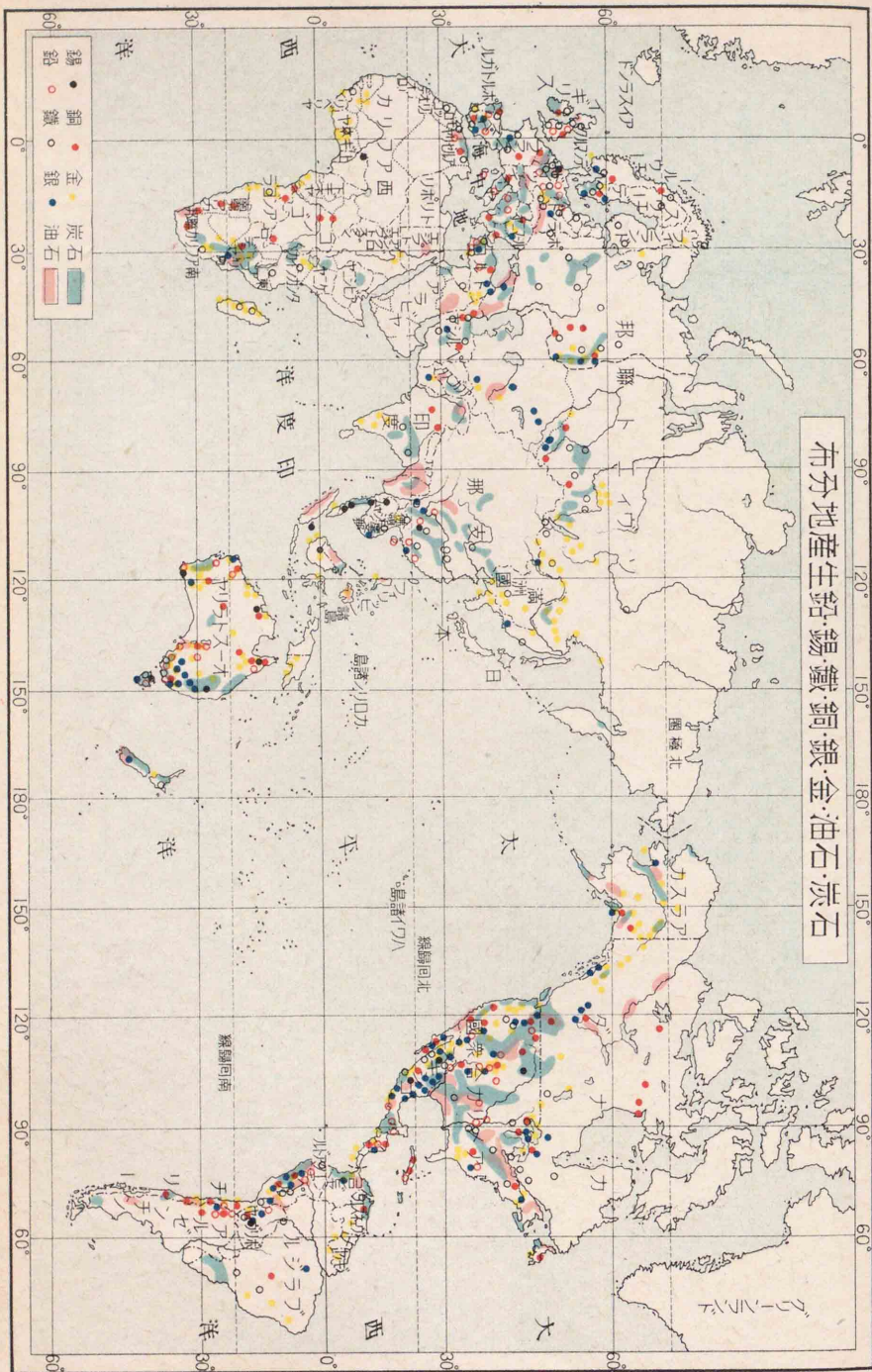
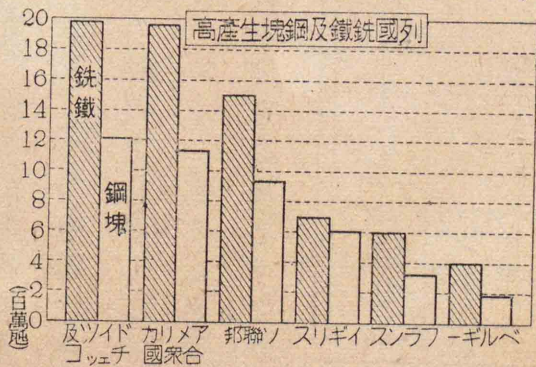


振な地方となつてゐる。

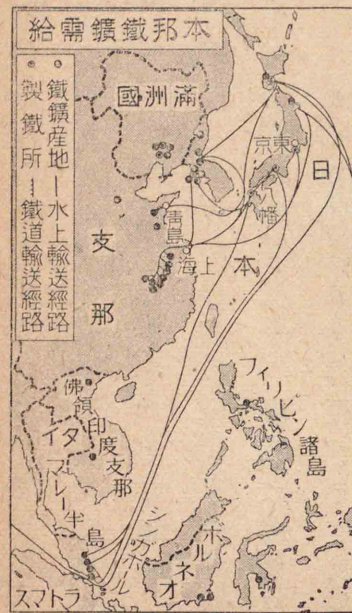


二 重要鑛產物

非常に恵まれてゐるが、東アジアの一部を除いては資源が未だ開發されてをらず、アフリカは南部の金、金剛石、銅等のほかに重要な鑛産がない。南アメリカはアンデス山中の金屬、東北部の石油等があるが、北アメリカに比べれば遙かに劣る。大洋洲は金石炭等のほかは鑛物資源に乏しいので、鑛業の最も不

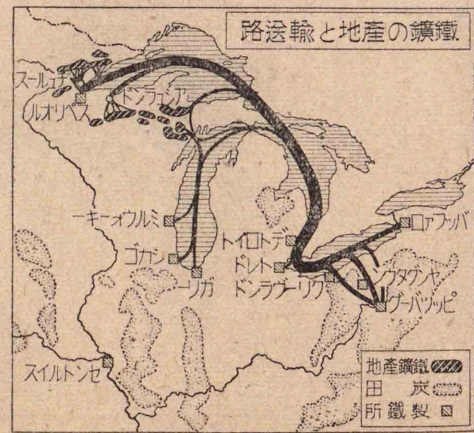






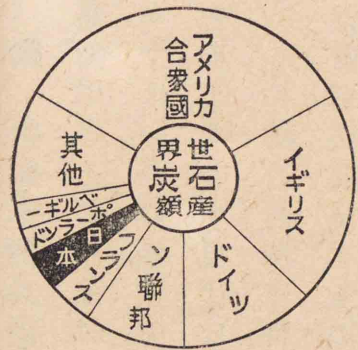
鐵 船舶車輛兵器機械等の製造を始め、土木建築用等その用途は極めて廣汎で、鐵の生産の多少は一國の産業や文化の發達に大きな影響を及ぼすので、現代は鋼鐵時代とまでいはれてゐる。鐵の製鍊は特に熟練した技術と壯大な設備を必要とするので、文化が進み、産業が發達し、資本の豊富な地方でないとは行はれない。鐵の製鍊には鐵鑛石よりも多量の石炭を必要と

するので、製鐵業は石炭の産地に發達する傾向がある。アメリカ合衆國は世界最大の製鐵國で、ドイツイギリスソヴェト聯邦フランス等がこれに次ぐ。我が國は國內に鑛石の産は少いが、滿洲國支那マレー半

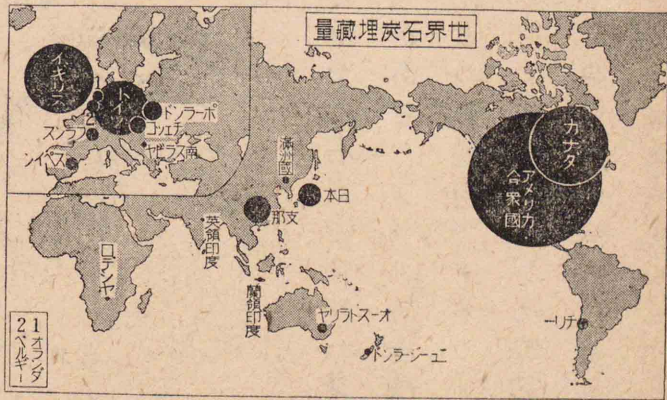


島等から鑛石を輸入し、概ね石炭の産地で製鍊してゐる。銑鐵・鋼鐵ともに近年は産額が激増し、世界屈指の生産額を示してゐる。

**石炭** 太古から多少使用されて來たが、特に十九世紀の産業革命以後その需要が激増し、今日では工業・交通の動力源として、又原料として廣汎な利用範圍をもち、實に鐵とともに近代物質文明の基礎となり、その産額の多少は一國の



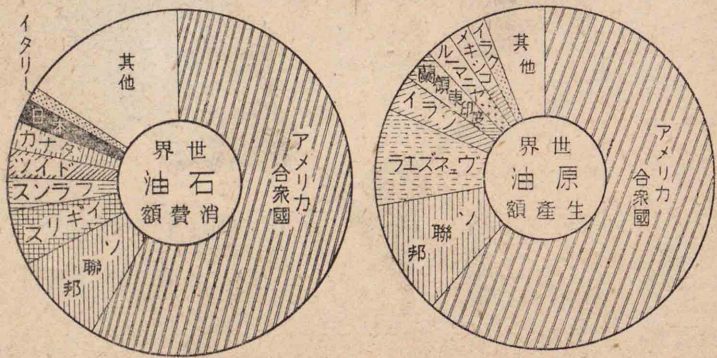
産業の盛衰と深い關係をもつ。世界の石炭埋藏量は七兆噸と稱され、アメリカ合衆國に最も多く、カナダ・イギリス・ドイツ・支那・ポーランド等がこれに次ぐ。アメリカ合衆國・イギリス・ドイツは世界の三大産炭國となつてゐる。我が



國の産出高は一ヶ年約五千萬噸に達し、その埋藏量に比して頗る多い。

**石油** 自動車・航空機・船舶その他の動力源として、又燈火用として盛に用ひられ、近年交通上・軍事上ともに重要となつて、石炭時代と代つて將に石油時代を出現せんとしてゐる。世界生産額の約七割はアメリカ合衆國が獨占してゐる。我が國は秋田・新潟等に産出してゐるが、國內の需要は大部分アメリカ合衆國・蘭領東印度等からの輸入に仰いでゐる。鐵・石炭の産出の豊富な列強のうちにも石油資源を殆ど缺いてゐるものがあり、又世界の石油資源が決して豊かではないので、この近代物質文明に缺くことの出來ぬ貴重な資源を得んとして國際間に猛烈な油田爭奪戰が演じられてゐる。又各國は石油の代用品の作成に集中してゐる。

國の産出高は一ヶ年約五千萬噸に達し、その埋藏量に比して頗る多い。

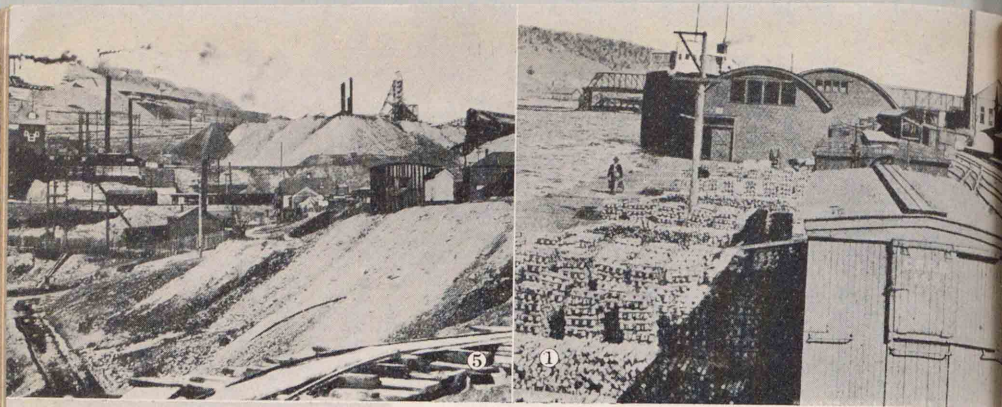
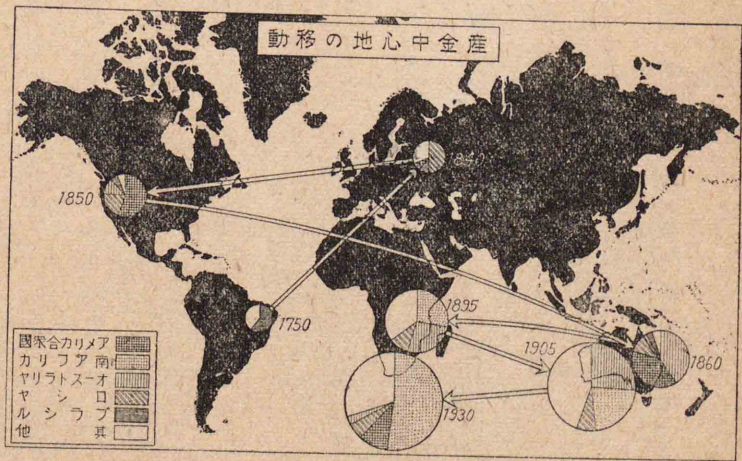
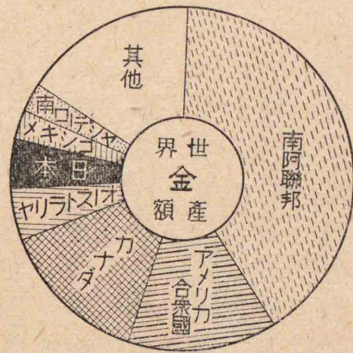
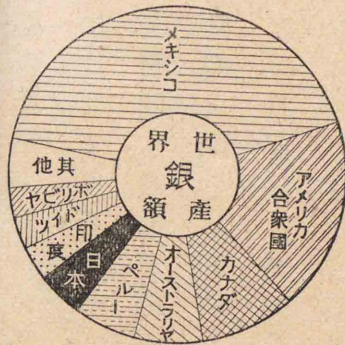


金銀

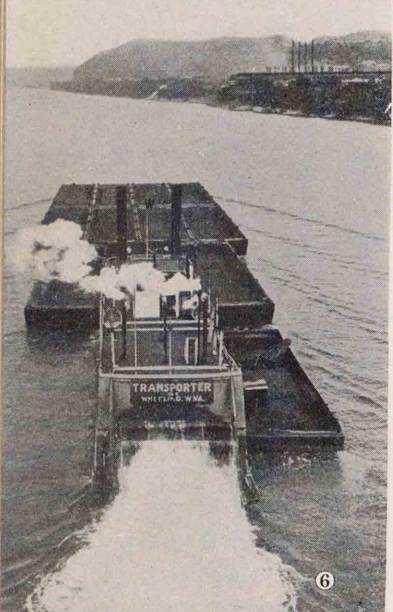
産金の中心地は古くからはげしく移動して来たが、今日では南アフリカ聯邦が

世界産出額約七百兩の二分の一強を出す。我が國の産金額は最近は激増してゐる。銀の主要産地はメキシコ・アメリカ合衆國・ペルー等で我が産額も少くない。

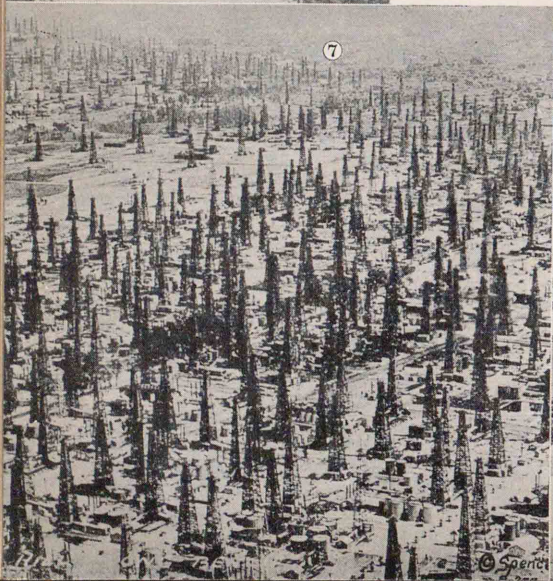
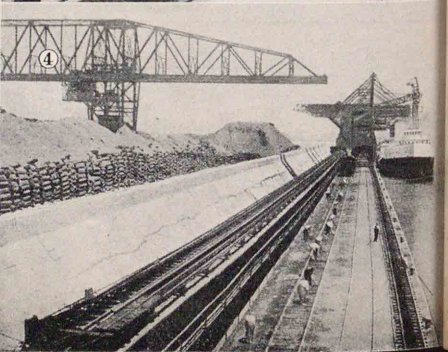
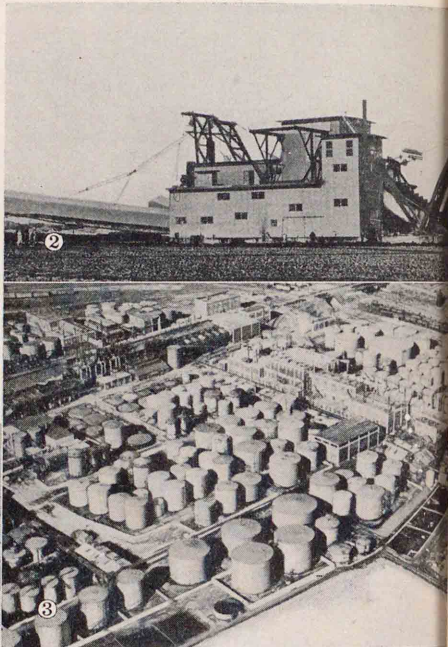
その他 銅はアメリカ合衆國・カナダ・北ローデシヤ・白領コンゴ・日本等に、鉛はアメリカ合衆國・オーストラリア・リヤ・メキシコ・カナダ等に、亜鉛はアメリカ合衆國・ベルギー・ポーラ



① 銅の積出(スベリオル湖畔)  
② 金堤金坑のドレッヂャー  
③ 製油所のタンク(米國)  
④ 鑛石の船積(五大湖畔)

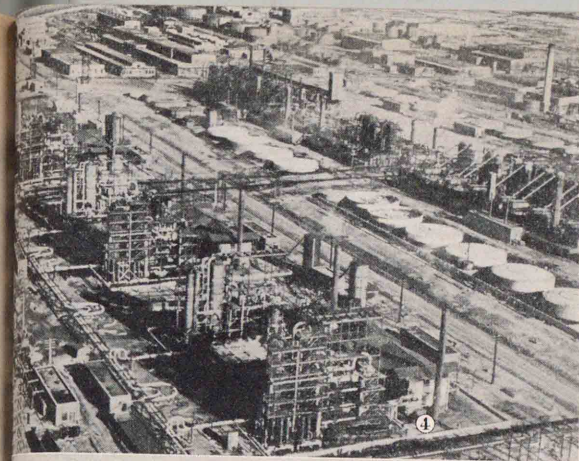
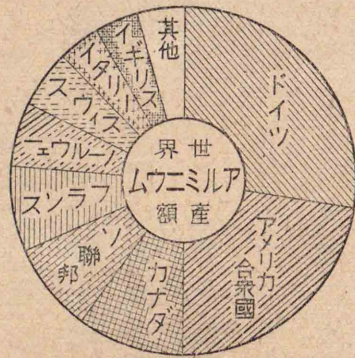
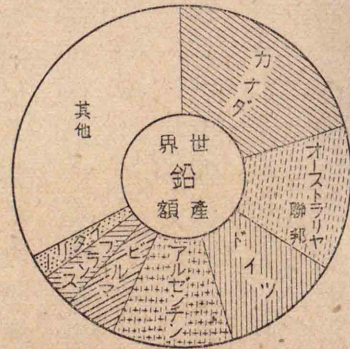
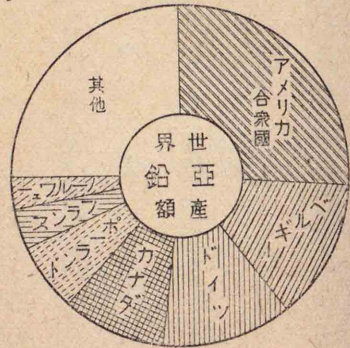


⑤ 南アフリカの金坑  
⑥ 鑛石運搬用舢米國  
オハイオ州)  
⑦ カリフォルニアの油田

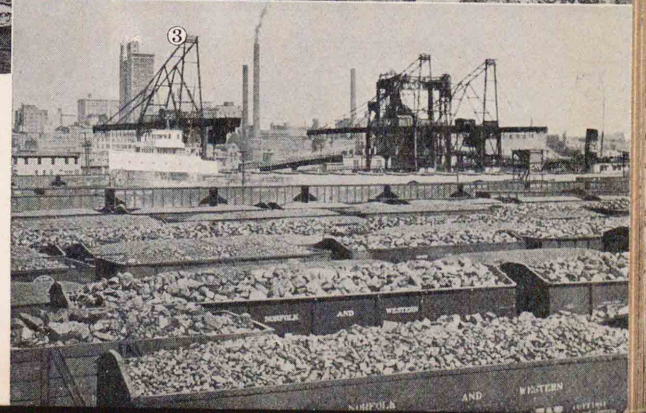
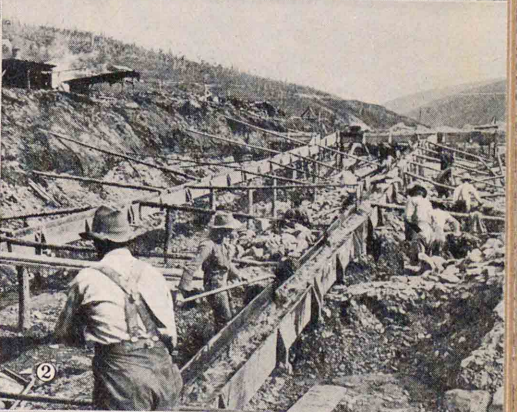
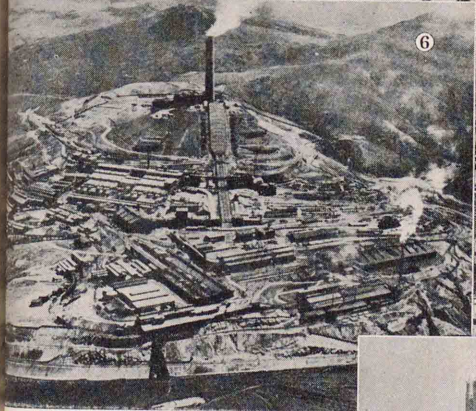
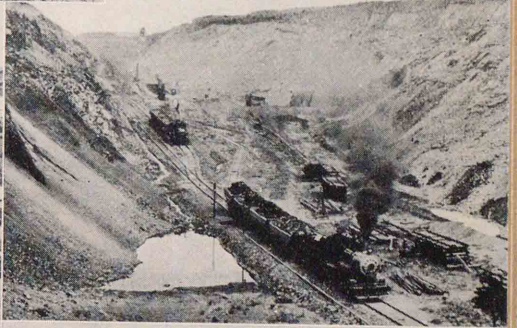
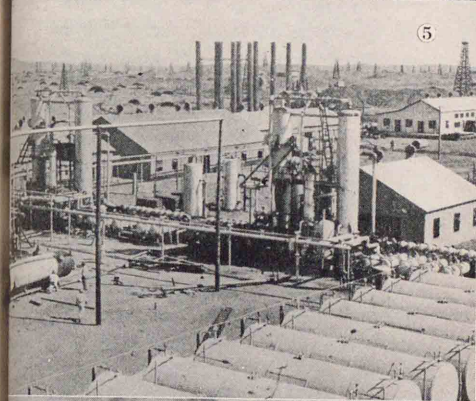


第七章 工業

ンド・カナダ等に、ニッケルはカナダ・ニューカレドニア等に、錫はマレー半島・蘭領東印度等に産する。近年需要が激増したアルミニウムはドイツ・アメリカ合衆国等に産する。我が國も鉛・亜鉛・錫等を産するが、更に最近ではアルミニウム・ニッケル等をも産するやうになつた。肥料・火薬の製造原料となる硝石はチリ一の獨占であり、加里鹽はドイツが大産地である。燐鑛は太平洋中の諸島に産する。地殻中に結晶して存する食鹽である岩鹽はドイツ・アメリカ合衆国等から盛に採掘されてゐる。



① シュペリオル湖岸の鑛山  
② ユーコン地方の金坑  
③ 石炭の積出(エリー湖畔)



④ 製油所(米國 ベイウエイ)  
⑤ 製油所(ペルー)  
⑥ アナコンダ銅山(米國)

一 工業

**工業** 自然の與へる物質を加工して變化するか、または混成することを目的とする産業で、工業によつて加工される物品を原料と呼び、作られた物品を製品と稱する。幼稚な工業は人類の經濟生活の初期からあつたが、科學的な機械的な工場工業は産業革命以後勃興した。産業革命は十八世紀の後半に先づイギリスの纖維工業から始まつて各種の工業に及んだ。これがために生じた工業の生産技術と經營方法との大革新は忽ちの間に多くの文明國に波及した。爾來一世紀の間に各國に大規模な近代的工場工業が勃興し、こゝに所謂近代的な工業時代が出現するやうになつた。

**工業發達の諸條件** 工業發達は文化の一般的發達と因果關係があるが、特に工業の發達を促進する諸條件をあぐれば次の如くである。

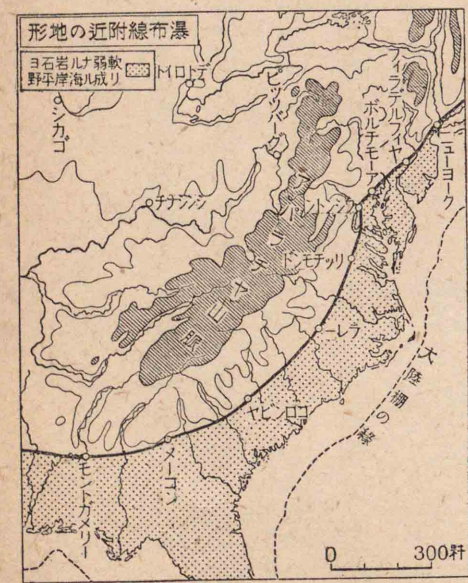
① 地形が良好なこと 工場の設立、原料製品の運送に便利であるから、

平坦な土地や、又海岸、湖岸、河岸等に發達し易い。

② 氣候が良好なこと 氣候は人間活動の能率に關係があるので、工業は概ね氣候の良好な温帶地方に發達してゐる。空氣中の湿度もまた工業の發達に關係があり、イギリスや我が國に棉花工業の盛大なのは湿度の多いことに關係し、又我が長野縣に製絲業の隆盛な一理由は湿度の少いことにある。

③ 原料の豊富なこと 近代の大規模な工場工業は原料の大量的供給を必要とするので、特に原料の豊富なことを必要とするので、原料の豊かな地に工業が發達する。

④ 動力が得安いこと 原料が豊富に存在してゐても、動力がなければ大工業は發達することが出来ないの



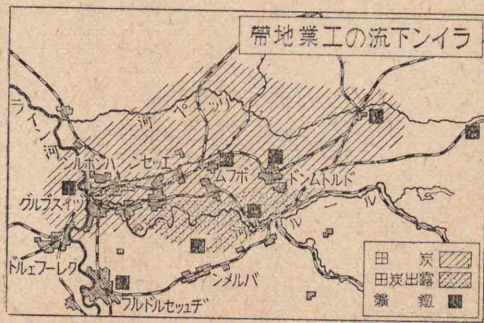
水力・石炭・石油・電力が安價且つ容易に利用し得られる土地に工業は發達する傾向がある。

⑤ 勞力が豊富なこと 大規模な工場工業は機械を極度に利用するが、工業は多くの勞力をも必要とするので、低廉な勞力が豊富に存在することは工業發達の一條件である。

⑥ 消費地に近いこと 近代の大規模な工場工業は製品の販賣を目的として行はれるものであるから、消費地に近いことは工業の發達を促進する一條件である。

⑦ 交通が便利なこと 近代の大規模な工場工業は莫大な資本原料を使い、大量の製品を作り出し、而も概ね原料を他の地方から求め、製品を他の地方へ送るものであるから、これらのものの運搬に便利な交通上の要地に工業は發達し易い。

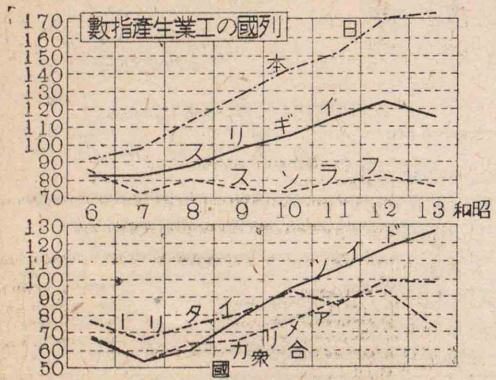
⑧ 資本が豊かなこと 近代の工場工業は莫大な資



本を必要とし、而も大規模になればなる程有利なので、資本が豊富に存在することは工業發達の第一條件で、現代を工業資本主義の時代と呼ぶのもこれによつてゐる。

⑨ 學術が發達してゐること 近代の大規模な工場工業は何れも深淵の學理を應用してゐるものであるから、學術が進歩し、技術が發達してゐなければ工業は到底發達し得ない。

その他、國家の經濟政策や國民の才能等多くの事情が工業の發達に關係あるは勿論であるが、併し企業家が工業を起すに當つては、各種の條件を考慮し、企業の種類に應じて、各條件の輕重を判定し、最も有利な土地即ち最も生産費の低廉な土地に工場を設けるものであるから、すべての工業の發達地がこれらの條件のすべてを具備してゐるとは限らない。

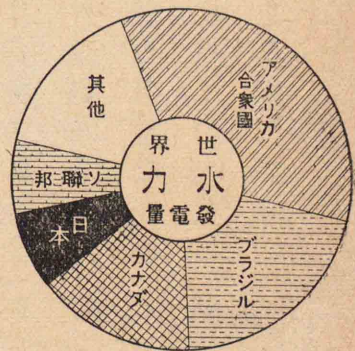


工業と動力源 工業の動力源

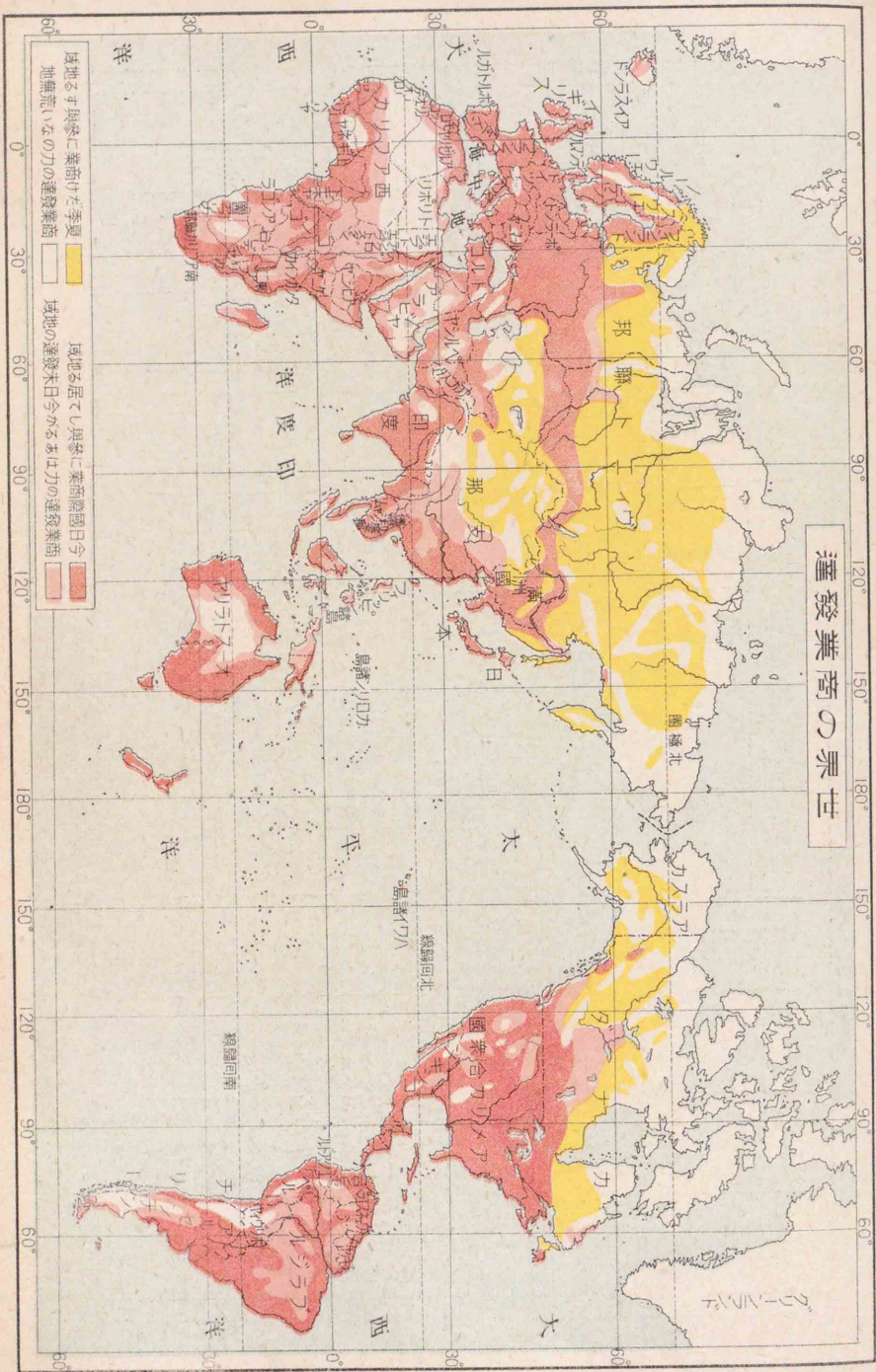
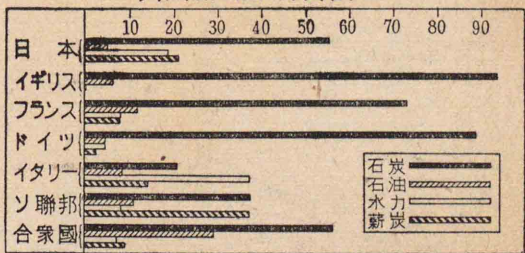
としては人力・動物力・風力等があるが、何れも近代の大工業にとつては殆ど価値がない。石炭は十八世紀末から、近代の大工業の生みの母となつた動力源であるが、

最近に重要となつたのは石油と水力とである。水力は古くから動力源として利用されて來てはゐるが、その價值が特に増大したのは最近に於ける水力発電事業の隆盛による。世界の水力は約四億七千萬馬力といはれ、そのうち今日の利用水力は五千萬馬力で、アメリカ合衆國・カナダ・日本等が主な水力利用國である。

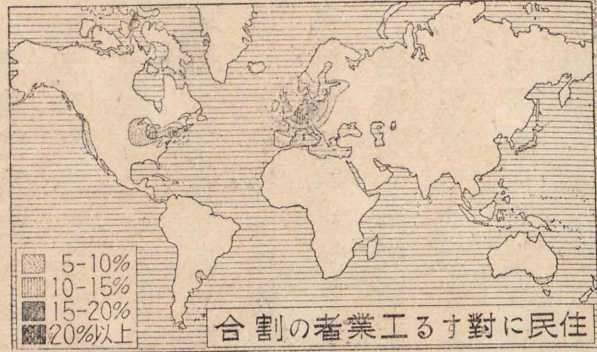
工業の分布 地球上の各地方は工業發達の條件を等しくしてゐないので、工業も一樣には分布してゐない。世界に於て工業の最も發達して



列國動力源消費割合

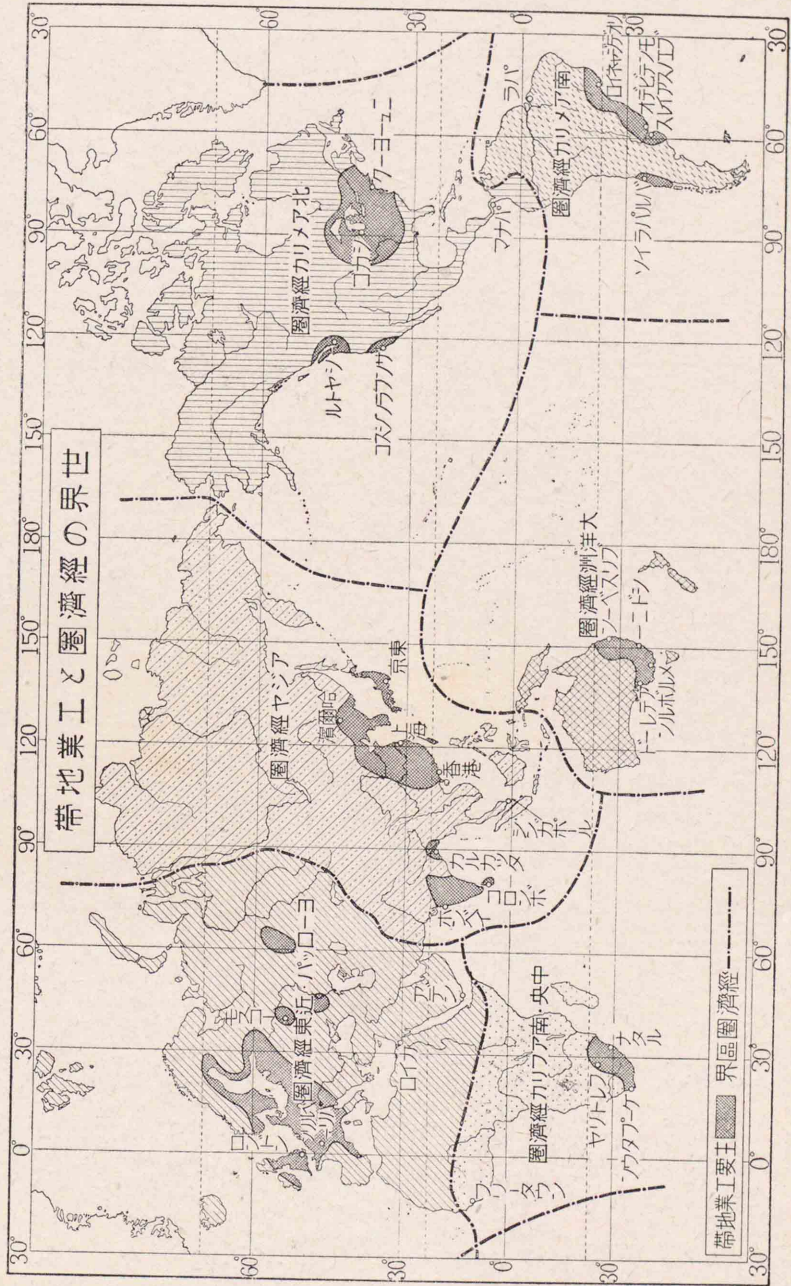
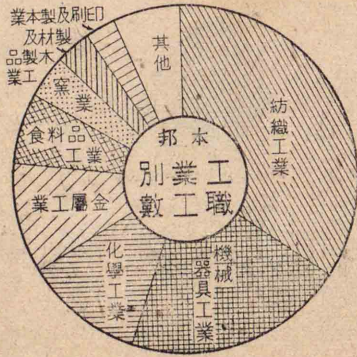
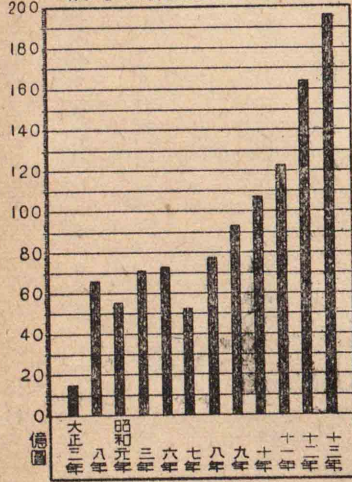


合衆國等である。我が國の近代工業は明治維新以後發達したもので、未だ半世紀にしかならないが、短日月の間に長足の進歩を遂げ、今や世界一流の工業國として歐米



あるのはヨーロッパの西北部と北アメリカの東北部とである。このほか、ヨーロッパの南部、東部の南部、北アメリカの西部、南アメリカの南部、オーストラリアの東南部等にもまた工業が盛に行はれてゐる。職業別構成の上から重要な工業國としてあげられるのは、ベルギー、イギリス、ドイツ、オランダ、フランス、アメリカ

較比年異額產生業工邦本



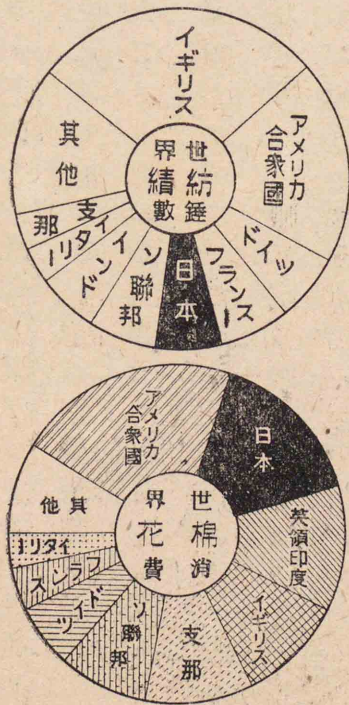


の先進國を凌駕する勢を示してゐる。併し農業人口が多いために、職業別人口構成から見れば我が國の工業人口は非常に少い。

### 二 重要工業

**綿絲綿織物** 古い歴史をもつイギリスは、世界の棉花工業國として今なほ、その地位を保持してゐる。アメリカ合衆國・ドイツ・フランス・印度等も大生産額を示してゐる。我が棉花工業は自然的・人文的條件の良好に恵まれて、短日月の間に長足の進歩をなし、今や我が綿製品は先進國を壓迫して、世界中に輸出され、我が國第一の輸出品となつてゐる。

**絹織物** 絹織物工業は、支那や我が國では太古から行はれてゐるが、今日世界の首位にある絹織物工業國はアメリカ合



衆國である。ニューヨーク近傍のパターソンは世界最大の絹織物工業地として知られる。併し同國は生絲を全く産しないので原料はすべて日本・支那・イタリー等から輸入する。フランスは高級な絹織物の産を以て名高く、リヨンをその中心とする。支那は揚子江下流が絹織物の産地として著名であり、蘇州・無錫等がその中心地である。我が國の生絲の産額は世界に冠絶するが、絹織物の産は稍、少く、京都・足利・伊勢・福井等がその大産地である。

**毛織物** イギリス・アメリカ合衆國・ドイツ・フランス・イタリー・ベルギー等の諸國が大産地である。我が國には従來毛織物の需要が少かつたので、その製織は不振であつたが、近年大いに發展し、今日では毛織物が盛に輸出されるやうになつた。

**麻織物** 亞麻工業は亞麻の産の豊かなヨーロッパに盛に行はれ、イギリス・ベルギー・ソヴィエト聯邦・ポーランド等を主とする。包装用袋を作る黄麻工業は、印度とイギリスとを主とし、カルカッタ・ダンヂーがその中心地で

ある。我が國にも亞麻・大麻・苧麻等を原料とする麻織物工業が各地に發達してゐる。

人造絹絲・人造纖維

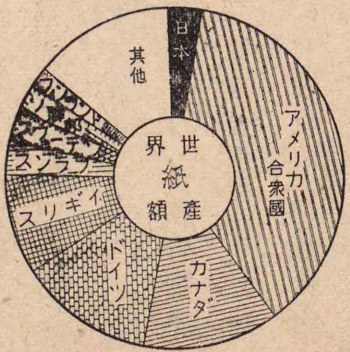
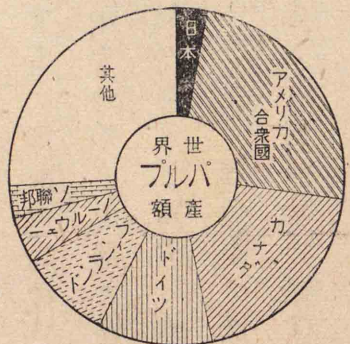
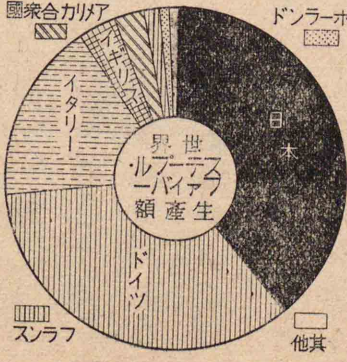
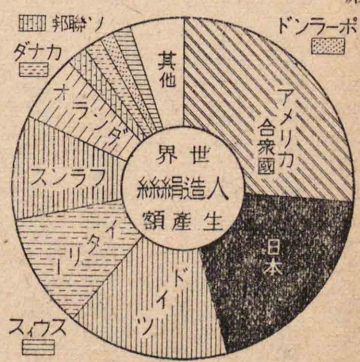
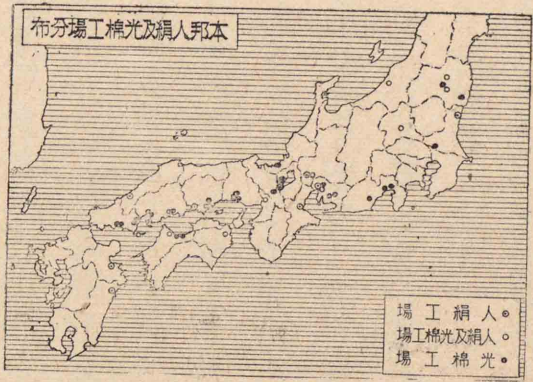
三十年の間に急速に發達した。日本・アメリカ合衆國・ドイツ・イタリー等がその主産地である。我が國

の人造絹絲・人造纖維工業の躍進はすさまじく、今や殆ど世界第一の地位を獲得し、人絹織物の輸出は頗る多い。

パルプ紙

原料には棉花・麻・蘘エスパルト等もあるが、材質の軟い寒帯性の木材を

第一とするので、木材の産の多い地方が一般に製紙業地になつてゐる。我が國の紙には和紙と洋



紙とがある。和紙は樹皮を原料とし、強靱ではあるが、生産額が少い。洋紙は北海道樺太等の木材や外國産のパルプを原料として、大規模に生産され、その産額は極めて多く、國內需要を充して餘りがある。

染料

最初は天然物から採集されたが、十九世紀以後人造染料工業が勃興し、今日では染料の殆ど全部は人造染料で、ドイツ・イギリス・フランス等が主産地である。我が國にも近年盛に産出するが、多少の輸入もある。

肥料

久しい間天然肥料だけが用ひられたが、十九世紀の中葉以後、人造肥料が作られて、農耕に用ひられるやうになり、農業の收穫は増進をうけてゐる。日本・アメリカ合衆國・ドイツ・フランス・イタリー・ベルギー・イギリス等が主要産地である。

**小麥粉** 歐米人の主食であるパンの原料であるから、ヨーロッパやアメリカの諸國では何れも製粉工業が盛大である。我が國にも近年製粉工業が勃興し、小麥粉は輸出されてゐる。大工場は主に開港場に作られ、輸入小麥を原料として製粉してゐる。

**酒類**

業

各國獨特の酒類があつて、國際的にも少からず移動する。葡萄酒はフランス・イタリア・スペインを主産地とし、フランスのポルドー、ポルトガルのオポルト等はその輸出港として有名である。麥酒はドイツを第一とし、イギリス・フランス・ベルギー等これに次ぐ。我が國は麥酒の産が多く、葡萄酒もまた少しく産する。日本酒は我が國獨特の酒で、産額は一ケ年に約四百萬石に達するが、その殆ど全部は國內で消費される。

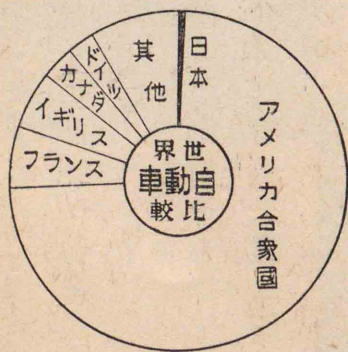
**罐詰**

獸肉・魚肉・果物等の罐詰がある。獸肉の罐詰はアメリカ合衆國・アルゼンチン・ブラジル・オーストラリア等、魚肉の罐詰は日本・アメリカ合衆國・フランス等が大産出國である。又、果物の罐詰ではアメリカ合衆國が有名である。

**機械器具工業**

アメリカ合衆國・イギリス・ドイツ等が特に隆盛であるが、我が國の機械工業も近年躍進をつゞけてゐる。電機工業はアメリカ合衆國・イギリス・ドイツの三國が王座にあり、最近これに迫つてゐるのが我が日本である。紡織機械・農業機械・ポンプ等はイギリス・アメリカ合衆國・ドイツ・フランス・日本等に多い。又アメリカ合衆國のタイプライター・裁縫機械、ドイツの科學機械、アメリカ合衆國・スイスの時計も著名である。造船業は海運と密接な關係があるので、世界の海運國は概ね造船國であつて、イギリス・アメリカ合衆國・ドイツ・日本・オランダ等に盛大である。これに對して、汽車・自動車等の製造の盛大な點で他國を壓倒してゐるのはアメリカ合衆國である。イギリス・ドイツ・フランス・イタリア等でもまた車輛の製造が盛大である。我が國の自動車工業は最近大いに發達し、又汽車製造も盛大で、自轉車の如きは今日では盛に輸出されてゐる。航空機工業は各國とも

業



にその發達に絶大の努力をして居り、アメリカ合衆國、ドイツ、イギリス、  
ヴェト、聯邦等に盛大である。我が國の航空機工業も最近大いに勃興し、  
歐米の先進國と比較して少しの遜色もないやうになつた。

**硝子** アメリカ合衆國は多産を以て、ベルギーは優良な窓硝子を以て、  
ドイツは精巧な光學用硝子を以て著名である。我が國の硝子工業は原  
料技術に恵まれて、大いに發達し、板硝子の生産では世界に並ぶ國がない。  
**陶器** 支那、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オランダ等が主産地  
である。我が國も亦これ等と並ぶ大産出國である。

### 第八章 商業

**商業** 財貨の生産者と消費者との中間にあつて、財貨の交換を仲介と  
することを目的とするもので、社會的分業と交換とを前提とする。分業  
が社會内部に行はれ、各人が最も得意とする生業に従ふことが出來、而も  
交換によつて各生産者が自己の生産する物品を交易することが出來れ



① 絹織物工場(桐生)  
② 製紙工場(北海道)

③ 化學工場(ドイツ、メルゼベルグ)  
④ ジェネラル電氣工場(米國)  
⑤ 製麻工場(ベルファスト)  
⑥ クルップ工場(エッセン)  
⑦ 水力發電所(カナダ)

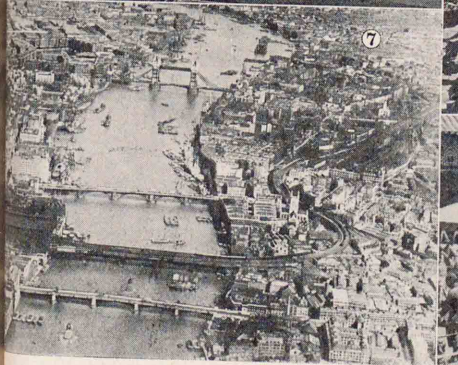
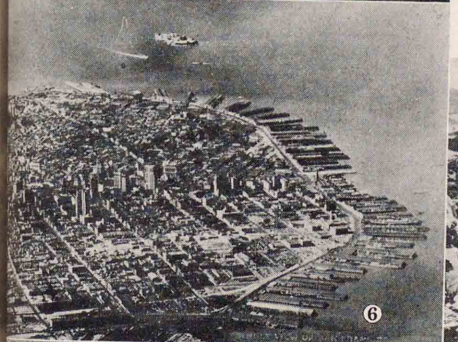
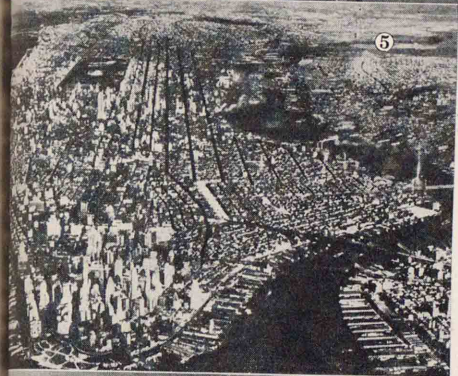
ば、各人は生活をより豊かにするのみでなく、社会全体から見ても極めて有利である。

原始的時代は各民族は小さな團體の内部で、自給自足經濟を營んでゐたが、人智が進歩し、欲望が分化するにつれて分業が起り、職業の差別が生じ、交換があらはれた。最初の交換は物々交換に過ぎなかつたが、後に貨幣が現はれ、これが交換の媒介者となつてから賣買交換が生じ、商業が起つた。最初の間は商品の移動する範圍も狭小であつたが、次第に廣くなり、やがて國家全體となり、遂に今日では世界全體にまで擴がつて行つた。かくて商業は國內商業から國際商業、即ち外國貿易へと發展し、今日では殆ど全部の財貨が商品となつて大量的に國際移動を行つてゐる。

**貿易** 國際商業を指し、輸出と輸入とに分けられる。各國が自然的條件・産業發達の程度・民族性等を異にしてゐるので生産物も異なり、有無相通ずるやうになつて貿易が始まる。貿易が行はれるときは各國とも最も生産條件の有利なものを生産し、これを輸出して交換することが出來



① 株式取引所(ニュー ヨーク)  
② 大邱の市場  
③ 支那の市場  
④ 東京株式取引所



⑤ 空から見たニューヨーク  
⑥ 空から見たサンフランシスコ  
⑦ 空から見たロンドン



るので、各國にとつても有利である。

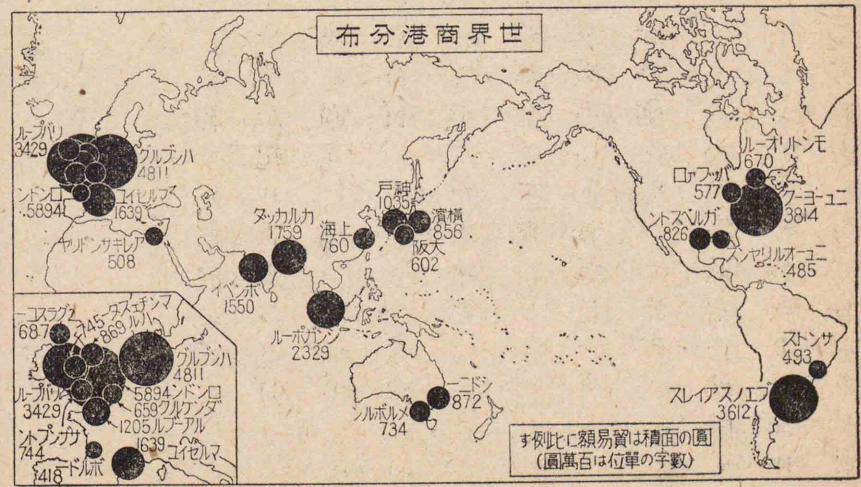
**開港場開市場** 貿易の行はれる商港と商市とを指し、そこには税關が設けられ、輸出入に關する事務を取扱ふ。陸続きの兩國間の貿易は開市場で行はれるが、開市場貿易は開港場貿易に比較して遙かに劣つてゐる。外國船はもとより、外國航路に従事する自國船もまた開港場に限つて入出港することが出来る。開港場のうちには自由港と稱し、輸出入に關税を課さないものがある。これは概ね仲繼貿易のために設けられたもので、自由港市、自由地域等の差別がある。

世界の主要な貿易港は多く大西洋沿岸、

特にその北部に集中してゐる。ニューヨーク、ロンドン、ハンブルグ、リヴァプール、マルセイユ、ルアーヴル、ブエノスアイレス、サントス、ケープタウン等がこれである。近年世界交通上重要になつた太平洋沿岸にはシンガポール、香港、上海、大連、神戸、大阪、横濱、サンフランシスコ、シドニー、メルボルン等があり、印度洋沿岸ではボンベイ、カルカタ等が有力である。

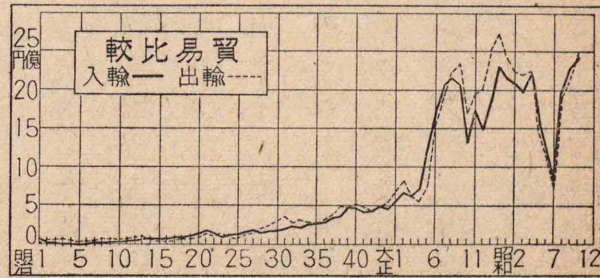
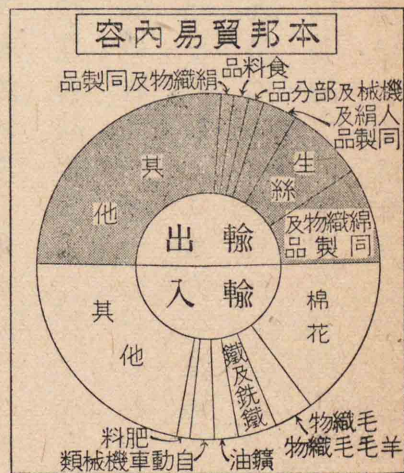
**主要貿易國** 世界の貿易は一時著しく減退したが、最近大いに恢復し、輸出入共に各三百億圓に近い。ヨーロッパは世界貿易額の五割以上を占め、イギリス、ドイツ、フランス、オランダ、イタリア、ベルギー等を主とする。

これらの諸國は概ね原料品、食料品を輸入し、加工品を輸出する。而も多くは入超國であるが、貿易外の収入が多いので、これが決濟される。北アメリカは世界貿易の約二割を占め、アメリカ合衆國、カナダの二國を主とする。なかでもアメリカ合衆國はイギリスと並ぶ大貿易國で、而も輸出が頗る多い。アジアでは日本、滿洲國、支那、英領印度、南アメリカではブラジル、アルゼンチン、大洋洲ではオーストラリアを主とする。北アメリカ、



アジヤ・南アメリカ・アフリカ・大洋洲の諸國は多く原料品・食料品を輸出し、加工品を輸入する。これらの諸國は多く出超を示すが、貿易外では支拂が多い。

國際貸借 國際間の金



錢受拂をいひ、貿易はその最大の發生原因であるが、外債及び海外投資の元利金運賃・保險料・移民の送金・旅費等の受拂も發生原因となる。貿易が入超であつても、これらの貿易外の收支で受取超過になれば、それだけ入超が減じる。世界で貿易外収入の多いのはイギリスとアメリカ合衆國とである。アメリカ合衆國は貿易上も貿易外も受取金が莫大なので、これを諸外國に投資してゐる。我が國も貿易外では受取超過を示してゐる。

第九章 交通

一 交通

交通とは人體又は物體を或る場所から他の場所に移動するの謂である。人類が共同生活を營むにあつては必ず人類自身が彼我往來し、又物品を交換するを要するので、交通は早くから行はれた。最初の交通は小範圍に限られてゐたが、十五世紀以後大洋が交通の舞臺となつた。次に十九世紀に於ける汽車・汽船の發明・普及とともに大洋と大陸とに幾多の交通路が通じ、世界交通が實現した。更に二十世紀には飛行機が發達して空中までも征服された。

交通の地理的條件 地形は交通を支配する第一の地理的條件である。

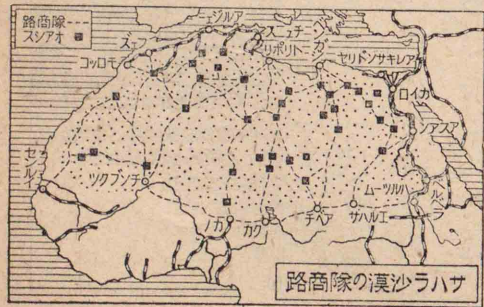
山地は交通を妨げることが大であり、殊に高峻な山地はそのうちにある隘路を除いては全く交通を許さないことがある。併し近年はトンネルをうがつて、この天然の障害を征服しつゝある。平原は交通の發達を著

しく促進し、文明國の稠密な交通網は多く平原に集中してゐる。沙漠は今も交通を妨げることが甚だしく、僅かに駱駝によつて往來する位である。河川の水路は船舶を通じて、海洋と内陸との連絡に任ずるほか、河谷は古來陸路として盛に利用せられて來た。湖沼も亦船舶を通じ、河川と共に鐵道の發達しない地方の重要な交通路となつてゐる。海洋は船舶や航海技術の發達しない時代には交通の障害であつたが、今日ではあまねく人類に解放され、世界の公道となり、交通に貢獻する處が非常に大である。氣候もまた交通を支配する。酷寒の極地、乾燥の沙漠、酷熱の熱帯密林等が交通を妨げることが云ふまでもない。冬季寒冷なために、河川の航行がとゞめられることは寒帯地方で到る處に見られるが、或る地方では冬季の結氷が反つて交通を有利ならしめるところもある。又降雪や大風雨が交通の障害となることはいふまでもないが、併し、風は帆船の動力となり、貿易風、季節風、偏西風等は古來海上交通に利用された。

二 陸上交通

**道路** 往時は最も重要な陸上交通路であつた。原始時代には一定の道路が設けられず、所謂踏分路を利用した。今日でも未開な地方には踏分路が見られ、沙漠の隊商路もその一種である。文化が進むにつれて、完備した道路が必要となつたので、加工路が作られ、木材、石材、煉瓦、セメント、アスファルト等で鋪裝されてゐるものも多い。今日文明國には到る處に加工路が作られてゐる。

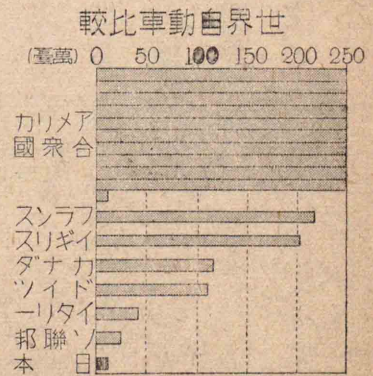
道路上の運搬具には人體、動物、車輛、轎、橇等がある。人體に物品を載せて運搬するのは最も原始的で、能率が低いので、文明國では殆ど行はれず、轎、橇等もまた地方的に用ひられるだけである。牛、馬、驢、騾、駱駝、馴鹿、犛牛、駱駝、象、犬等の家畜は古來盛に馱獸として利用されたが、地方によつてその使用する馱獸は一様ではない。





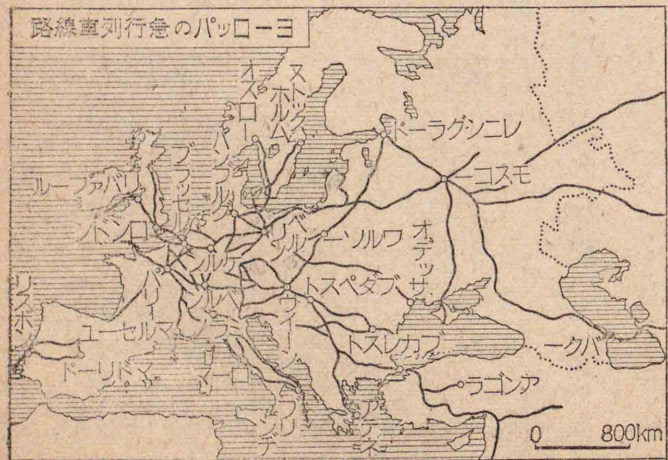
車輛もまた廣く用ひられてゐる運搬具であり、人力による人力車、荷車、獸力による荷車等のほか自轉車、馬車等の進歩した運搬具である。

自動車 最近道路上の運搬具として盛に用ひられて來たのが自動車である。自動車は瓦斯の爆發力を動力とし、比較的輕便な上に速力と運搬力とが大であり、剩さへ地形の支配をうけることもないので、今や短距離交通に大いに貢獻し、これがために鐵道の普及によつて失はれた道路の交通上の價値は著しく恢復された。世界の自動車數は四千三百萬臺を超え、その七割はアメリカ合衆國にあり、フランス、イギリス、カナダ、ドイツ等がこれに次ぐ。我が國の自動車數は僅か十七萬臺で、列國に比して大いに遜色がある。



鐵道 鐵道は鐵製の軌道を敷設した通路上に車輛を運行して人體又は物品を運搬するもので、速力と運搬力との大なる點で、陸上交通の王者

であり、その發達の程度はその地方の文明の發達の程度をはかる一標準となる。鐵道は一八二五年に始めてイギリスに敷設されたが、その便利なことが認められ、その後各國に急速に普及し、今日では世界の延長は百三十萬軒餘に達する。北アメリカ、ヨーロッパの兩洲が最も發達し、その急行列車の如きは時速百軒を超えるものがある。列國中では鐵道延長の最も大きいのはアメリカ合衆國で、實に四十二萬軒に達し、またソヴィエト聯邦、カナダ、英領印度、フランス、ドイツ、オーストラリア、イギリス、アルゼンチン、ブラジル、日本等は何れも三萬軒以上の延長をもつてゐる。面積に對する鐵道延長の最も長いのはベルギーで、百方軒につき、一六三軒に達し、スイス、イギリス、ドイツ、フィンランド、フランス、オランダ

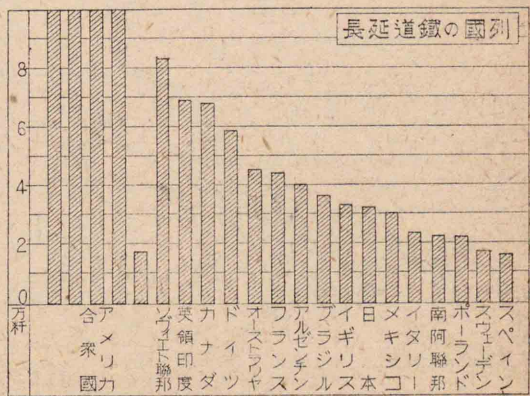


ダハンガリー等は何れも百万方秆につき十秆以上の密度をもつてゐる。朝鮮、臺灣、樺太を含む我が國の鐵道延長は約三萬一千秆で、面積百万方秆につき約四・六秆にあたり、密度はアメリカ合衆國と略同じである。

主要鐵道

アジア洲は面積の大きい割合には鐵道は發達せず、我が國や印度を除いては密度も低い。又大陸横斷の國際鐵道としてはシベリヤ鐵道があるだけで、その他では濱綏線、濱洲線、京濱線、南滿洲鐵道、連京線、京漢線、粵漢線、中央アジア鐵道、バクダード鐵道等が重要である。

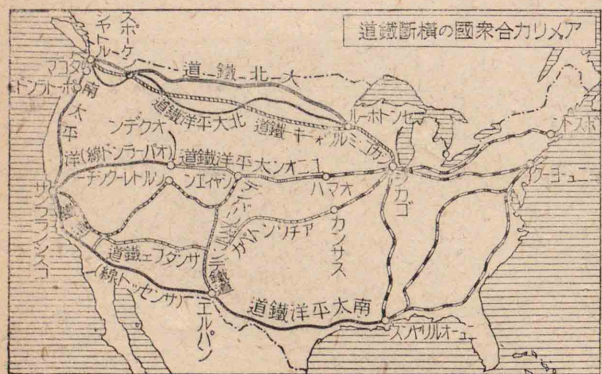
ヨーロッパの鐵道延長は世界鐵道延長の約三割に當り、六大陸中で密度が最も高い。ロンドン、パリ、ベルリン、ウィーン、モスコウ等がその中心で、印度郵便線、東方郵便線、北方郵便線、南方郵便線等の國際列車が通ずる。



アフリカは地形氣候の不良、文化の未發達等に妨げられて發達がおくれ、面積の割合には最も延長が少く、南部と東北部を除いては鐵道が發達してゐないが、イギリスは南北縦貫線の完成に努力してゐる。北アメリカは世界鐵道延長の四割以上を占め、延長は六大陸中の首位にある。アメリカ合衆國の東北部が殊に密である。カナダ太平洋鐵道、シカゴミルウォーキー鐵道、ユニオン太平洋鐵道、サンタフェ鐵道、南太平洋鐵道等の大陸横斷鐵道がある。

南アメリカの鐵道は主に東南部や海岸地方に敷設され、大陸横斷鐵道はアンデス横斷鐵道のみである。なほ南北アメリカを縦につらねる汎米鐵道の計畫もある。

大洋洲は六大陸中最も鐵道延長が短く、オーストラリア、ニュージーランド等にあるに過ぎず、他の



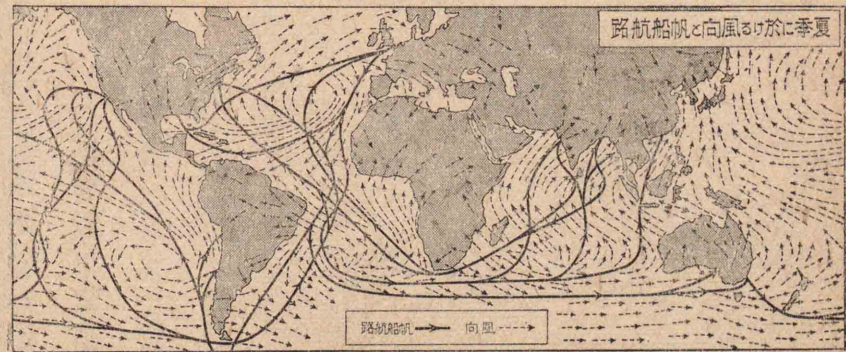
多數の島には鐵道が殆どない。オーストラリアの東南部には割合によく發達し、南部には横斷鐵道が完成し、又南北縦貫線の一部も開通してゐる。

### 三 水上交通

通

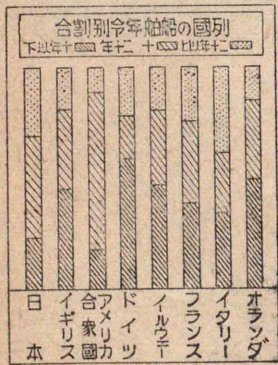
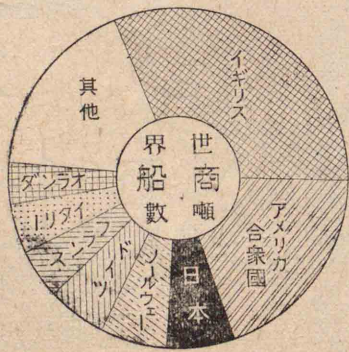
**水上交通** 主に船舶を運搬具として河川湖沼運河及び海洋上に往來するもので、力の消費が少くすすむので早くから行はれた。最初は内陸水路や沿岸だけを往來するに過ぎなかつたが、船舶と航海術の發達の結果、漸次内海や沿海を利用するやうになり、遂に十五世紀以後は大洋が自由な交通の舞臺となり、大洋交通時代が出現するやうになつた。

**船舶** 最初の船舶は丸木舟や小舟で、主に人力で動かされた。これらは今日でも見られるが、その航



行範圍は狭小で、世界交通には關係がない。風力を利用する帆船には稍、大型のものもあり、航行範圍も大であつて、十八世紀までは大洋の航海もこれによつた。併し帆船は速力がおそく、發着も不規則であり、而も危険も少くないので、汽船の全盛な今日では全く衰へてしまつて、たゞ運賃が低廉なために迅速を要しない大量貨物の輸送に任じてゐるに過ぎない。

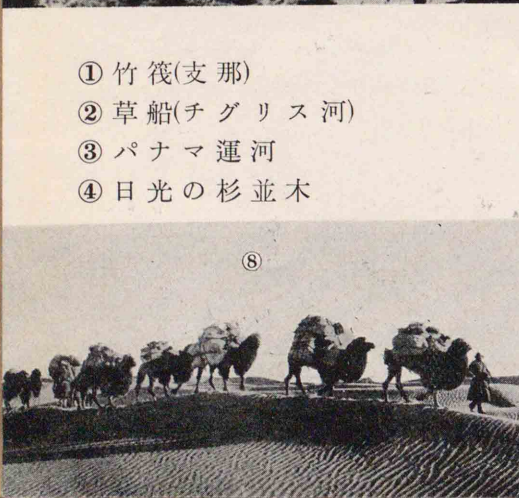
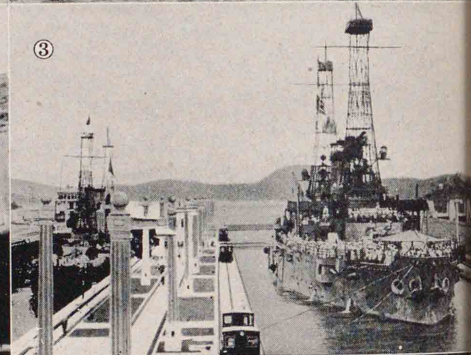
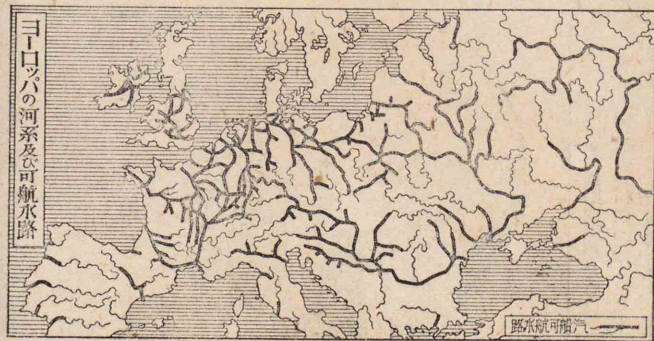
汽船は十九世紀の初期に發明されたが、速力が速く、航海が規則正しく、而も安全であるために、帆船を壓倒して急激に發達し、世界の船舶の大部分は汽船となり、遂に汽船全盛の時代を出現した。併し今日では汽船のほかにも發動機船が非常に多く用ひられるやうになつた。最初の汽船は僅か百二十噸、その速力も四、五節に過ぎなかつたが、今や八萬噸以上の巨船、三十節以上の快速船も作られるや



うになつた。

世界の船舶 世界の商船噸數は六千九百萬噸に達する。イギリスはその約三分の一を所有し、世界第一の海運國としてユニオンジャックは世界の何れの港にもみないと誇號してゐる。アメリカ合衆國は世界大戰中から有力になつた新進の大海運國で、約一千三百萬噸の船舶を擁してゐる。我が國は約五百六十萬噸の船舶を有し、英米に次いでゐる。ノールウェードイツフランスイタリーオランダ等もまた三百萬噸内外又は以上の船舶をもつ海運國である。

内陸水路交通 河川湖沼内陸運河を利用する水上交通である。ヨーロッパの諸河川は概ね流れが緩かで、水量が豊かであり、上流まで船を通じて、剩さへ、分水嶺が低く、又河床の高度にも大差がないので、多



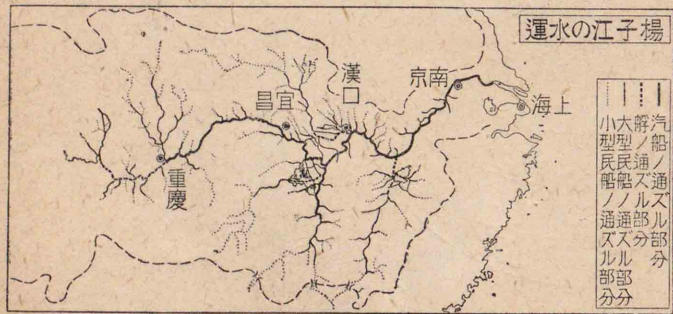
- ⑤ 沙漠の隊商路
- ⑥ 我が國の轆
- ⑦ 蒙古の自動車路
- ⑧ 駱駝の運搬

- ① 竹筏(支那)
- ② 草船(チグリス河)
- ③ パナマ運河
- ④ 日光の杉並木

くの運河によつて連絡され、内陸交通に貢献するところが多い。北アメリカの内陸水路交通は五大湖・ミシシッピー河及び幾多の運河によつて行はれる。南アメリカではアマゾン河が第一の水路で、イキトスまで航行することが出来、ラプラタ河がこれに次ぐ。アフリカの内陸水路としてはナイル河・コンゴ河等がある。アフリカの諸河川は地形に支配されて、概ね下流が瀑布となつてゐるので、水運を著しく妨げられてゐる。

アジアの内陸水路としては揚子江が第一で、航洋汽船が上流までも通じ、支那の地中海とまで稱される。更にガンジス・インダス・チグリス・ユーフラテス・メコン・メナム・珠江・遼河・黒龍江等がある。

**海上交通** 海洋を利用する水上交通で、十五・六世紀の地理的発見時代以後大いに發達し、汽船の發明

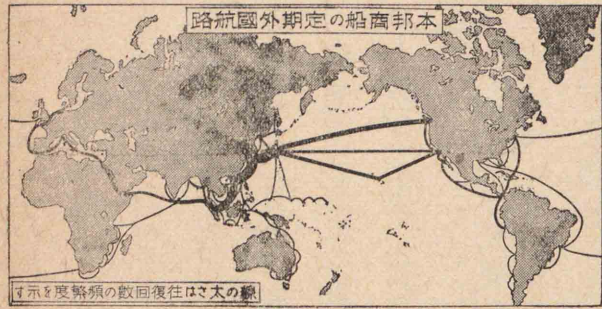
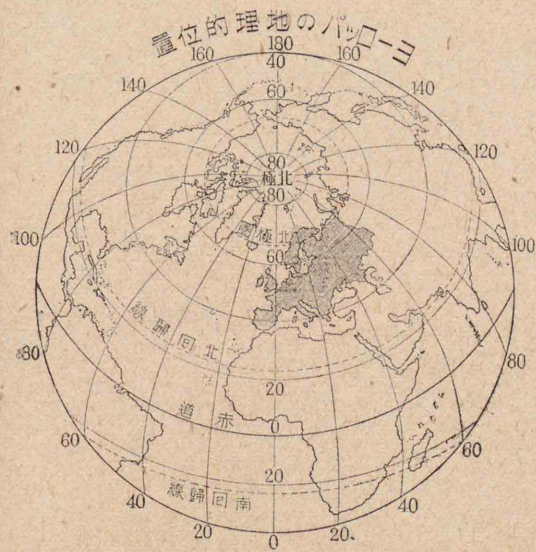


① 地下鐵道(東京)  
 ② 登山鐵道(スウイス)  
 ③ 東京飛行場  
 ④ 旅客機の客席  
 ⑤ ベルリン飛行場  
 ⑥ 山地鐵道(スウイス)

があつてからは、遂に世界交通は海上交通といつても差支へないやうになつた。今日世界貿易の五分の四は海上交通による。

西北ヨーロッパの大商工業地帯と北アメリカの東北部の大商工業地帯とを結ぶ北大西洋航路の交通の頻繁なことは他に比類がない。世界の船舶の約二分の一はこの航路に従事し、北アメリカの食料品原料品をヨーロッパに送り、ヨーロッパの工業品を北アメリカに運んでゐる。世界の最大最速の商船もこの航路に従ひ、四日内外で大西洋を横断することが出来る。

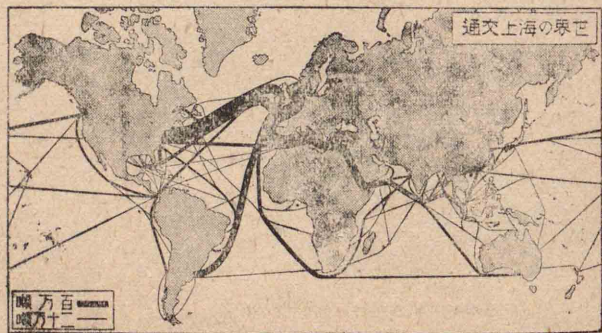
ヨーロッパと南アメリカとを結ぶ中央大西洋航路は北大西洋航路につき、世界船舶の四分の一がこれに就き、南アメリカの畜産物、農産物をヨーロッパに、ヨーロッパの加工品を南アメリカに送



つてゐる。そのほか大西洋にはヨーロッパと南アメリカとを結ぶ東大西洋航路、北アメリカの東岸と南アメリカの東岸とを連ねる西大西洋航路、南アメリカと南アメリカとを連ねる南大西洋航路等がある。

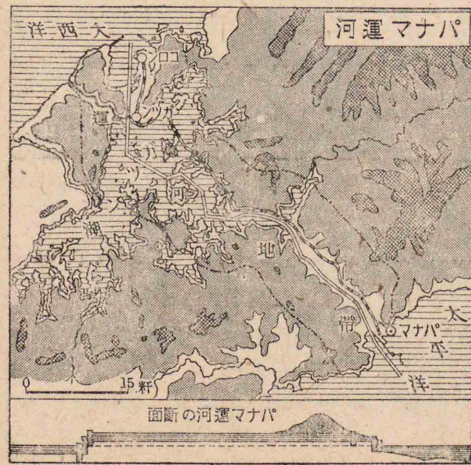
ヨーロッパから地中海に出で、スエズ運河を過ぎて印度洋に出で、東アジア・オーストラリアに至る印度洋航路は中央大西洋につき、世界船舶の約一割二分がこれに従ひ、アジア・オーストラリアの食料品、原料品をヨーロッパに運び、ヨーロッパの工業品をこれらの地方に移してゐる。

北アメリカの西岸と東アジアとを結ぶ北太平洋航路は我が國や支那の發展、北アメリカ西海岸の繁榮、



ナマ運河の開通等のために發達し、東アジアの原料品・食料品を北アメリカに、北アメリカの原料品・工業品を東アジアに運んでゐる。北アメリカとオーストラリアとを結ぶ南太平洋航路、南北アメリカをつらねる東太平洋航路、東アジアとオーストラリアを結ぶ西太平洋航路等も太平洋上の航路として發達してゐる。

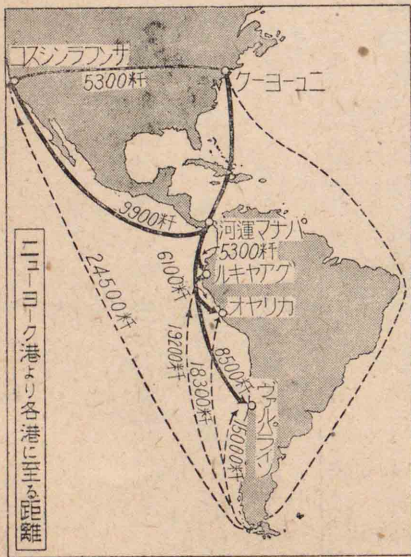
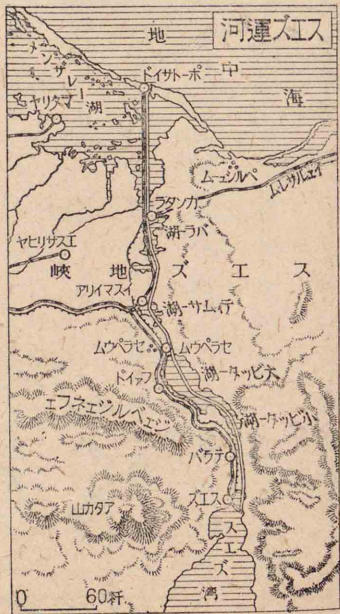
**運河** 世界の海上交通の幹線は概ね東西に走つてゐるのに對し、世界の大陸は多く北から南に延びてゐるので、海上交通は時には迂回をしなければならぬことがある。それ故に、この迂回をさけるために近年大陸のうちで、自然的障害の最も少い地峽に人工で水路を作り、船舶を通ずるやうになつた。スエズ・パナマの二大運河をはじめ、キール・コリント等の運河がこれである。運河の交通上の價値は運河の連絡する兩海



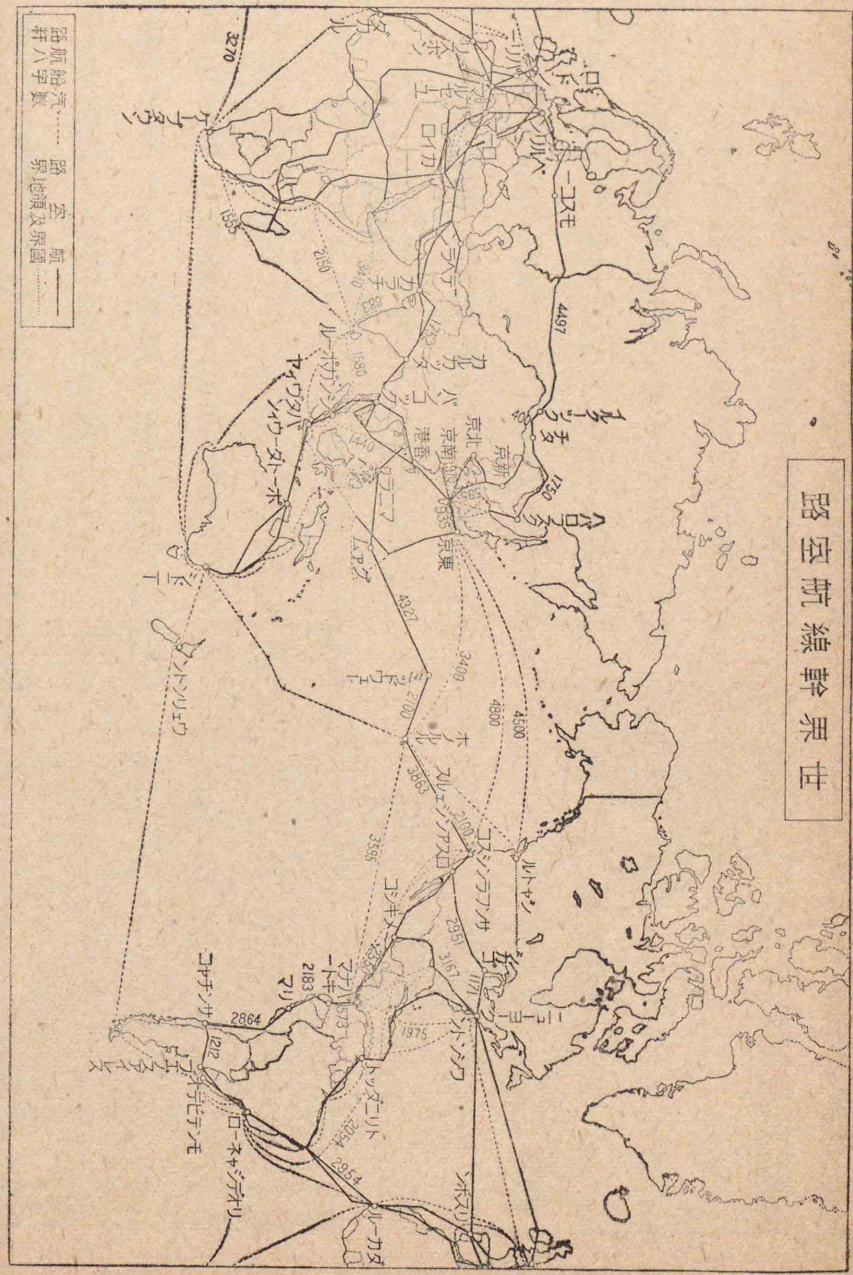
面の交通狀況と、運河の利用から生ずる距離と時間との短縮によつて決定される。この點で第一位にあるのはスエズ運河とパナマ運河とである。

#### 四 航空交通

**航空交通** 航空機による交通である。航空機のはじめは十八世紀に作られた輕氣球であつたが、十九世紀末から飛行機・飛行船の研究が大いに進み、次第に實用化されるやうになつた。併し航空機の著しく進歩したのは世界大戦中の軍事的必要に因つたものである。その後も軍事的交通的必



その後も軍事的交通的必



日本航空線図

要から各國ともにその進歩に全力を傾倒したので、非常な勢で發達し、今日では時速五百軒以上の快速機や、十噸以上の貨物を運搬する大型飛行機、太平洋・大西洋を無著陸で飛行し得る長距離飛行機も出來、烈風強雨にも關せず飛行し得るやうになつた。航空交通は航空機を用ひて空中を往來するものであるから、大圏航空路を自由に航行することが出來、又あらゆる交通のうちで最も快速である。併し今日のところでは天候の支配をうけることが大きく、航行の安全性と發着の規則性に缺ける所があり、又大量輸送をなし得ない缺點がある。それ故に今日の航空輸送は殆ど人間と郵便物との運送に限られてゐる。

**世界の航空路** ヨーロッパと北アメリカとが最も發達し、稠密な航空網が天空を被ひ、國內間は勿論、國際間の交通にも貢獻してをり、更に他の大陸にまでも航空路を通じてゐる。

我が國の航空交通は列國に比して大いにおくれて居つたが、最近は何多の航空路が開かれてゐる。現在開通してゐる航路は東京・名古屋・大阪

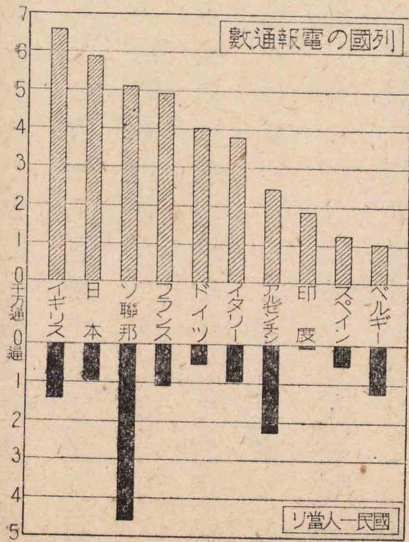


福岡・京城・大連間、東京・臺北間、東京・札幌間、東京・新京間、東京・北京間、東京・南京間、東京・パラオ間、東京・バンコック間等がある。併しまだ列國に比して遜色があるので、航空交通の發達を促進することは目下の急務である。

第十章 通信

信

通信 人間の意思を或る場所から他の場所に傳達すること、方法上から分けて、郵便、電信、電話の三とする。通信は公共的性質をもち、且つ軍事上にも極めて重要である。それ故に通信は國家が自ら經營するか、又は國家の嚴重な監督の下に民間の會社が經營してゐる。更に通信は國際的性質をもつてゐるから、各國は他の多くの國々と國際條約を結んで、通信を益、圓滑ならしめてゐる。



郵便

書翰及び小形、輕量な物品を送達する。郵便制度は十五世紀から次第に發達し、今日では世界の國家は、いづれも萬國聯合郵便條約に加盟し、國際間にも低廉、迅速に通信することが出来る。我が國の郵便制度は明治四年に始まり、明治十年には萬國聯合郵便條約に加盟し、その後長足の進歩を示し、今日では歐米の先進國に比して少しも遜色はない。國內、滿洲國、支那各地とは國內料金で通信することが出来る、又他のいづれの外國に對してもすべて均一料金で差支へない。なほヨーロッパに向ふ郵便物はシベリヤ經由、スエズ經由、北アメリカ經由の三線がある。

電信

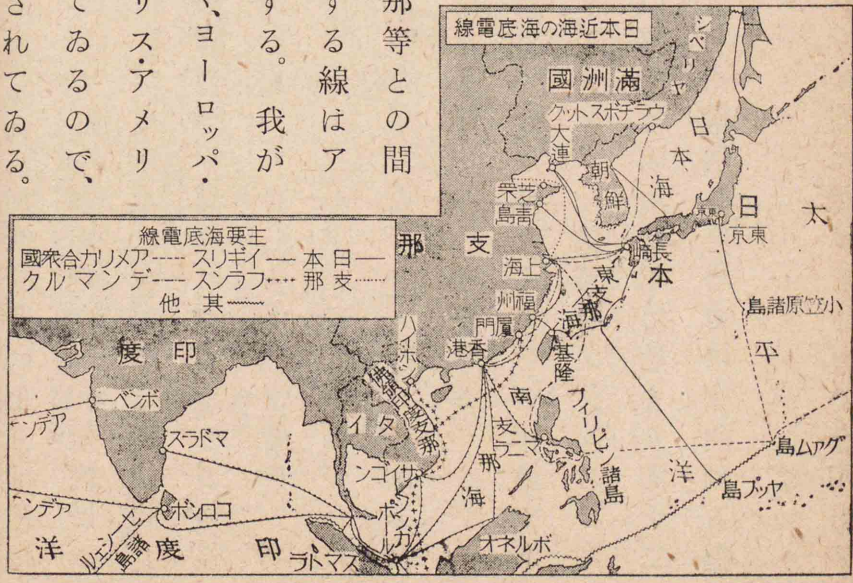
電線に電氣を通して通信するもので、迅速なのがその特徴である。陸上電線の延長の最も大きいのは、アメリカ合衆國で、フランス、イギリス、ドイツ等がこれに次ぐ。我が國の電信は明治二年に始まり、同十二年には萬國電信條約に加盟し、その後著しく發展し、今日では國內到る處に電信を通じてゐる。

海底電線

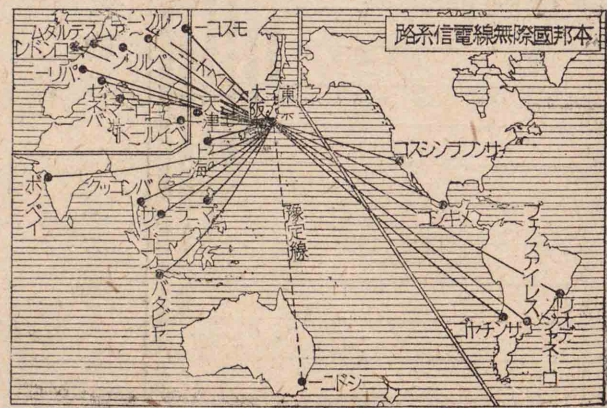
一八五一年イギリス・フランス間に設けられたのを初とし

て、その後世界の海洋に普く敷設され、一八六六年には大西洋横断線、一九〇六年には太平洋横断線が設けられ、大陸間の通信が著しく促進された。イギリスが世界の海底電線の大部分を有し、アメリカ合衆國がこれに次ぐ。

我が國の海底電線は明治以後内地主要島嶼間を始め、各植民地、滿洲國、支那等との間に設けられた。そのうち小笠原に通ずる線はアメリカ合衆國の太平洋横断線と連絡する。我が海底電線中には國際的な大幹線がなく、ヨーロッパ、アメリカ等と通信する時は多くイギリス、アメリカ合衆國、デンマーク等の電線によつてゐるので、對外通信には無線電信の利用が促進されてゐる。



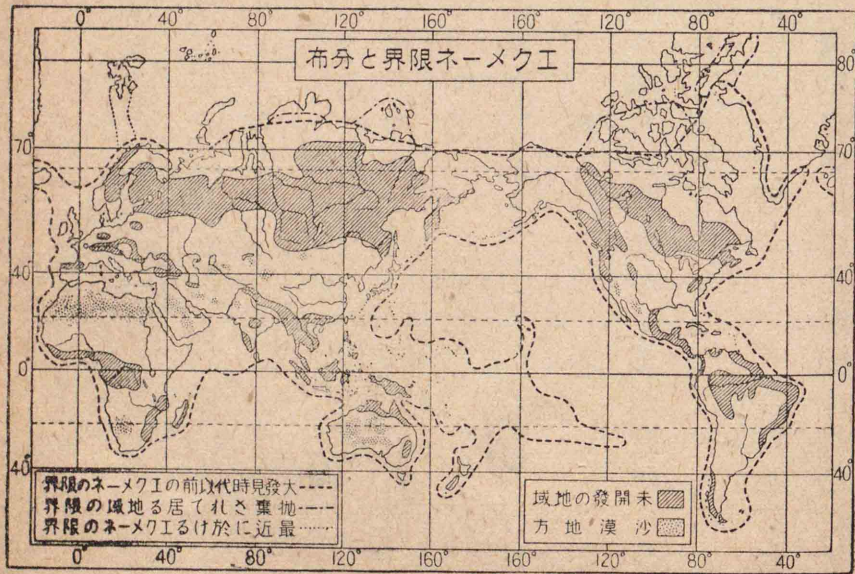
**無線電信** 空中に電波を送つて通信するもので、一九〇一年に始めて設けられた。建設費が比較的低廉な上に、航行中の船舶、飛行中の航空機、進行中の列車、自動車等とも通信することが出来るので、急に各國に擴まり、今日では大電力を用ひて大陸間の通信にも利用されてゐる。アメリカ合衆國が最も發達し、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア等でもまた盛大である。我が國の無線電信も近年長足の進歩を示し、アジア、アメリカ、ヨーロッパの各地とも通信を交換し、又これを利用して無線電話を通ずる。



**電話** 電氣を介して談話を交換する設備で、一八七六年に始めて設けられた。アメリカ合衆國が最も發達し、ドイツ、イギリス、フランス等がこれに次ぐ。我が國の電話は明治十年に始めて京濱間に設けられ、同三十

り、文明人は概して高く、未開民族の如きは反つて減少してゐる。

人類は世界中に一様に分布してゐるものではなく、地形氣候生産状況等に應じてその分布に、地方的な疎密の差がある。高緯度の極寒地、沙漠、高山等には殆ど住民が居らず、山地草原等には疎で、平原の農耕地には密であり、商工業地に最も多い。地球上人類の居住してゐる地域をエクメーネと稱する。世界の平均人口密度は一方糎に約十五人である。密度は商工業の盛大なヨーロッパにその西北部に最も多く、古い歴史をもつアジアがこ

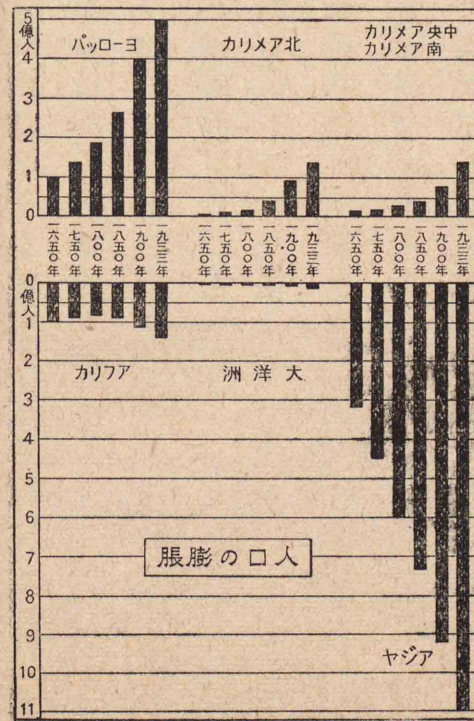


二年には東京・大阪間に長距離電話が通じた。今日では全國の都市には何れも電話の設備がある。

第十一章 住 民

一 住 民

世界の人口 地球上に居住する人類の總數は約二十一億に達する。その過半はアジア洲に居住し、殘部の約二分の一はヨーロッパ洲にあり、他の二分の一は北アメリカ・南アメリカ・フリカ・大洋洲の諸洲に居住する。世界の人口は絶えず増加してゐるが、人口の自然増加率は民族によつて異なる。



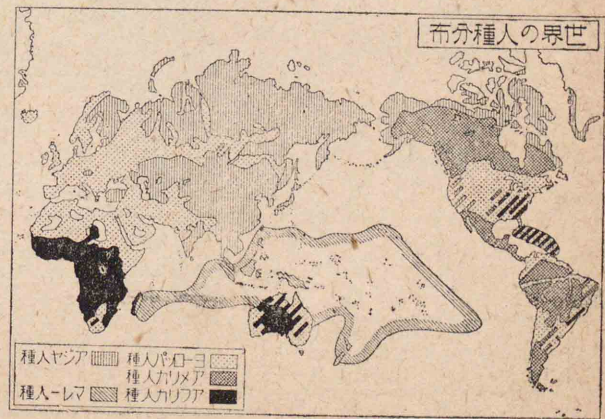
れに次ぎ、歴史の新らしい北アメリカ南アメリカ  
カアフリカ大洋洲の諸洲には少い。

**人種** 世界の住民はその居住地の異なるに  
従つて、體質容貌等を異にしてゐるので、アジア  
人種・ヨーロッパ人種・アフリカ人種・アメリカ人種  
海岸島嶼族等に分けられる。

**アジア人種** 主にアジア洲の東北部に居住  
し、その数は約八億に達する。皮膚の色は黄色  
で、頭髮は黒色である。大和民族朝鮮族滿洲族  
漢族蒙古族印度支那族等がこれに屬する。從

來我が大和民族を除いてはアジア人種は餘り振はなかつたが、近年は我  
が大和民族指導の下に次第に民族的發展をはかつてゐる。

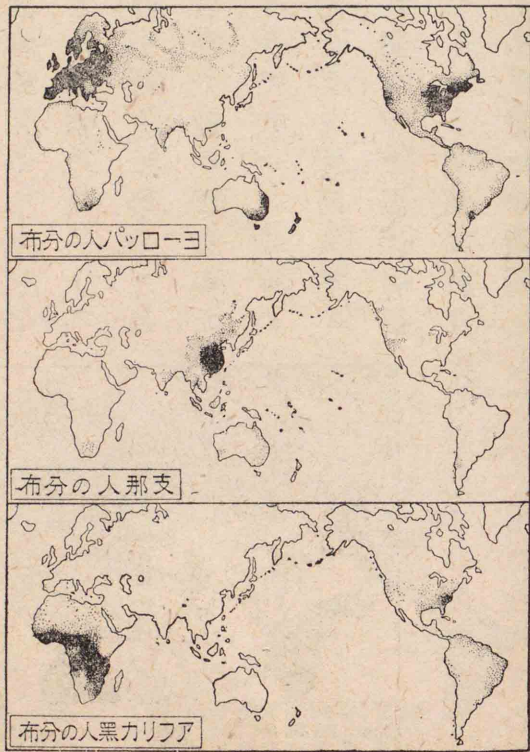
**ヨーロッパ人種** 十億に餘り、ヨーロッパ、アジアの南部、アフリカの北部南  
部、南北アメリカ、大洋洲等に居住する。概ね皮膚は白色、頭髮は褐色で、科



學文明に長し、富強な國家  
を建設してゐるものが多  
く、現在世界文化の指導的  
地位にある。

**アフリカ人種** サハラ

沙漠以南のアフリカ及び  
北アメリカの一部に居住  
してゐる。皮膚は黒色で、  
文明の程度が低く、ヨーロッ  
パ人に全く支配されてゐる。



**アメリカ人種** アメリカの原住民で、皮膚は銅色である。古い文化を  
もつた民族もあるが、概して文化の程度が低く、ヨーロッパ人のために支配  
されてゐる。

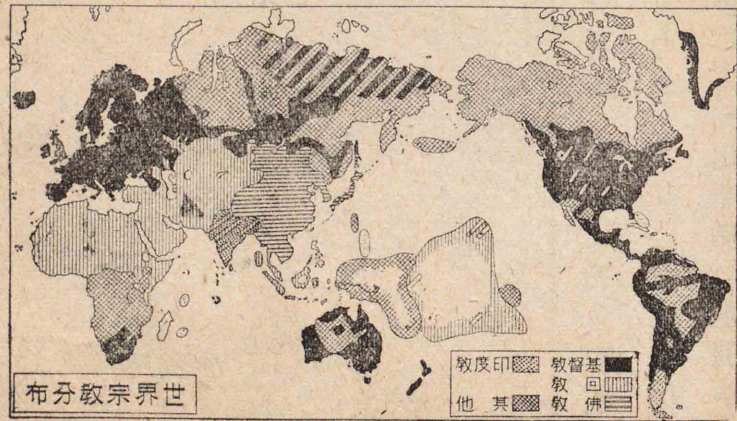
**海岸島嶼人種** マレー人種とも云はれ、マレー族オーストラリア族ポ

スペイン語ポルトガル語は南アメリカにも用ひられる。我が國では一部分に朝鮮語支那語等が行はれるが、大部分は國語日本語が用ひられ、而もそれが次第に普及して居り、更に滿洲國や北支那にも漸次用ひられるやうになつた。

**宗教** 人類は生れつき宗教心をもつてゐる。世界の各民族はそれぞれ、固有の宗教をもつてゐるのであるが、今日世界で最も廣く行はれてゐる宗教は佛教キリスト教回教であり、このほかに印度の印度教ユダヤ人のユダヤ教支那の儒教日本の神道がある。我が國では佛教が廣く行はれてゐるほか、神道は古來惟神の道として國民道德の基礎をなし、國民的信仰を得てゐる。

文化階梯と文化地域

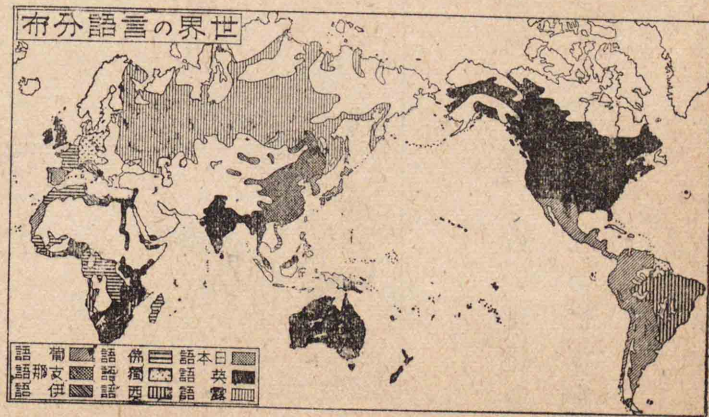
人類は他の動物と異なつて、自己の意志に従つ



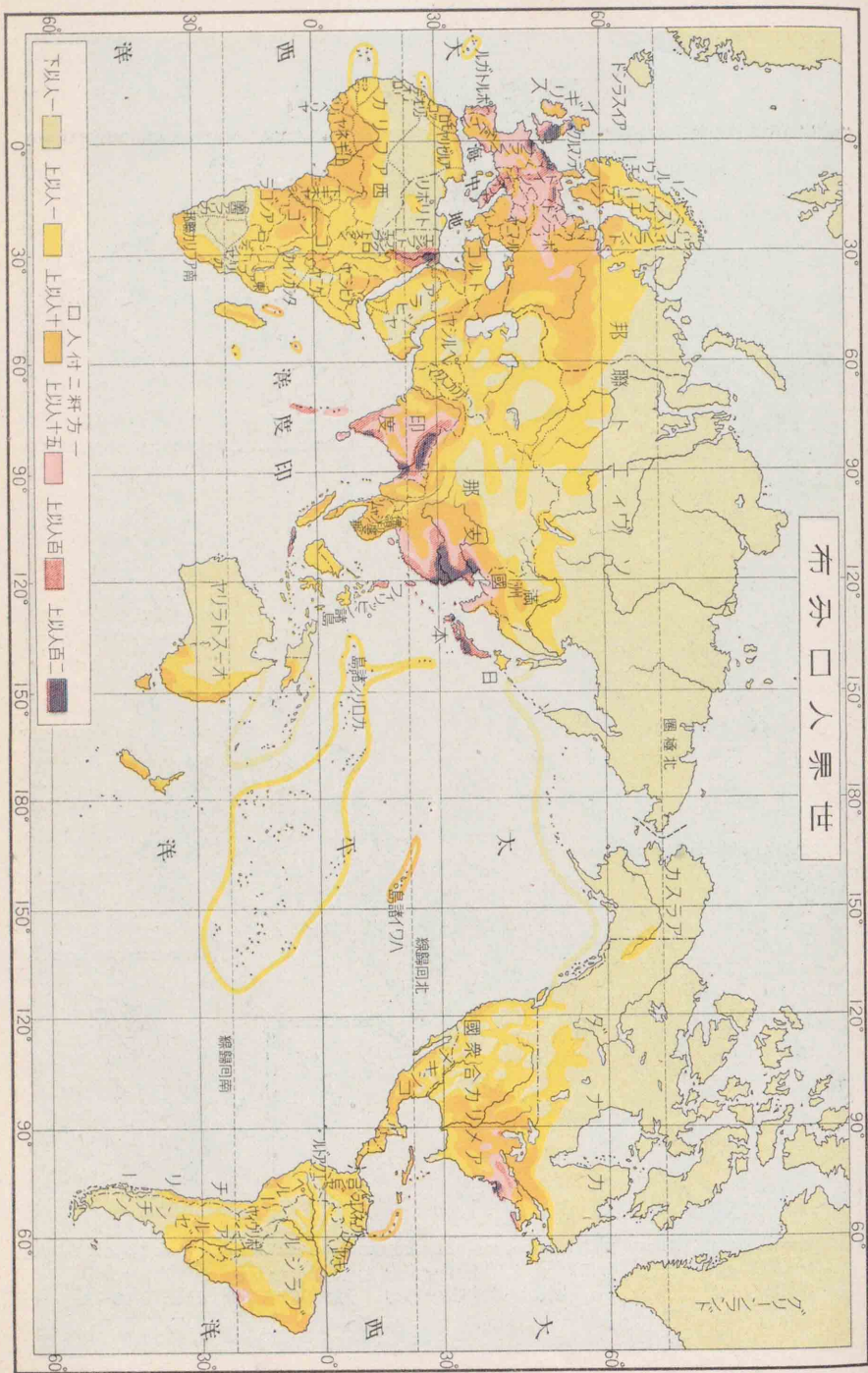
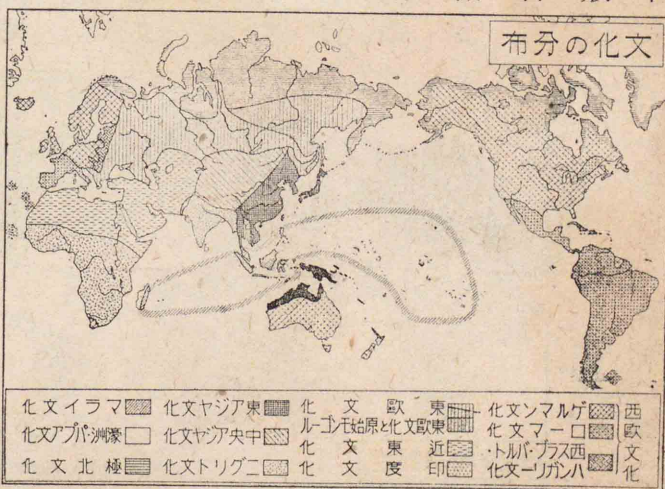
リネシヤ族等がこれで、主に大洋洲の諸島、マダガスカル島等に居住する。皮膚は褐色で、文化も發達してをらず、樹上に居住するものや最近まで食人の風習のあつたものもある。

言語

世界の民族の言語は一様ではなく、一國內に於てすらも數種の言語が用ひられてゐることがある。かくの如きは國家の統一上不便であるので、各國ともこれが統一に努めてゐる。又これと反對に同一言語で數ヶ國にわたつて用ひられてゐる場合も少くない。世界の主要な言語は英語ドイツ語フランス語スペイン語イタリア語ポルトガル語ロシア語印度語マレー語支那語日本語等である。英語は商業語外交語として、フランス語は外交語社交語として、ドイツ語は學術語として廣く用ひられてゐる。

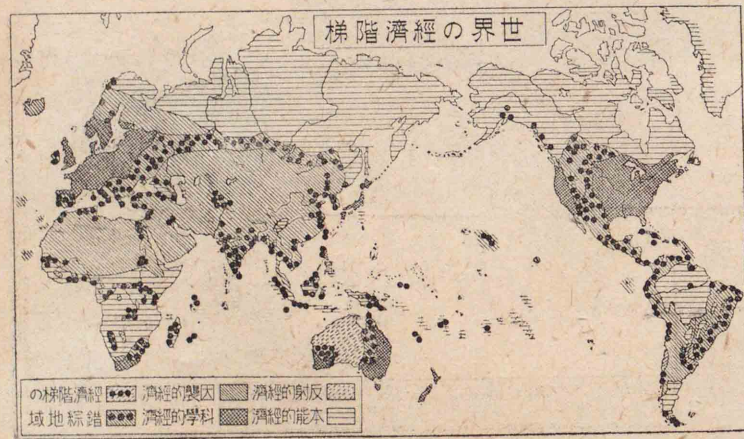


て行爲をすることが出来る。人類のこの目的行動とその所産とを文化と稱する。人類は一定の数のものだけが一團をなして社會を作り、それぞれの居住する土地の自然に働きかけ、これを利用し、所謂地と人との交互作用のうち自己の生活資料を作り出し、更に高尚な文化を創造してゐる。この際、人類の集團はそれぞれ能力を異にし、又居住する自然の資源も一樣ではないので、それぞれの人類の集團が共同的に作り出してゐる文化の高さもまた一樣でない。西ヨーロッパ、北アメリカ、東アジアの諸民族に見られるやうな高度の文化もあり、又アフリカの内地の諸民族に見られるやうな低級な文化もある。こゝに自然文化・半文化・全文化といふやうな、文化の發達の程度を示す文化階梯の差別が

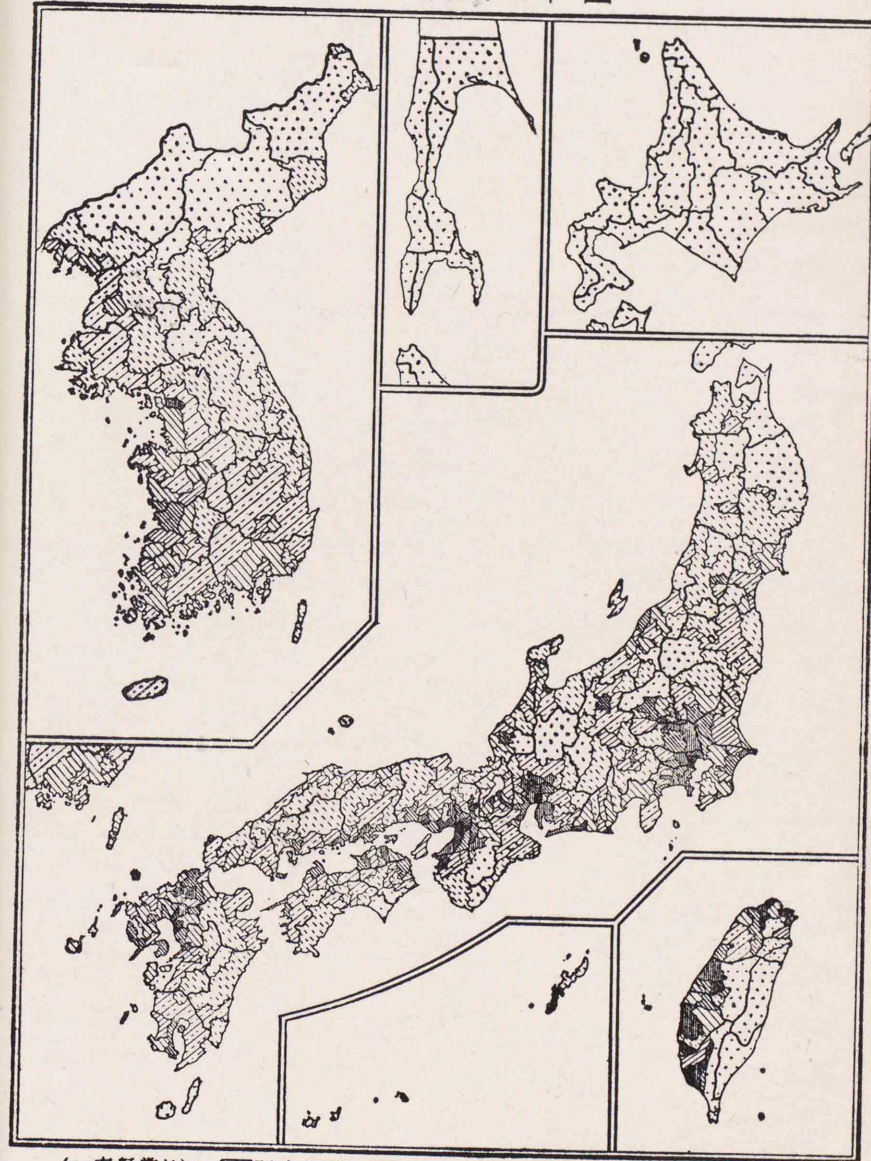


生ずる。又同時に地球上のそれぞれの地方によつて特徴のある文化が分布することになり、西ヨーロッパ文化・東ヨーロッパ文化・近東文化・印度文化・東アジア文化等の特有な文化の形態を示す文化地域が生ずる。

**經濟階梯と經濟形態** 文化は精神的側面と物質的側面とをもつてゐる。この二つの側面は同一物の表裏であつて、事實上は分離することは出来ないが、人類文化を物質的側面から見る時は經濟文化である。今日見られるやうな高度の經濟文化は決して一夜にして發達したものである。過去の永い間の人類の勞苦の結晶である。今日高度の經濟文化をもつてゐる民族も、かつては低級な生活をしてゐたのである。人類の經濟文化は時間的にも一様ではな



圖度密口人本日



(一方軒當り)

50人以下	50 - 100	100 - 150	150 - 200
200 - 250	250 - 350	350 - 500	500 - 1000
			1000人以上

分分布することになり、西ヨーロッパ文化・東ヨーロッパ文化・近東文化・印度文化が

民

く、又今日見られるやうに場所的にも一様ではない。こゝに於て経済的發達の程度を示す反射的經濟本能的經濟、因襲的經濟、科學的經濟等の經濟階梯が生ずる。各民族はそれぞれ獨特の經濟生活を營んでゐるので、牧畜園耕栽植耕等の經濟生活の型態を示す經濟狀態が成立する。而も經濟階梯と經濟形態とは密接な關係があり、それぞれの經濟形態はそれぞれの經濟階梯に對應してゐる。

### 二 聚 落

**住居** 人類は住居を作つて生活の本據とする。住居の形式と材料とは文化の程度・風土の如何に應じて異なる。森林の多い地方では木材が主要な建築材料となり、森林に乏しい地方では石や泥で家屋を作り、熱帯



5



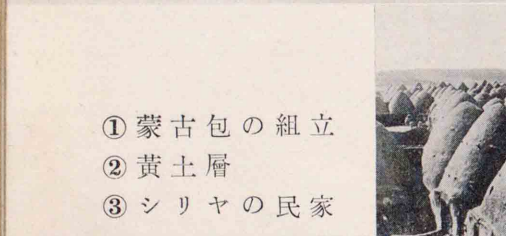
1



6



2



3

- ① 蒙古包の組立
- ② 黄土層
- ③ シリヤの民家



- ④ アフリカ土人の住家
- ⑤ 朝鮮の民家
- ⑥ シベリヤ北部の土人の住家
- ⑦ メラネシヤ土人の住家



7



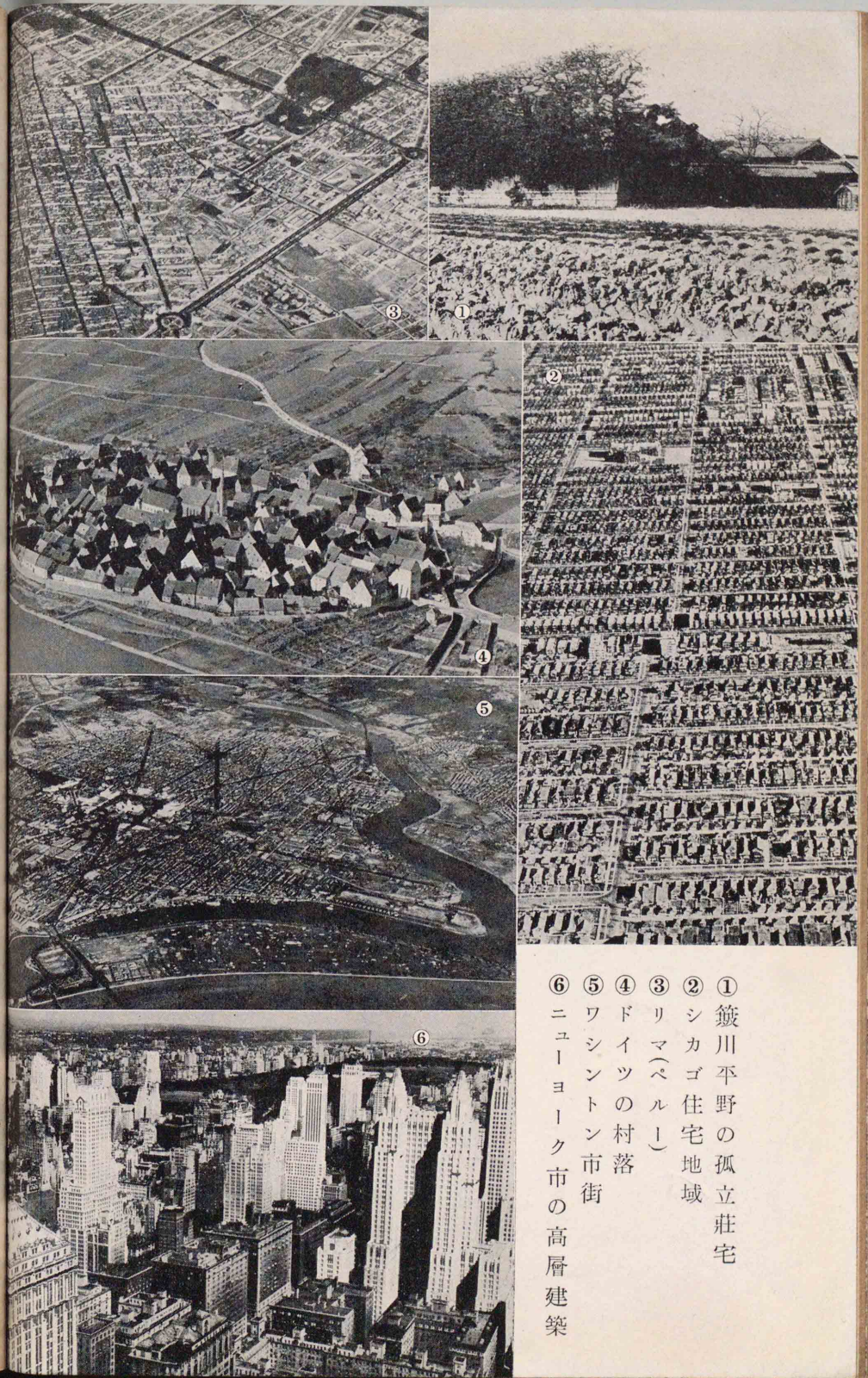
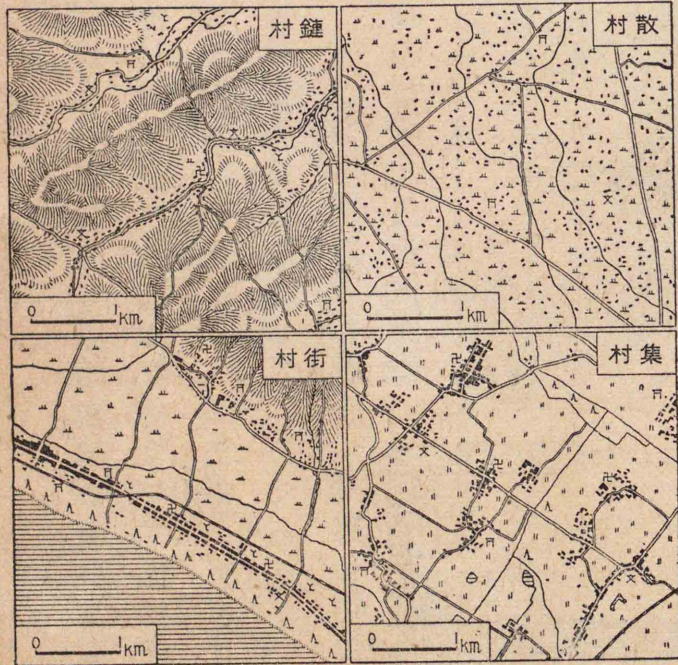
4





の土人は樹上に小屋を作り、エスキモー人は氷の中に住むことがある。遊牧民は屢々居を移すので、天幕の中に生活し、北支那には穴居するものもある。文明人の住居は木材石鐵コンクリート等を用ひ、家屋の構造は堅牢壯大設備の完全なことは未開人の想像することも出来ない。

**聚落** 人類の住居の集團を聚落と稱する。人類は孤立して生活するものではなく、必ずや何人か相集つて共同生活をなすので、聚落と人類の生活とは切り離すことが出来ない。聚落は物資の豊かな海岸や河岸等の平地に多く發達するのが普通であるが、熱帯地方では反つて氣候の良好な

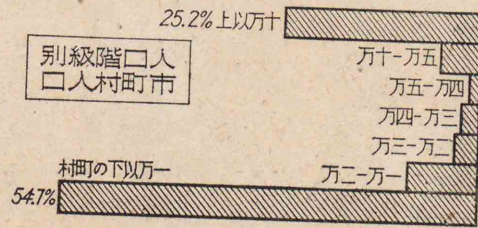
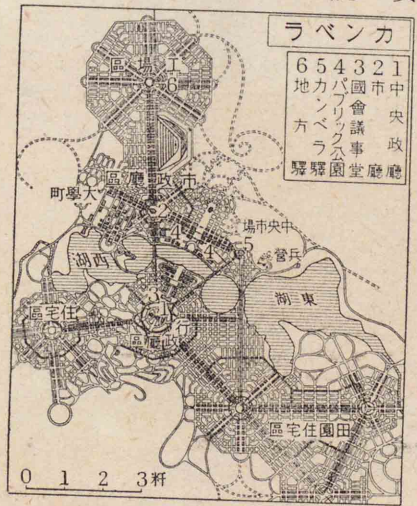


① 鍬川平野の孤立莊宅  
 ② シカゴ住宅地域  
 ③ リマ(ペルー)  
 ④ ドイツの村落  
 ⑤ ワシントン市街  
 ⑥ ニューヨーク市の高層建築

山地に多い。聚落は村落と都市とに分たれる。

**村落** 小聚落で、その住民は主に農牧林漁業等の原始産業に従事する。村落は住民の生業によつて農村・漁村に、又その外部形態によつて散村・集村・街村・鏈村等に分つ。散村は人家が散在し、集村は人家が密集し、街村は人家が線状に密接排列し、鏈村は人家が带状に散在するものである。

**都市** 大聚落で、その住民は主に商工業を営むので都市の發達は商工業に負ふところが多い。従つて商業都市・工業都市は都市の中で最も多い。交通の要地に發達する交通都市は概ね同時にまた商業都市である。鑛業に伴つて發達する鑛山都市は近代鑛業の發達と共に多くなつた。政治都市は今日ではまた同時に商



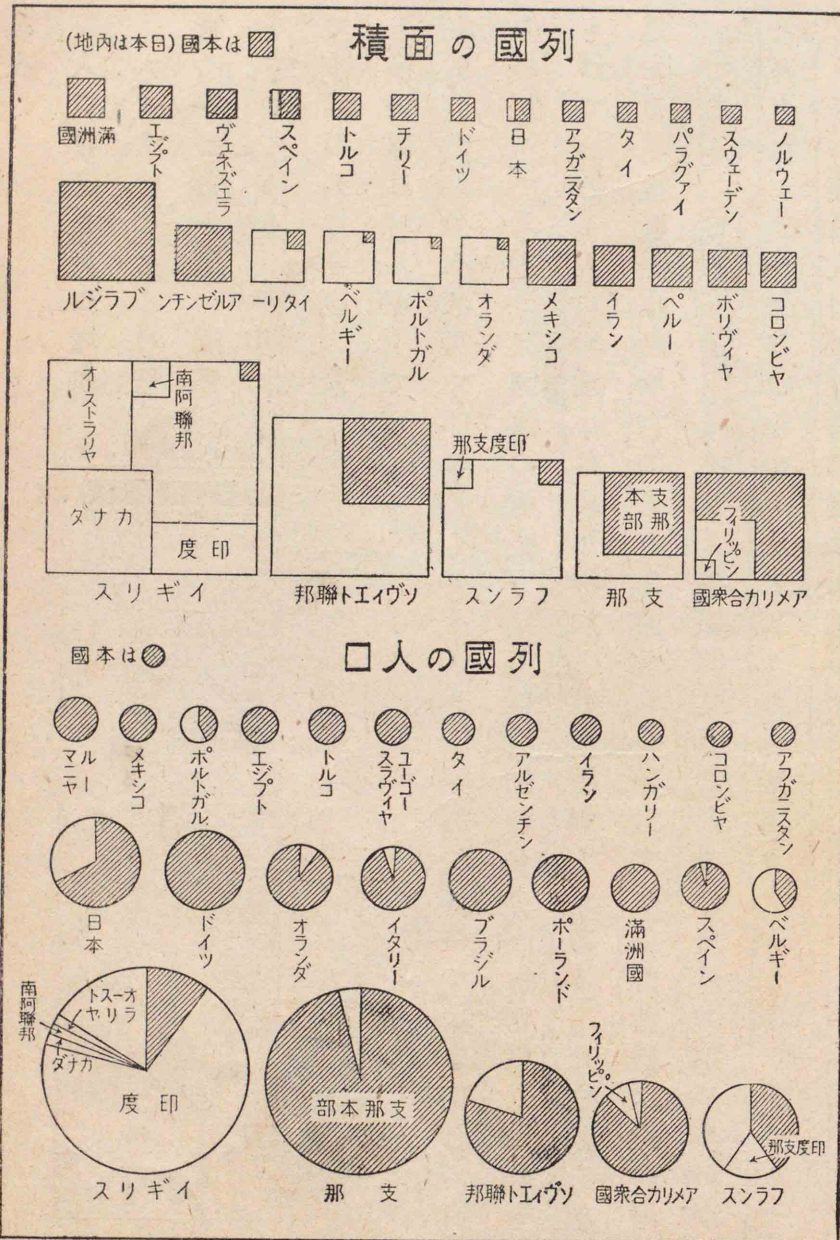
工業都市になつてゐるものが多く、純粹の政治都市は少いが、往時の大都市は概ね政治都市であつた。軍港又は兵營の所在地に發達する軍事都市も往時は有力な都市型式であつた。そのほか學術都市・宗教都市・保養遊覽都市等がある。

都市はその發生によつて一定の都市計畫に従つて設立された人爲的都市と無秩序な發展に委された自然的都市とに分けられる。又都市の形狀には京都・札幌の如き直交式、大連・パリの如き放射狀式、ブダペスト・アムステルダム・モスクワの如き扇狀式、モスクワ・ウィーンの如き同心圓式等がある。

第十二章 政治

一 國家と國民

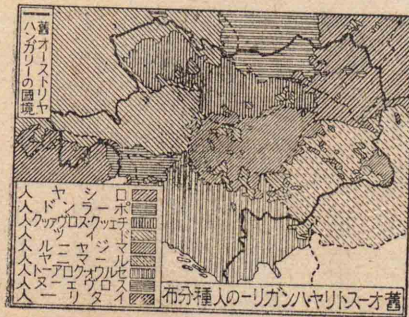
**國家** 人類は孤立して生活することがなく、常に何人かの人々が集まり、社會を作り、共同生活を營むものである。國家は社會の一つであつて、一定の人々が共同の目的をもつて一定の土地に定住し、唯一の權力によ



つて統一せられるものである。人民領土主權が國家の三要素であつて、これ等の一つを缺けば國家は成立せず、またこの三要素の實質の如何によつて、國家に大小強弱の別が生ずる。

**領土** 一國の主權の及ぶ地域をその國の領土と稱する。國家の主權は領土の上空及び地下に及ぶばかりでなく、海洋に臨む場合は、海岸から三哩以内の海面にまでも及ぶものとされ、この海面を領海と呼んでゐる。領土の廣狹は國家の強弱を決する一標準である。

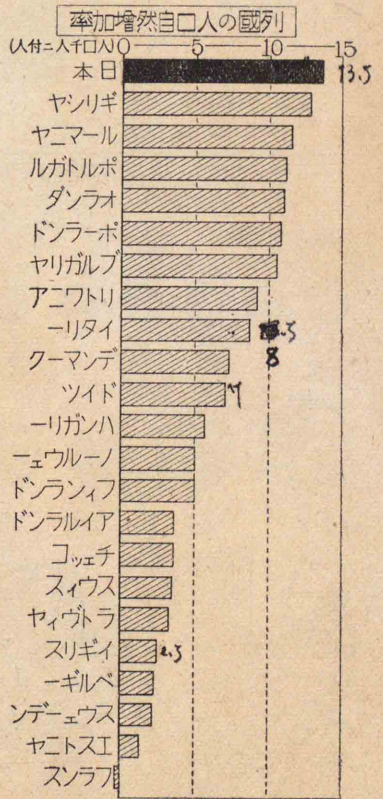
**國民** 國家の主權に服従する住民を國民（人民又は臣民と云ふ。國民の數の多少もまた國家の強弱を決定する一要素である。一國の國民は必ずしも一民族から成り立つてをらず、大國家は勿論小國家でもいくつかの民族から成つてゐるものがある。かゝる國家は統一上不利で、政治上種々な問題を生じ易い。又他方では一民族でいくつかの國家を作つてゐるものも



ある。

人口密度と人口増加

人口密度の大小は國家の成長力と深い關係をもつてゐる。列國中、で本國の人口密度の最も多い國はベルギーであり、オランダ、イギリス、日本、ドイツ、イタリ、等がこれにつき、何れも有力な國々である。又國家の成長力は、人口増加の多少とも密接な關係をもつてゐる。人口増加には、自然増加と社會増加とがある。死亡數を超過する出生數が自然増加であり、出國者數を超過する入國者數が社會増加である。日本、ドイツ、イタリ、英領印度等は人口の自然増加が多いが、イギリス、フランス等は少い。又アメリカ合衆國、カナダ、オーストラリア、ブラジル等は人口の社會的增加が著しい。

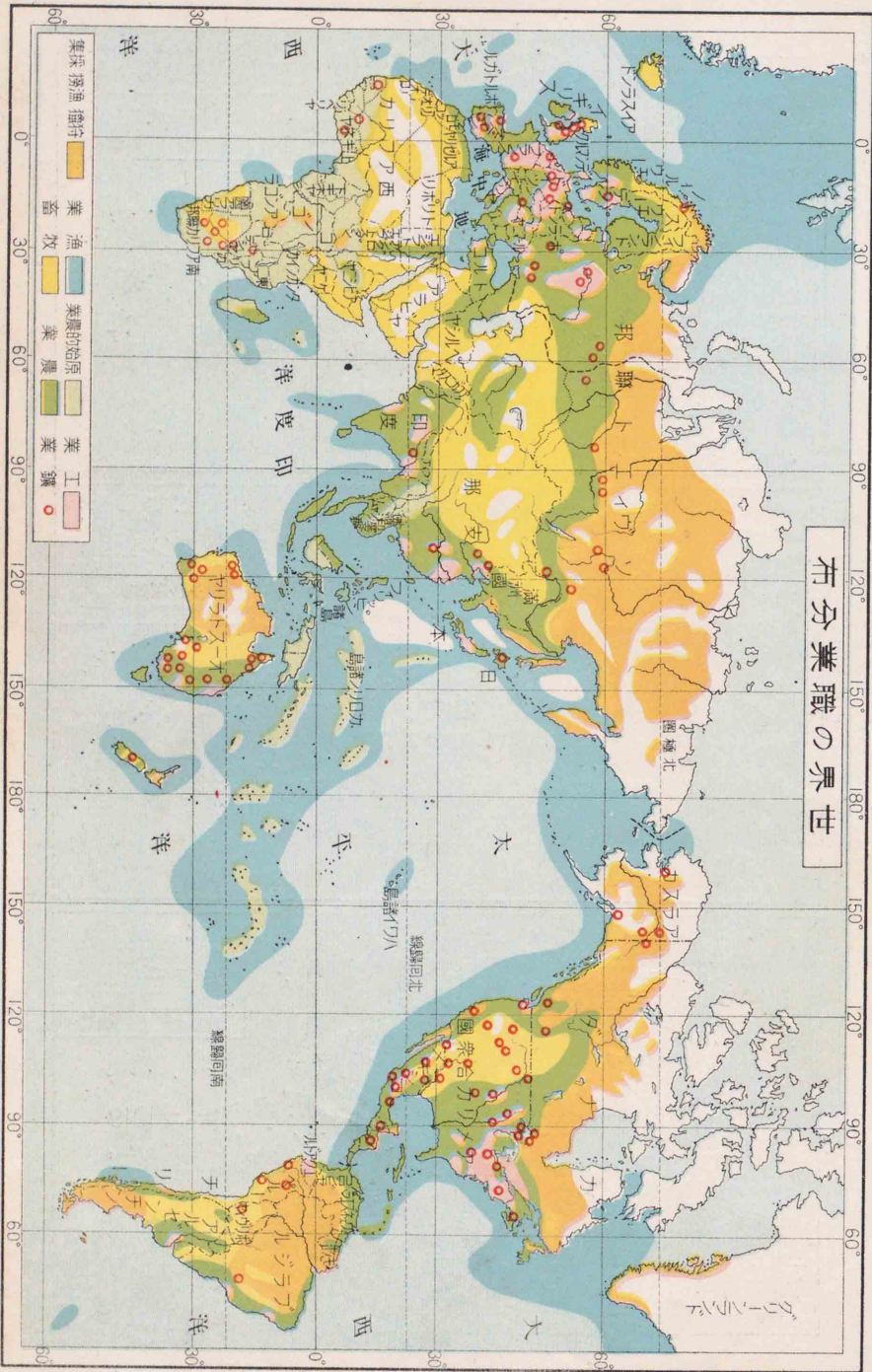


ある。

人口密度と人口増加

人口密度の大小は國家の成長力と深い關係をもつてゐる。列國中、で本國の人口密度の最も多い國はベルギーであり、オランダ、イギリス、日本、ドイツ、イタリ、等がこれにつき、何れも有力な國々である。又國家の成長力は、人口増加の多少とも密接な關係をもつてゐる。人口増加には、自然増加と社會増加とがある。死亡數を超過する出生數が自然増加であり、出國者數を超過する入國者數が社會増加である。日本、ドイツ、イタリ、英領印度等は人口の自然増加が多いが、イギリス、フランス等は少い。又アメリカ合衆國、カナダ、オーストラリア、ブラジル等は人口の社會的增加が著しい。

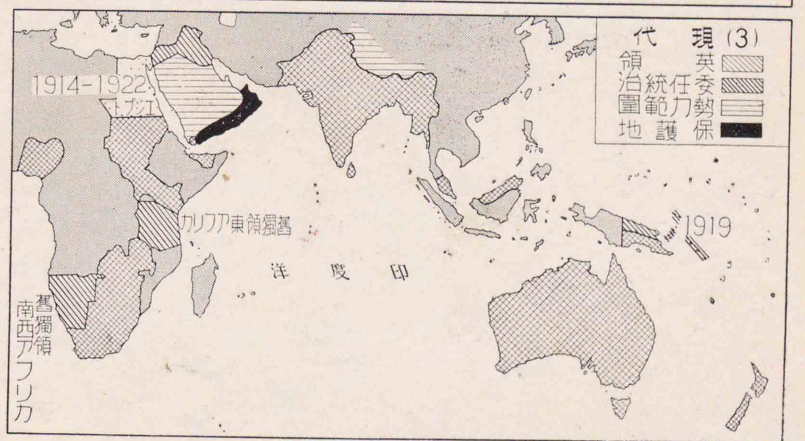
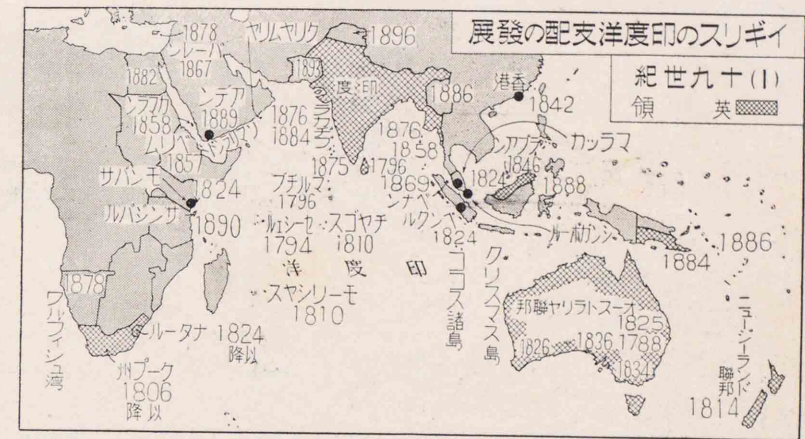
世界の農業の分布

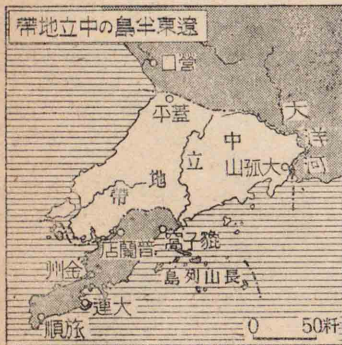
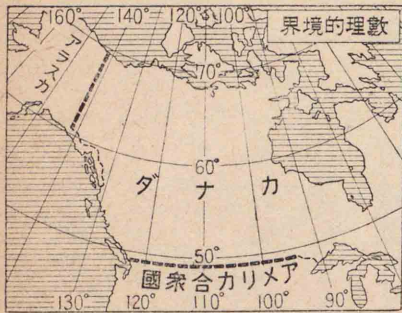
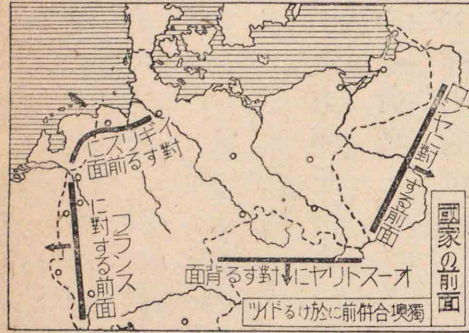


**國家の位置** 世界の諸國家は概ね温帯又は濕潤亞熱帯に位してゐる。殊に北半球の温帯地方に多く集中してゐる。これに反し寒帯地方亞熱帯の乾燥地方熱帯地方には國家が乏しい。これは氣候が人類の生活資料や能力に強い影響を與へるためである。

二 國家の位置と國境

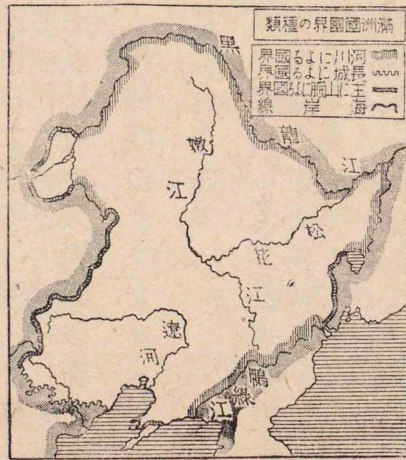
**移民** 人口が過剰で、生活が困難な地方の住民は、人口が稀薄で生活の安易な地方に一時的に、又は永久的に移住することがある。かく移住を行ふ人々を移民と稱する。主要な移民移出國は概ねヨーロッパにあつて、殊にイタリーイギリスドイツ等が多くの移民を出す。アジアでは日本支那等が主要な移民移出國である。主要な移民吸収國は南アメリカ北アメリカの諸國や、オーストラリアニュージージーランド南アフリカ聯邦等であるが、これらの諸國は概ねヨーロッパ人の來住のみを歓迎し、アジア人の來住を喜ばない。



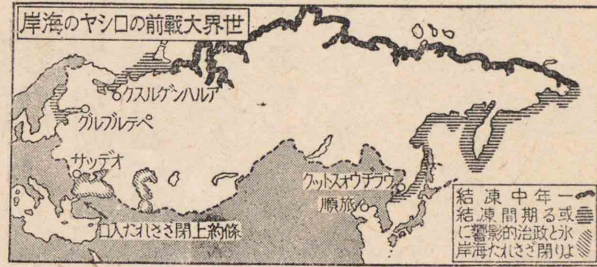


**國境** 國家の領土と領土との境界を國境と稱する。國境には自然的國境と人為的國境とがある。山脈河川湖沼森林等の地形、その他の自然的物事を利用した國境を自然的國境といふ。これに對してかくの如く顯著な自然的物事がないので、經緯線城壁柵塹壕等によつた國境を人為

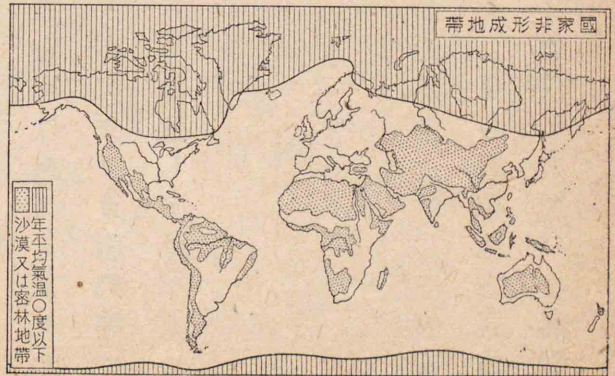
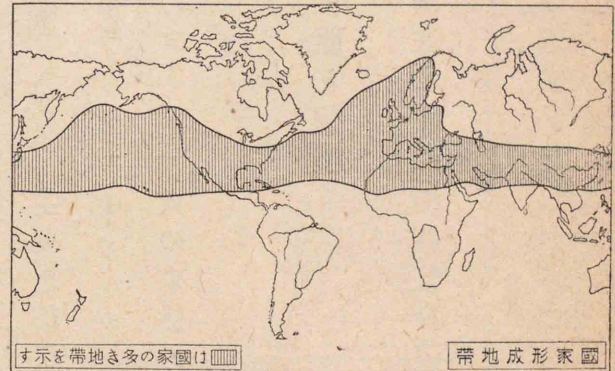
的國境と稱する。



國境附近は接壤國勢力の接觸地帯に當るので、政治的摩擦面が生じ



海洋に對する位置によつて、國家は内陸國・周縁國・島嶼國に分けられる。世界の國家は概ね周縁國で、内陸國及び島嶼國は少い。内陸國は世界の海上交通に参加せんがために常に海洋への出口を求め、島嶼國は交通上軍事上非常に有利な地位を占めてゐるので、國内に資源が相當に多い時は我が國やイギリスのやうに強國になるものがある。



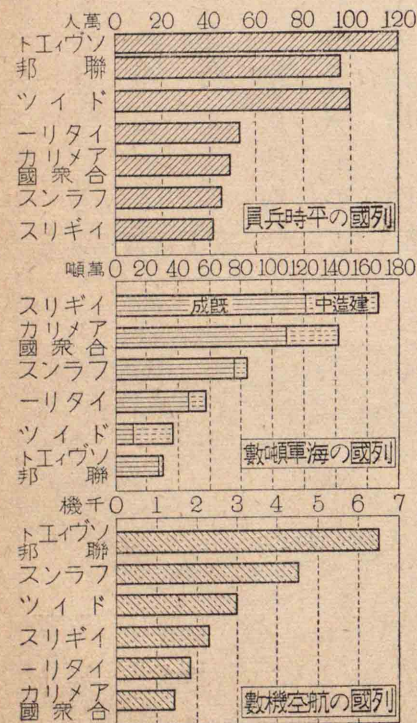
ナマ等がこれである。尖端と云ひ、シンガポール、ある小地域を獲得することがある。これを國家の成長として交通、軍事上の要地である小地域を獲得すること

國家の成長

國家は人口の増大、經濟上の實力の増加等のために、絶えず成長しようとする。國家はその勢力を増大する前提として交通、軍事上の要地である小地域を獲得すること

三 國家の成長と植民地

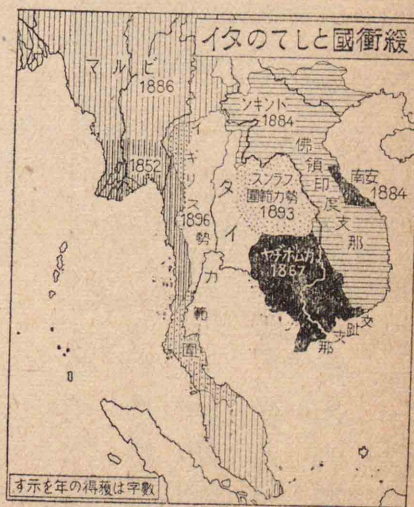
列國は軍備の擴充に狂奔してゐる。我が國の軍備はこれらの列國に少しも遜色がないが、列國が軍備の大擴充を行つてゐるのでこれに對抗し、國防の安全と東亞を安定することの出来るだけの軍備を充實することが絶対に必要である。



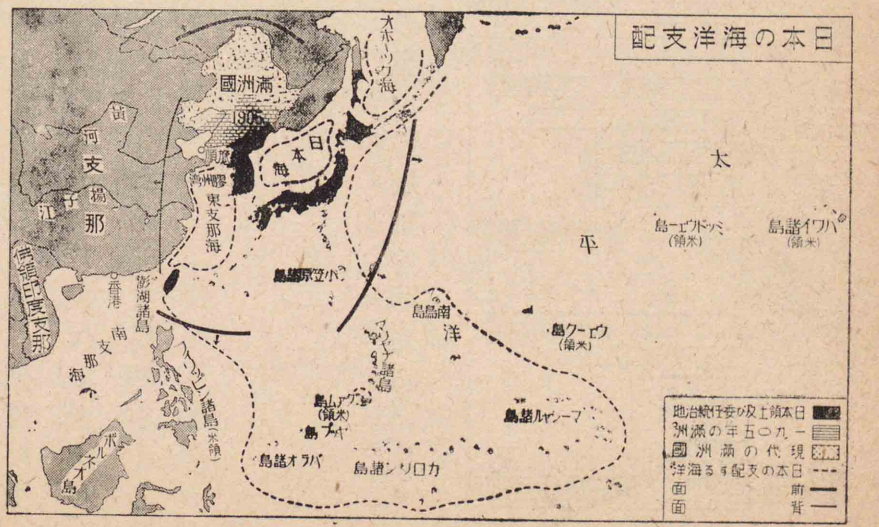
やすい。國家が多數の國家と境を接するときはこの政治的摩擦面が多く、國防上不利である。殊に隣國に強國がある時に甚だしい。而して國境の一方に於て敵意をもつと信ぜられる國と接し、常に脅威を感じざる方面を國家の前面といひ、然らざる方面を背面と稱する。國境附近は國際上の紛争が起り易いので、各國ともその防備を嚴重にして他國の侵入に備へる。時には中立地帯を設けて衝突をさけるやうに努め、又兩國の衝突を緩和するために緩衝國を設けることがある。獨佛間のオランダ、ベルギー、スウイス、印度支那の英佛植民地間のタイ等はこれである。

軍備

列國は互に親交、和親に努めてはゐるが、成長しようとする國家間には利害の衝突が起り易いので、列國は何れも軍備を整へてゐる。殊に現代の世界は大動亂のうちであり、歴史的轉換期に直面してゐるので、

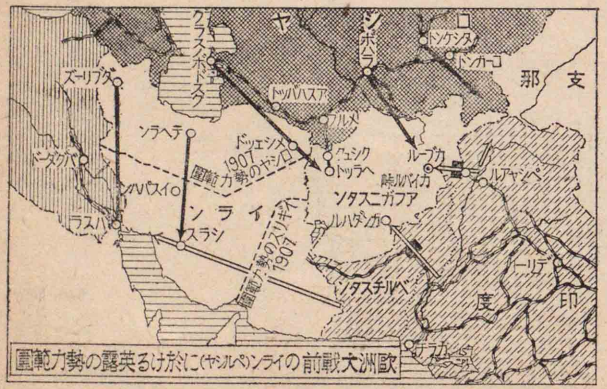


**植民地** 國家は國力が増進すると新しい土地を獲得して、過剰な勢力を移すことがある。本國以外に未開拓地を先占により、又は他國の領土を占領或は買収により獲得した土地を植民地と云ふ。植民地獲得は主に過剰人口の解決、原料品、食料品の獲得、加工品の賣買等の經濟上の理由に因る。植民地には本國の移民を收容する移住植民地、専ら資本を投下して生産物を獲得する投資植民地、交通、商業上の要地を占める商業植民地等がある。世界の主要植民國はイギリス、フランス、イタリア、オランダ、ベルギー、ソヴィエト聯邦等概ねヨーロッパにあり、他の地方にあるものは日本、アメリカ



カ合衆國等にすぎない。殊にイギリスは世界最大の植民國で、その植民地は全世界に亙り、太陽の沒することのない英帝國を組織してゐる。  
**租借地** 他國の領土を一定の期間借受けたものを云ひ、支那に於けるイギリス、フランスの租借地、パナマに於けるアメリカ合衆國の租借地等がこれである。

**保護國保護領** 一國が他國の主權の一部を握つてこの國の施政を監督するとき、この他國を保護國又は保護領と稱する。マレー聯邦、ボヘミア、モラヴィヤ、スロヴァキヤ等はこの例である。  
**委任統治地** 世界大戰の結果、ドイツ及びトルコの領土のうちで國際聯盟の管理に屬し、更にイギリス、フランス、ベルギー、日本等がその委任をうけて統治してゐる土地を云ふ。委任統治の形式にはA式、B式、C式の三種があり、それによつて受





減しなければならぬ。然るに今日列強中では、何れの國も容易に自給自足經濟を営むことが出来ず、強ひて自給自足に切りつめて、物資の需要を甚だしく減しなければならぬ。

**列國の資源** 自給自足の確立が必要となるにつれて資源の問題が重要となる。資源とは或る時機に於て經濟的に利用されうる自然の力であり、食料や原料はこの力を利用して作り出された財である。列國の食料自給の程度は一樣でなく、又列國は何れも不足する原料資

合割給需源資の國列

糖砂	類肉	麥小	材木	毛羊	花棉	鉛亞	鉛	鐵鋼	
36	98	99	94	58	176	101	81	103	カリメア合
20	58	28	7	15	0	2	10	115	スリギイ
106	99	102	110	72	96	99	59	100	トエフソ邦
99	42	99	85	15	0	0	2	130	スラフ
102	93	92	61	25	0	191	53	95	ーリタイ
99	99	89	81	12	0	73	32	124	ツイド
01	90	95	94	0	0	26	8	97	本 日

高入輸品製國外 □ 高鉄製の料原は石鐵入輸 ◻ 額産るよに源資内國 ■

するためには領土が廣大で、生産物の種類と數量とが豊富でなければならぬ。然るに今日列強中では、何れの國も容易に自給自足經濟を営むことが出来ず、強ひて自給自足に切りつめて、物資の需要を甚だしく減しなければならぬ。

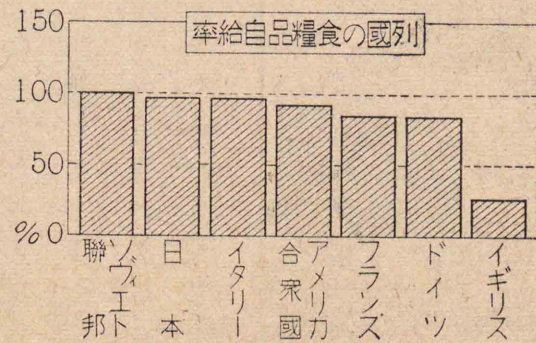
任國の施政方法に多少の差異がある。我が南洋群島はC式に屬する。

**勢力範圍** 一國が他國の領土内の或地域で、列國の承認又は默認を得た特權を有するとき、この地域を勢力範圍と稱する。

### 四 國家と經濟

**國民經濟** 一國の國民はそれぞれに適當な生業に従事し、分業の利を收めてゐると共に、同時にまた交換によつて結ばれて國民經濟を組織してゐる。國民經濟は近世國家の成立とともに發達して來たもので、國家の諸政策財政等の基礎である。

**自給自足**(アウタルキー) 國家が自己の消費する物資の多くを外國から輸入するのは有事の際に危険なので、列國は何れも自給自足の確立に腐心してゐる。國家が自給自足を得て、經濟的國家主義を確立



源をもつてゐる。列國の主な不足資源は次の通りであるが、植民地を入  
れるとこれと少しく趣を異にしてくる。

イギリス本國 棉花・麻・羊毛・ゴム・石油・錫・銅・鉛・亞鉛

フランス 棉花・羊毛・麻・ゴム・石油・銅・鉛・亞鉛

ドイツ 棉花・羊毛・麻・ゴム・石油・銅

イタリー 棉花・羊毛・麻・ゴム・石油・石炭・鐵・鉛・亞鉛

ソヴェエト聯邦 棉花・ゴム・錫・鉛・亞鉛

アメリカ合衆國 ゴム・錫

日本 棉花・羊毛・ゴム・石油・錫・鐵・鑛

**ブロック經濟** 經濟的國家主義に基いて自給自足を確立しようとして  
も、容易に得られないので、幾つかの國が團結して一塊となり、廣い土地と  
豊かな産物を基礎として、その間だけで自給自足經濟を營み、經濟上・政治  
上の有力者にならうとする運動が近年起つて來た。これを**ブロック經濟**  
運動といひ、**ブロック經濟**の行はれる範圍を**經濟ブロック**と稱する。**ブロック**

經濟は經濟的國家主義の上に立ち乍らも、他方で  
は國際的分業の利益をも或る程度まで享受しよ  
うとするもので、今日の有力な**經濟ブロック**はア  
メリカ合衆國**ブロック**・イギリス**ブロック**・フランス**ブ**  
ック・ソヴェエト聯邦**ブロック**・東亞**ブロック**等である。イ  
ギリス**ブロック**は現在最も廣大な地域を有し、ア  
メリカ合衆國・ソヴェエト聯邦**ブロック**と共に世界經濟  
上支配的な地位を占める。

**東亞經濟ブロック** 世界經濟最近の動向に應じ

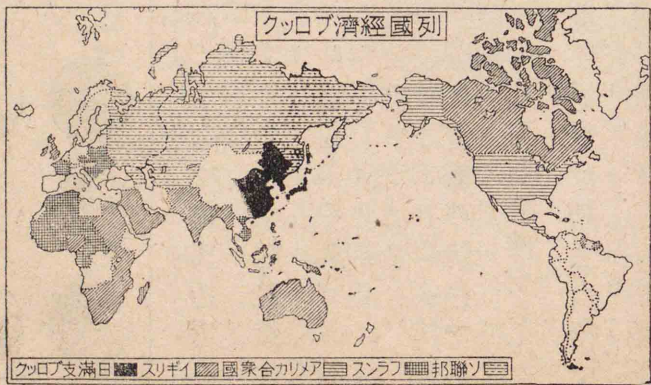
て建設されたもので、昭和六年の滿洲事變後日滿

ブロックとして出現し、昭和十二年の支那事變後日

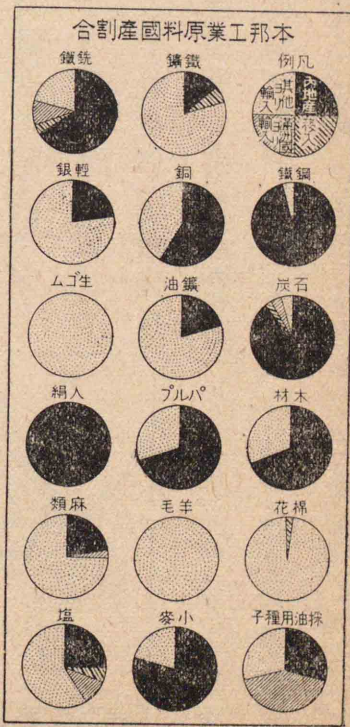
滿支ブロックとなり、更に最近印度支那・南洋を加へて東亞ブロックと擴大

した。面積と人口とに於て英米ソ各ブロックに匹敵するのみならず、包藏

する資源の豊富な點に於てもこれ等を凌駕するものがある。



我が帝國は肇國以來、御歴代の英明な 天皇の御稜威の下隆々たる發展をとげ、世界の最大強國の一となつたが、領土は大體狹長な日本列島にとどまり、天然資源の保有量は甚だ限られてゐる。食料の自給率は甚だ高く、中には輸出超過を示すものもあるが、重要な原料として輸出超過を示すものは生絲・硫黄位であり、外國よりの輸入に仰ぐものが頗る多い。殊に棉花・羊毛・麻・ゴム・石油・鐵鑛・ニッケル・錫・鉛・亜鉛・木材・パルプ等は多くを輸入に仰いでゐる。かくの如くに重要原料を輸入に仰ぐことは我が國民經濟の特色であるが、これは國家の獨立上寒心すべきことである。併し東亞經濟ブロックを通じてこれを見る時はこの状態は全く異なり、重要原料は殆ど自給できるやうになるものと期待されてゐる。これ帝國が指導者として東亞



諸國と經濟提携を行ひ、その資源を大規模に開發する必要のある所以である。

**東亞新秩序の建設と帝國の使命** 今や國力を總動員して着々と建設

されつゝある東亞新秩序は東亞諸國が相携へて政治經濟文化等各般にわたり互助連關の關係を樹立し、以て東亞に於ける國際正義を確立し、共同防共を達成し、新文化を創造せんとすることを骨幹としてゐる。思ふに世界の平和は萬邦が各、その所を得るに非ざれば確保されるものではない。これがためには各地方夫々の安定勢力となり、指導者たるの實力を有する國家民族が中心となり自己と地理的民族的文化的經濟的に相互に協力すべき國家民族と相合して廣大な地域を基礎とする單位を形成し共存共榮相互依存の分野を作り、その分野内に平和と秩序とを確立するとともに、更に同じやうにして成立した他の分野との間に相互依存共存共榮の關係を樹立しなければならぬ。然るに日本滿洲國はもとより支那印度支那南洋の諸國は地理的民族的文化的經濟的にも密接な

關係があり相互に協力して共存共榮の分野を作るべき運命をもつてゐる。かくて帝國指導の下にこれ等の諸國が協力して共存共榮の新秩序を建設して始めて東亞の天地に正しき平和の基礎が確立されるのである。り、しかもこれを達成することは帝國肇國の精神に淵源する帝國の神聖な使命であり、我等帝國國民に課せられた光榮ある責務である。我等國民たるもの粉骨碎身舉國一致、東亞新秩序確立の大業を達成し、天壤無窮の皇運を扶翼し奉り、國勢の發展をはからなければならぬ。

實業地理教科書 概説之部 改訂版 終

改訂新佐藤實概説

昭和昭和昭和昭和昭和  
 和和和和和和  
 十十十十十十  
 六六三三二二  
 年年年年年  
 一一一七  
 月月月月月  
 十五十一  
 五五十一  
 日日日日

印發修  
 正正正  
 三三三  
 版版版  
 發行刷刷刷

實業地理教科書 概説之部 改訂版	定價金 九拾錢
------------------------	------------



著 作 者

佐 藤 弘

發 行 者

株式會社 三省堂  
 東京市神田區神保町一丁目一番地  
 代表者 龜井 豐治

印 刷 者

株式會社 三省堂蒲田工場  
 東京市蒲田區仲六郷一丁目五番地  
 代表者 喜多見 昇

發 行 所

株式會社 三省堂  
 東京市神田區神保町一丁目五番地  
 振替口座東京三一五五五番  
 株式會社 三省堂大阪支店  
 大阪府西區阿波座下通二ノ六

廣島工業學校  
長尾清

廣島工業學校  
長尾清

広島大学  
長尾清

広島大学図書

2000041419



庫

1

19